CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

GA060n0065

鴈山志

明 朱諫撰　胡汝寧重編

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 版本說明
  - 卷首
    - 序
    - 重修敘
    - 目錄
    - 凡例
    - 遊雁蕩雜詩
      - 老僧巖
      - 石梁洞
      - 靈峰洞
      - 石芝峰
      - 五老峰
      - 龍鼻水
      - 剪刀峰
      - 僊人橋
      - 天柱峰
      - 獨秀峰
      - 響巖
      - 大龍湫
      - 遊雁山畢，晚飯能仁寺
      - 登雁山最高處二首
    - 鴈宕雜咏
      - 能仁寺
      - 剪刀峰
      - 大龍湫
      - 展旗峰
      - 屏霞峰
      - 天柱峰
      - 玉女峰
      - 龍鼻水
      - 卓筆峰
      - 獨秀峰

- 僧抱石
- 水簾洞
- 靈峰洞
- 五老峰
- 石梁洞
- 老僧巖
- 鷹巖
- 雙鸞峰
- 含珠峰
- 托硯峯
- 石門潭
- 遊雁山
- 鴈山行
- 寄龍湫上人
- 鴈蕩歌
- 秋日偕僚友游雁宕二首
- 過四十九盤嶺宿能仁寺
- 大龍湫
- 剪刀峰
- 天柱峰
- 展旗峰
- 玉女峰
- 卓筆峰
- 鴈山觀瀑八韻
- 靈峰寺
- 靈巖寺
- 石梁洞
- 觀海亭
- 觀海亭　用韻二章
- 觀海亭和　道尊車韻
- 天柱峯
- 龍湫高頂
- 天柱峯和胡四尊韻
- 龍湫高頂和韻
- 呈查盤胡四尊
- 靈巖寺
- 龍湫
- 靈峰寺

        - 能仁寺
        - 鴈山漫懷三絕
        - 同鄭無功世丈酌靈岩寺
    - 雁山寺圖
        - 一、雁山總圖
        - 二、本覺寺圖
        - 三、凌雲寺圖
        - 四、寶冠寺圖
        - 五、能仁寺圖
        - 六、古塔寺圖
        - 七、飛泉寺圖
        - 八、普門寺圖
        - 九、羅漢寺圖
        - 十、石門寺圖
        - 十一、瑞鹿寺圖
        - 十二、華嚴寺圖
        - 十三、天柱寺圖
        - 十四、靈峯寺圖
        - 十五、真濟寺圖
        - 十六、靈巖寺圖
        - 十七、淨明寺圖
        - 十八、石梁寺圖
        - 十九、雙峯寺圖
        - 二十、剪刀峯圖
        - 二十一、大龍湫圖
    - 鴈山紀勝
- 山名
- 山界
- 開山次第
- 通山徑路
- 谷
    - 水簾谷
    - 安禪谷
    - 會賢谷
    - 南閣谷
    - 北閣谷
- 湫
    - 大龍湫

- 小龍湫
- 上龍湫
- 峯
  - 東谷諸峯
  - 西谷諸峯
- 泉
  - 龍鼻泉
  - 劒鋒泉
  - 摩訶泉
  - 合掌泉
  - 溫湯泉
- 巖
  - 梅雨巖
  - 天柱巖
- 石
- 潭
  - 下培潭
  - 西龍潭
  - 大龍湫潭
  - 小龍湫潭
  - 照膽潭
  - 梅雨潭
  - 白雨潭
- 池
  - 騰池
- 洞
  - 天聰洞
  - 龍遊洞
  - 石洞
  - 新月洞
  - 羅漢洞
  - 古洞
  - 風洞
  - 南碧霄洞
  - 北碧霄洞
  - 道松洞
  - 道姑洞
  - 石佛洞

- 溪
  - 新溪
  - 筯竹溪
  - 白溪
  - 九折溪
- 澗
  - 筯竹澗
- 峽
  - 經行峽
- 門
  - 石門
- 嶼
  - 卓嶼　馬家嶼
- 閣
  - 南閣　北閣
- 嶺
  - 東嶺
  - 丹芳嶺
  - 飛泉嶺
  - 謝公嶺
  - 馬鞍嶺
  - 溫嶺
  - 西嶺
- 障
  - 屏霞障
  - 連雲障
- 橋
  - 行春橋
  - 星橋
- 寺院
  - 序
  - 能仁寺
  - 靈岩寺
  - 靈雲寺
  - 雙峯寺
  - 靈峯寺
  - 寶冠寺
  - 羅漢寺

- 瑞鹿寺
- 飛泉寺
- 石梁寺
- 本覺寺
- 古塔寺
- 石門寺
- 普明寺
- 天柱寺
- 華嚴寺
- 淨明寺
- 真濟寺
- 附
  - 白巖寺
  - 明因寺
  - 實相寺
  - 崇德寺
- 菴
  - 觀瀑菴
  - 八扇菴
- 堂
  - 資深堂
- 亭
  - 看不足亭
  - 忘歸亭
  - 翠微亭
  - 藍玉亭
  - 鴈山書院
- 仙釋
  - 木葉老人
  - 窺鏡童
  - 偷桃僧
  - 陳覺
  - 諾詎羅
  - 宋全了
  - 景宣
  - 寒坑龍
  - 五百羅漢
  - 遠夢和尚碑文

- 土産
  - 茶
  - 杜鵑花
  - 觀音竹
  - 方竹
  - 筋竹
  - 金星草
  - 金線草
  - 鳳尾草
  - 龍鬚草
  - 石菖蒲
  - 緑草
  - 櫻粟
  - 百合
  - 鈎胎
  - 黄精
  - 薯蕷
  - 何首烏
  - 山蘿菔
  - 金釵石斛
  - 雪裏開
  - 金線重樓
  - 金銀花
  - 香薷
- 鳥獣
  - 白鸚
  - 錦雞
  - 練鵲
  - 金雀
  - 山樂官
  - 山羊
  - 熊
  - 玉面狸
  - 竹豚
  - 獾豬
  - 野豬
  - 田狗
  - 香狸

        - 五段狸
        - 猴
    - 魚類
        - 香魚
        - 石門鯉魚
    - 詩
        - 五言絕句
            - 宋
                - 能仁賜額
            - 國朝
                - 望鴈山
                - 羅漢洞
                - 石梁
                - 龍湫
                - 憶山
                - 度謝公嶺
                - 照膽潭
                - 靈峰洞
                - 仙人橋
                - 響巖
                - 展旗峰
                - 天柱峰
                - 獨秀峰
                - 玉女峰
                - 龍鼻水
                - 剪刀峰
                - 度馬鞍嶺
                - 大龍湫
                - 宿能仁寺
                - 早行鴈山
                - 老僧岩
                - 石梁洞
        - 七言絕句
            - 宋
                - 過靈岩寺
                - 過鴈山
                - 過靈岩
                - 過靈峯

- 龍鼻水
- 過淨名
- 送夏元鼎歸鴈山
- 元
  - 送輔賢出山
  - 贈靈岩秀禪師
  - 雪屋為通上人之第作
- 國朝
  - 入鴈山
  - 遊鴈山
  - 龍湫和韻
  - 寄題鴈山書院
  - 和尚巖
  - 石梁
  - 玉女峯
  - 鴈山四絕
  - 梅雨岩
  - 偃人橋
  - 展旗峰
  - 登龍湫背
  - 龍湫二絕
  - 次鶴泉上龍湫背
  - 龍湫
  - 天柱峯
  - 玉女峯
  - 龍鼻水
  - 靈峯洞
  - 僧抱石
  - 龍鼻水
  - 大龍湫
  - 靈峯洞
  - 靈巖寺
  - 登龍湫背
  - 龍湫
  - 石梁洞
  - 觀大龍湫漫興
  - 出鴈蕩山，見海上舟行，口占
  - 天柱峯

- 五日雨游鴈宕觧疑山靈兼柬龍塘憲使五首
- 五言律
  - 宋
    - 重遊鴈山
    - 大龍湫
    - 鴈山寶冠寺
    - 遊鴈蕩
    - 石門菴
    - 壽昌道中
    - 龍湫觀瀑
    - 靈岩靈峯
    - 淨明
    - 鴈山
    - 龍湫
    - 觀音岩
    - 天聰洞
    - 維摩室
    - 巖居僧
  - 元
    - 代送彥明
    - 能仁方丈
    - 淨名寺
  - 國朝
    - 宿靈峯寺
    - 大龍湫
    - 宿能仁
    - 龍鼻嵓
    - 鴈山次韻
    - 能仁
    - 過丹芳嶺
    - 再過丹芳嶺
    - 靈峯
    - 大龍湫
    - 能仁寺
    - 靈嵓
    - 石門次韻
    - 龍湫寺
    - 靈嵓次嚴二守韻

- 遊蕩北最高峯
- 大龍湫
- 大龍湫次韻
- 靈峯寺
- 龍湫道中
- 秋夜宿龍湫古寺贈上人
- 宿靈嵓寺
- 曉入能仁寺
- 遊能仁寺
- 靈岩
- 六賢祠
- 次文谷
- 宿能仁寺
- 宿能仁寺
- 宿能仁寺
- 宿能仁寺次文谷韻
- 過鴈山
- 靈峰廻文
- 大龍湫
- 龍鼻水
- 遊雁山

- 七言律
  - 宋
    - 荅樂清尹周邠寄鴈山圖
    - 迎趙清獻公遊鴈蕩
    - 約遊鴈山
    - 淨名寺
    - 西瀑布
    - 卓筆峯
    - 雙鸞峯
    - 送劉方叔、李文仲遊鴈山
    - 瑞鹿寺
  - 元
    - 瀑布
    - 鴈山次韻
    - 贈國性菴入鴈山次韻
    - 遊雙峯寺，贈覺上人
    - 和遊鴈蕩

- 遊鴈山能仁寺
- 簡五峯
- 常雲峯
- 寄題大龍湫和李五峯韻
- 宿龍菴懷友

- 國朝
  - 大龍湫
  - 龍湫
  - 遊鴈蕩
  - 能仁寺漫興
  - 入鴈山
  - 雁蕩
  - 秋夜偕應黃二子宿靈巖天
  - 靈峯
  - 石梁
  - 長至宿鴈山
  - 龍湫
  - 靈嵓
  - 上劉五清提學遊鴈山
  - 鴈山呈諸同遊
  - 遊鴈山
  - 遊能仁寺
  - 聞二謝先生遊鴈蕩
  - 過鴈山
  - 鴈蕩
  - 靈峯
  - 約遊鴈山，至栢山而返
  - 鴈山紀行
  - 重陽前一日遊鴈山能仁寺和韻
  - 遊鴈蕩三首
    - 一
    - 二
    - 三
  - 鴈山有感
  - 龍湫
  - 遊雁山
  - 早度四十九盤嶺
  - 入雁山

- 龍湫即事
- 秋日陪諸公遊鴈山
- 靈岩寺
- 詠鴈山
- 宿能仁
- 石梁洞
- 羅漢洞
- 宿靈岩
- 能仁
- 雪洞
- 鴈山
- 鴈山
- 鴈山
- 靈峯
- 鴈山春行
- 約遊鴈山
- 鴈山午眺次古韻
- 秋日同友人遊鴈山
- 鴈山次韻
- 遊鴈山
- 登鴈山
- 登鴈蕩山
- 過能仁偕僧觀龍湫諸勝
- 觀龍鼻水
- 憩能仁寺次何寘岩韻
- 遊鴈山
- 龍湫
- 雁山次韻
- 遊龍湫
- 雨後同朱靈谷入山
- 大龍湫
- 靈岩寺
- 靈峯洞
- 石門潭
- 靈峯洞
- 玉女峯
- 宿能仁
- 靈峯洞

        - 龍湫觀瀑
        - 宿能仁候觀察吳公不至
        - 龍湫谷有懷壺梁山
        - 次韻酬蕩南先生遊鴈山
        - 九日同吳願夫登鴈山最高處
        - 風洞寄懷吳千峯先生
        - 龍湫偶書
        - 遊鴈山歸途
        - 遊鴈蕩
        - 靈峰洞
        - 靈峰洞
        - 靈峯洞
        - 靈巖寺
        - 靈巖寺
- 五言古詩
    - 晉
        - 斤竹澗越嶺溪行
        - 石門山
        - 夜宿石門
    - 宋
        - 遊鴈蕩
        - 度謝公嶺
        - 遊靈岩靈峯，寄輝老禪
        - 遊鴈蕩
        - 和立齋先生鴈山韻
        - 遊靈岩
        - 宿靈岩贈長老敏行
    - 元
        - 大龍湫
        - 遊石門
        - 觀龍鼻天柱，贈欽上人
        - 同靳從矩宿鴈山天柱院
    - 國朝
        - 游雁蕩
        - 北鴈步虛詞
        - 送葉澄遊鴈山還金陵，兼呈大司馬喬公
        - 石梁
        - 小龍湫

- 入雲峯
- 鴈山夜坐
- 靈峯洞
- 靈巖
- 龍壑軒夜坐
- 靈岩次韻
- 龍壑軒次韻
- 石梁次韻
- 遊龍湫遇雨
- 常雲峯初至作
- 石梁
- 入龍湫
- 鴈山
- 將入鴈蕩雨，甥樂清飲西塔院
- 張使君招同鄭中丞、陳茂才登西皋塔院，用中丞公韻
- 夏日偕徵君何無咎、茂才陳納之，自能仁寺抵石梁洞
- 大龍湫注自鴈湖，飛瀑千丈，是山中奇絕處
- 入靈巖眺玉女、雙鸞諸峰
- 大龍湫，用鄭中丞韻
- 登龍湫背

- 七言古詩
  - 宋
    - 淨名寺
    - 鴈蕩山
  - 元
    - 龍鼻水聽琴，為劉芳在作
    - 龍湫行，送軒宗冕歸山
    - 和沈憲副遊鴈山韻
    - 瀑布歌
    - 大龍湫
    - 龍鼻泉歌
    - 同五溪萬公酌瀑布下
    - 過鴈蕩山中
    - 龍湫
    - 鴈山從事有感屆行賦此
    - 排律
- 五言
  - 題靈岩寺

        - 靈岩寄跡
        - 過靈岩寺
    - 七言
        - 遊鴈蕩
    - 古詩長短句
        - 登靈峯
        - 鴈蕩吟，送秦文學還吳
        - 鴈山書院
        - 鴈蕩篇，和許松皐韻
- 序
    - 宋
        - 鴈山圖序
    - 國朝
        - 遊鴈山詩序
        - 修鴈山志序
        - 修鴈山志序
        - 雁山續集敘
        - 鴈蕩靈巖寺疏序
        - 遠夢說贈魁上人
- 記
    - 宋
        - 記鴈蕩山
        - 鴈山記
        - 詔復能仁寺碑記
        - 白岩院記
        - 勅賜靈岩寺額記
        - 鴈山十記
            - 始入鴈山觀石梁記
            - 遊靈峯硐記
            - 暮入靈岩記
            - 靈岩二奇記
            - 訪欽禪師過馬鞍嶺記
            - 大龍湫記
            - 宿能仁寺東菴記
            - 遊惠上人開西谷記
            - 鴈名山記
            - 秋遊鴈蕩記
        - 遊石梁記

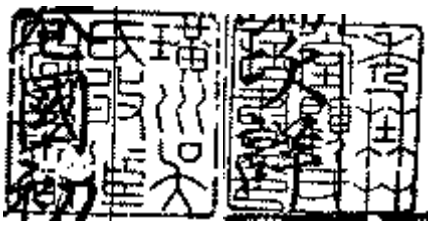
        - 國朝
            - 遊散水岩記
            - 遊鴈山記
            - 鴈蕩山重建靈巖佛殿記
            - 遊鴈宕山記
            - 遊雁蕩記
    - 後跋
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3
    - 4
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

明萬曆二十九年(　一六〇一）樂清知州胡氏刊本
註：是志刻本今存故宮圖書館，其中漏頁三處，茲以鈔本配補之。

鴈山志序



《鴈山集》一卷，國初僧永昇編次，詳畧無法，猥雜偽作不足徵。至是，大夫蕩南朱公自吉郡歸老山中，搜落選幽，九得殘碑缺簡、賢儒父老之所傳述，合如干簡，勒成四卷，號《鴈山志》。以余謬當茲邑，宜敘。敘曰：夫鴈山可不謂善勝已乎！甌海東西巖谷泉洞，島渚卉石，臺榭殿廡，耀乎嶄然，何啻什百，獨稱鴈蕩。雁宕之生久矣。其間投足而遊、聚廬而處者，何啻什百，獨劉器之、焦伯強、王龜齡、章大經數大君子，一言一行，具書在《志》，其餘曾不得列姓焉。若夫謝公之蠟屐，寔未一至，騷人顧唧唧好言靈運，至于今不廢，然則物所託於不朽，信自有足恃耶！《易》有之：「天在山中，大畜。君子以多識前言往行，以畜其德。」志者，識也。賢者識其大者，言欲純事，書欲純理，其足以自畜如此志，固宜。不賢者竊識其瑰奇登之小而已。葢前世嘗有留連茲土者，忘其國恤而逐世娛，百姓廢耕桑，治道牽馬，奔走絕命，其意猶以為未足，民由是疾視厥山，或相與目為尤物。嗚呼！此豈山之性哉。初，子朱子、子張子偕遊南嶽，酬唱終日，動中倫慮，猶乃凜然深惧喪志，卒定約而去。及康侯胡先生過衡，愛其雄秀，望而不登，曰：「非職事所在。」晚居山下五年，竟亦不出也。夫張弛在時而不在物，遊息以道而不以己樂，山如是人，豈有病之者哉！《詩》云：「高山仰正，景行行止。」雖不能至，余心嚮往之。

旹嘉靖己亥秋八月之吉新安樸溪潘潢序

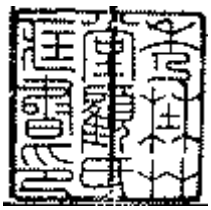
重修鴈山志敘

樂邑在浙東南之濱，其山脉自天台走海上，至此則石骨嶙峋，巃嵸崔嵬，奇形怪態，刻削天巧，海內好樂之士爭慕之，即不獲遊，亦必索圖志，以髣髴覩其山川之勝。然每以刻久字刓，不便觀覽為恨。余治樂之二年，適兵道唐公出示察院馬公鴈山紀勝詩三十

韻，命入志前，且令考舊志，仍加鋟明。余遂求先續二志及近日詩文若干卷，統皆翻刻，以不負唐公之命，而得縱目於騷人詞客之所為，大都誇詠其瑰崴絕特之狀，登臨觀之美，亦云俑矣。而新安樸溪潘公一序，獨切切焉。慮民疲於供命之艱，先是置之末簡。余竊謂古人之用心，果好異乎？昔齊景公欲為轉附朝儛之觀，而晏子進以興發補不足；范文正公記岳陽樓，以直寫其江湖廊廟之憂；盖士君子致君澤民之猷負之素定，誠不以玩物遷也。公之意其在斯歟？其在斯歟？公，前樂清令也，余去公遠，不及盡得其當時治樂之所設施，然傳者謂公誠心愛民，靡事炫餙，觀此益信。不然，昔今之令樂者凡幾，而公，民有專祀，崴時奔走不懈，豈人力也哉！因移其文，弁於山志之首。是役也，博稽精校，蔣生國輔、林生有鳳，與有勞焉，得併書之。

旹萬曆辛巳秋八月之吉南昌胡汝寧識

鴈山志目錄



卷之一
山名
山界
開山次第
通山路徑
谷
湫
峯
泉
池
巖
石
洞
潭
溪
澗

峽
門
嶺
障
橋
梁
卷之二
寺院(十八剎建置沿革　東外谷四寺)
庵
堂
亭
附
仙釋
卷之三
草木(藥品附)鳥獸(鱗介附)
卷之四
詩
序
記
賦

目錄(終)

凡例

- 羣賢詩文，凡切於鴈山者録，膚淺浮泛者刪。
- 舊志兼録人物，夫人物雖鍾光嶽而生，然記載乃縣誌體，故茲不録。
- 鴈山所産動植之物，與他處同者不録，但録其特異者。
- 羣公製作，如王梅溪、李五峯詩文，入選者多。盖二公詩文宗匠，而東西外谷又其誕生之區，景物飽諳，故多録。
- 山志嘉靖間兩經修輯，有前集、續集，繼此使軺往来製作甚夥。寺廢僧亡，稿半遺失，今姑録其存者，并為一集。
- 開山徑路、佛剎沿革、峯巒溪瀑，皆仍其舊。
- 鴈山奇蹤跡靈跡，難以指數，茲因舊志缺畧者稍補之，餘俟博洽君子詳焉。

凡例(終)

遊雁蕩雜詩

銅梁張佳胤



老僧巖

面空山不記春　獨留天眼閱風塵
須彌四九金相　化作頭陀百丈身

石梁洞

虹影高懸紫石梁　洞門天放海霞光
匡牀欲借和雲卧　又報僊源道路長

靈峰洞

鐵千尋劈巨靈　天門中斷列僊庭
消搖自隔人間世　朝暮雲封不用扃

石芝峰

十丈金莖秀可餐　葳蕤雲擁一峯端
商顏滿地非難拾　到此令人欲羽翰

五老峰

五老比肩立洞門　五星上應天三垣
斟酌北斗帝有命　携爾同行朝至尊

龍鼻水

跨洞青龍睡未廻　細聽鼻息欲成雷
平吞玉筋寒生骨　絕勝芙蓉露幾杯

剪刀峰

海霧粧成玉女裙　天衣欲進紫霞君
但憑刀尺操倦掌　任爾青山細剪雲

倦人橋

飛梁矯首架層霄　不數銀河烏鵲橋
一曲白雲謠未畢　忽聽風雨似相招

天柱峰

萬峯何地不雲煙　一柱撐持帝象先
我亦愚公君莫懼　移来四柱上擎天

獨秀峰

舉目霞標自一峯　峰頭雲起見孤松
堪疑手植何人到　定有天倦跨白龍

響巖

欲響群山在鼓琴　宗生徒有卧遊心
何如長嘯當空谷　萬竅俱成鸞鳳音

大龍湫

雁蕩高翻百丈泉　奔雷吹雪捲雲烟
臨流朗誦青蓮句　真是銀河落九天

遊雁山畢，晚飯能仁寺

鎮日躭幽討　鳴鐘飯化城
蹊沿斤竹澗　風送瀑泉聲
古寺漸薪莽　孤僧出柴荊
山川憐謝客　又作永嘉行

登雁山最高處二首(有跋)

攬轡東遊亦壯哉　乘風謾躡此崔嵬
天開雁蕩千峰出　雲擁滄溟一鏡廻
乳結懸匡凝若雪　瀑飛削響成雷
憑欄何恨蒼茫思　搔首乾坤試舉杯

捫蘿徙倚最高峰　矯首雲霄似可從
東指扶桑縈若木　西瞻葱嶺削芙蓉
洞中僊去還来鶴　巖下雷鳴欲起龍
廓恰期湖海願　便將五嶽徧靈笻

萬曆癸未春，予巡行東甌，因至茲山，徧歷諸名勝山。山絕奇神思，勃勃飛動，不能盡賦，賦此嶺。

右張文熙書

鴈宕雜咏

大梁劉芳譽(號際明，郡守，前御史)

能仁寺

楓露新澄野寺虛　萬山飛鷲待停車
老僧岩畔獨持缽　玉女峰前疑借裾
風激雙湫龍蓊後　月明高沼鴈横初
普天形勝看將遍　奇絕曾無此地如

剪刀峰

並起雙峰迥不群　誤疑刀尺動宵分
中涵一線明如練　剪斷長天萬里雲

大龍湫

乍疑玉練瀉秋空　非雨非烟萬壑風
石夜深龍蛻去　獨遺秋水作飛虹

展旗峰

秋老霜林萬木丹　展旗不動暮雲寒
群峰似列啣枚伍　獨坐如登大將壇

屏霞峰

摩天峭俯禪關　炫目丹砂好鑄顏
恍惚仙源迷路處　亂霞飛遶赤城山

天柱峰

孤峰一望與雲平　萬仞支天類削成
不鎖金莖霄漢裏　露盤空向月華明

玉女峰

窈窕胡然玉琢成　恍疑眉黛遠山輕
貞堅自許心難轉　零露何妨宿夜行

龍鼻水

古洞陰森掛石龍　翛然短壑駕長松
鼻中點滴能消渴　帝澤初開海上封

卓筆峰

亭亭丈石類霜毫　勢入烟霄色並嬌
可是江淹夢遊處　墨蒼飛動片雲

獨秀峰

古石寒松逼太虛　層陰長日蔽雲區
無邊秀色真堪掬　天際千峰総不如

僧抱石

曇雲寶相自天開　時擁優傍草萊
髣髴毘城齋罷後　月明持缽獨歸來

水簾洞

百道飛泉小洞幽　水珠高綴狎烟浮
開簾欲作山中觀　一線垂天帶月鈎

靈峰洞

日月高懸古洞輝　岩聞清梵欲皈依
由来一宿通圓覺　何待仙源七日歸

五老峰

曽聞九野聚星辰　東井猶懸化石身
憶大人峰縹緲　相看俱是幻中真

石梁洞

山南山北霧濛濛　誰向中天駕石虹
莫問珠林何處是　鐘聲原在有無中

老僧巖

石上袈裟事已真　石頭長自厭風塵
懸知一片西来意　萬刼難灰不滅身

鷹巖

殊姿清絕化来真　獨立蒼巖幾度春
不逐玄雲摩碧漢　肯同飛鳥觧依人

雙鸞峰

青鸞雙起近雲霄　對舞雍雍神自饒
鎮日乘風飛不去　應知有意太平朝

含珠峰

縹緲雲中寶氣横　驪珠一粒價連城
峰頭夜夜光如月　何日飛還合浦明

托硯峯

雨霽孤峰秋色寒　高擎龍尾出雲端
輕烟殘葉繽紛下　疑灑蒼滿翠巒

石門潭

石門雲鎖倚天開　積水千峰倒峡来
怪道赤光潭底現　神魚昨夜化龍回

遊雁山

張德翀

朝遊雁峰頂　暮憩湫陽
冥搜謝公跡　苔封屐齒香
剥蘇讀古碣　席草飛羽觴
窮眄象緯逼　頫首江天長
玄雲翳峭　金鵝茁高岡
摘来不敢食　鵷鷺猶趋蹌
逶迤下林樾　思居恐太康
何如含香使　車馬日彭了
相期躰憂樂　眷念山民傷

鴈山行

符良佶(號他山，知縣，岩人)

十載羈懷憶鴈山　只今迢遞強躋扳
出門正怯風光好　始信山中歲月閒
為問山靈何乃爾　巨靈辟出舊僊寰
老僧當日空遺蛻　玉女何年動咲顔
丹鳳凌霄来日下　蒼龍帶雨出雲間
風淅淅　日珊珊　萬丈煙花下石[土*玄]
展旗為我来方好　卓筆憐予興未慳
天柱忽驚高屹屹　龍湫倦倚嚮潺潺
休足力　坐溪湾　滿地烟霞任我飡
怪石無名形自別　奇峰萬状認尤艱
多謝高僧頻指點　丹青玅手應難
多少幽奇看不盡　欲將詩句寫松閑
囘首斜陽留不住　馬蹄趁落霞還

寄龍湫上人

林宗元(教諭，號西崖，樂清人)

乾坤萬古孕精華　水窟山阿佛子家
蕩雁送秋雲斷葉　湫噓晝雨飛花
老禪棲定金為錫　騷客留題護紗
有約西風絆雙屐　遠從方外踏烟霞

鴈蕩歌

王士昌(號斗溟，給事，台州人)

鴈山秀出滄海傍　崩岩恆石凌蒼蒼
雕鎪萬象出巨手　造化精巧焉能蔵
我来裹糧游十日　賈勇芒鞋探奇入
雲煙半濕青霞裾　巖岫堪呼掌中出
始涉清溪流　白石何齒齒
看紫翠中　石門(岩名)相對峙
瞿曇泛海来何年(老僧岩)　袈裟負背叅青天
東睇危梁跨絕壑(石梁)　晴空百尺飛虹懸
迤逶重陟謝公嶺　灌木垂蘿白雲冷
更從嶺上望靈峰(寺名)　一朶青蓮披玉井
將軍石(將軍岩)立如營門　對舞雙鸞(峰名)躍紫氛
照膽潭(潭名)澄奩鏡啟　璚芝玉笋(三峰名)何繽紛
石豁兩崖如合手　百級丹梯懸洞口
洞中[窅-米+口]窱日月開　夏屋渠渠餘徑訌(灵峯洞)
鬪鷄巖頭日易西　蹲虎(石名)疑從渡虎溪
五老(峯名)排空對趺坐　寶冠(峯名)高倚青冥低
應接不知疲　十里九涉澗
晨赤茅龍　午炊白石飯
靈岩寺右峰攢　龍準漿垂沆瀣寒(龍鼻水)
天柱(峰名)撑雲扶四極　屏霞障(岩名)日千盤

誰閃朱旗搖北斗(展旗峯)　寶光更見珠胎剖(含珠峯)
如椽彤管若書空(卓筆峯)　玉女(峯名)霞鬟躄螓首
天窗(洞名)暗穴不斷吹　安禪谷(谷名)傍石屏(峯名)危
軍持楊柳(淨瓶峯)洒天末　碧霄大小(二峯名)雙呈奇
一路連雲障(峯名)不絕　大士(觀音峯)巖端吐初月
淨明(廢寺名)重問講經臺　斷碣遺碑半殘滅
茆屋人家出近村　綠蘿蒼茨炊烟昏
馬鞍嶺限東西谷　不信咫尺排天閽
亂石怒流相歘薄　金剪(剪刀峯)裁霞何岧嶸
龍湫(大龍湫)蜿蜒下雲根　雷霆迸瀉明河落
峭周遭路欲窮　時聞萬馬嘶天風
氷簾玉柱清刺骨　置身疑在鮫人宮
常雲峰頭雲氣濕　瑞鹿泉(泉名)邊泉水急
言尋悟道賛皇祠　還開山詎那室
鴈湖絕頂不可攀　搔首踟躇未忍還
火焰山(山名)前餘古剎　殿廊半沒蓁蕪間(能仁寺)
山中相傳十八寺　至今存者一二耳
惟有諸峰秀不磨　梵宇銷亡等閒事
我来菅屨不敢停　冥搜直欲窮山靈
寧知造物忌多取　嵐烟白晝昏冥冥
吁嗟乎此山　石多海水囓
寰宇之中信奇絕　何殊天上芙蓉城　移来人世金銀闕
斤竹澗(澗名)旁懷謝公　當年蠟屐無留踪
愧我已同圖上駿　將無公好間龍
自古名區多代謝　豈為幽遐減聲價
我今紀勝長謠　游人好省詩中畫

秋日偕僚友游雁宕二首

彭夢祖(號生洲，副使，全椒人)

石門逶嶠訝崔巍　百一芙蓉面面開
谷口霧峰如湧出　洞中羅漢果飛来
人尋鳥道青蓮寓　水落龍湫白日雷
海內名山誰侶此　平生幽賞最奇哉

南戒峰高高天　石門秋色正蒼然
香炉寶冠空中現　鼻瓊漿洞裏懸
古木吹風疑虎過　野花連屋有僧眠
鴈湖只在烟霄上　父老猶傳沉塔年

過四十九盤嶺宿能仁寺

何士晋(號武莪，推，宜興人)

七七峰迴磴　三三寺起鍾
泉聲飛燕尾　焰色點芙蓉
籟入珠林　香浮瑞靄濃
曉来推戶看　石幾雲封

大龍湫

懸崖玉練挂晴空　噴雪飛珠幻莫窮
自是蛟龍能變化　商霖只在此巖中

剪刀峰

百尺天孫雲錦囲　全馮隻手此刀開
只因欲補山龍衮　不為霓裳剪裁

天柱峰

孤峰屹立矗雲根　半東南賴汝存
聞說深山多採使　想應移取到天門

展旗峰

萬高懸大将壇　旗開八面擁層巒
指揮一任風雲捲　未魅山妖膽自寒

玉女峰

春山為黛玉為肌　一片貞心永不移
莫怪露零沾夜草　從来雲雨未曾知

卓筆峰

日煖霜毫自染丹　雲烟掃盡墨花殘
而今蒼蘚封彤管　猶有龍蛇顥裏蟠

鴈山観瀑八韻

車大任(現任溫處分守道，湖廣人)

石門奇絕處　又入鴈山深
紺宇緣崖近　銀河何處尋
玲瓏珠玉屑　清净海潮音
挂常飛霰　入田廣作霖
夜杯光尚射　春服冷相侵
溪外鷗堪狎　峯頭鳥自吟
氷花忘歲月　石髓幻晴陰
一派天池合　千秋古木森
躋扳窮蠟　吏隱遂吾心

靈峰寺

丹梯千百丈　躋險詎辭勞
石屋雲炎裊　天[空-工+心]花影高
不知在人世　頓欲逞詩豪
下界鐘聲至　僊人叉奏璈

靈巖寺

寒雲迷嶺路　春雨亂旌旗
花樹常如舊　詎那不可知
洞幽龍臥穩　山合鴈来遲
卓筆峰何健　移来好賦詩

石梁洞

瀑布連三郡　石梁更有三
長虹懸絕壑　過客駐征驂
花倚飛泉媚　杯從落日酣
真空渾不碍　深[皮-(丨　/又)+(王/匆)]好窮探

觀海亭

便欲乘桴遠世氛　蓬萊僊子日為群
乍看風定舟帆合　轉覺烟消島嶼分
鳥衣鳥来空裏影　潮生潮落石邊文
宦遊幾度尋観海　驄馬追随有使君

観海亭　用韻二章

常道立(見任溫處兵巡道，湖廣人)

壯猷萬里妖氛　未許逃名鳥獸群
海島百年空際合　華夷一水望中分
潮囘沙渚浮蒼　石抱山関帶白雲
孤劒崢嶸何所倚　延平此日會逢君

又

雨餘曲磴絕塵氛　亭繞芙蓉秀不群
幾點漁舟葉泛　千屯虎旅列星分
鯨吞瀚海填巢土　鵬擊天池亂水雲
却憶蓬瀛應可到　渡杯何日謝明君

観海亭和　道尊車韻

吳國光(見任樂清知縣，廣東人)

邊鄙年来淨海氛　沙明浪鷺為群
參差遠島空中見　縹緲孤帆天際分
蚌室月明浮瑞氣　鯨宮風急長潮文
定知攬轡澄清志　舟楫功成報聖君

天柱峯

胡来朝(見任杭州府推官，贊皇人)

山削芙蓉翠上衣　白蘋紅樹両依依
禪僧入定鐘聲　秋草連天雁字希
絕好題司馬柱　慈幃曽斷樂羊機
寒雲極目三千里　安得周王八駿飛

龍湫高頂

登高雙屐當雲梯　面面奇巒五色迷
霜雁夜分驚曉日　神龍天際瀉長霓
身騎風雨諸天近　手拍閶闔五嶽低
鳥道扳緣誰到此　清狂自笑似昌黎

天柱峯和胡四尊韻

吳國光

宿霧空濛曉濕衣　從遊秋思正依依
巖前芝秀禪心　洞口霞封俗駕希
一柱孤高凌碧漢　千山特出暎晴暉
金莖承露真堪擬　矯首長空白鴈飛

龍湫高頂和韻

百仞高巔不可梯　平湖迢遞路應迷
龍藏潭邃浮靈氣　鴈去泉飛捲彩霓
覽勝乍看諸剎近　憑高轉覺萬峰低
使君剩有登臨與　丹壑追隨好杖黎

呈查盤胡四尊

吳國光

鴈山巖硐故奇哉　天遣観風此日来
萬里星辰随使至　千山花木待陽開
磨崖選石留僊蹟　對酒登高見賦才
自愧芹無可献　夜凉翹首望三台

靈巖寺

朶朶芙蓉四面開　靈巖一眺更奇哉
天朝柱石元端立　帝子霞裳待剪裁
山遠有僧飛錫至　波平何客折蘆来
龍頭更訝泉如露　欲献君王作壽杯

龍湫

眺覽名山勝不群　蒼崖紅樹鎖寒雲
天邊飛瀑千尋練　潭上流虹五色文
景入畫圖看不足　寺連鍾磬相聞
龍藏靈瑞昭昭在　願洒甘霖遍九垠

靈峰寺

千林紅樹挂寒烟　乘興尋幽思杳然
笑我山遊從此日　問君寺復始何
山前屹立僧為石　洞裏清冷玉作泉
此衣群峰應可遍　乍聞鐘磬出諸天

能仁寺

前村何處採芙蓉　来扣能仁寺裏鐘
雁翥平湖懸朗月　龍蟠飛瀑裊長松
開山當日遺禪蹟　度嶺今朝憶謝蹤
題罷酒酣思徃事　欲尋碑碣紫苔封

鴈山漫懷三絕

海內傳聞有鴈山　不知鴈亦幾時還
慚予凡骨非仙吏　那似禪僧鎮日閑

怪洞奇峰景可扳　遊人車馬幾曾閑
憑誰為借囲天力　一夜風雷徙鴈山

雁蕩龍湫殊景界　僊巖道境隔塵寰
題詩竹澗今猶在　靈運何緣失此山

同鄭無功世丈酌靈岩寺

幽洞層崖舊有名　同遊此日若為情
十洲島嶼元仙闕　東海芙蓉幻化城
雁宕流霞疑繡色　龍湫飛瀑颯秋聲
尊前詞客真能賦　俗吏匆忙愧未成

亦年九月聚清源　今月灵岩共一尊
石筍千尋凌漢外　芙蓉萬片削山門
峯高天柱雲常護　障擁霞屏花正
握手筆峰談未盡　別途燈火亂前村


西湖
大龍湫
雁蕩山


天柱寺
真濟寺
飛泉寺

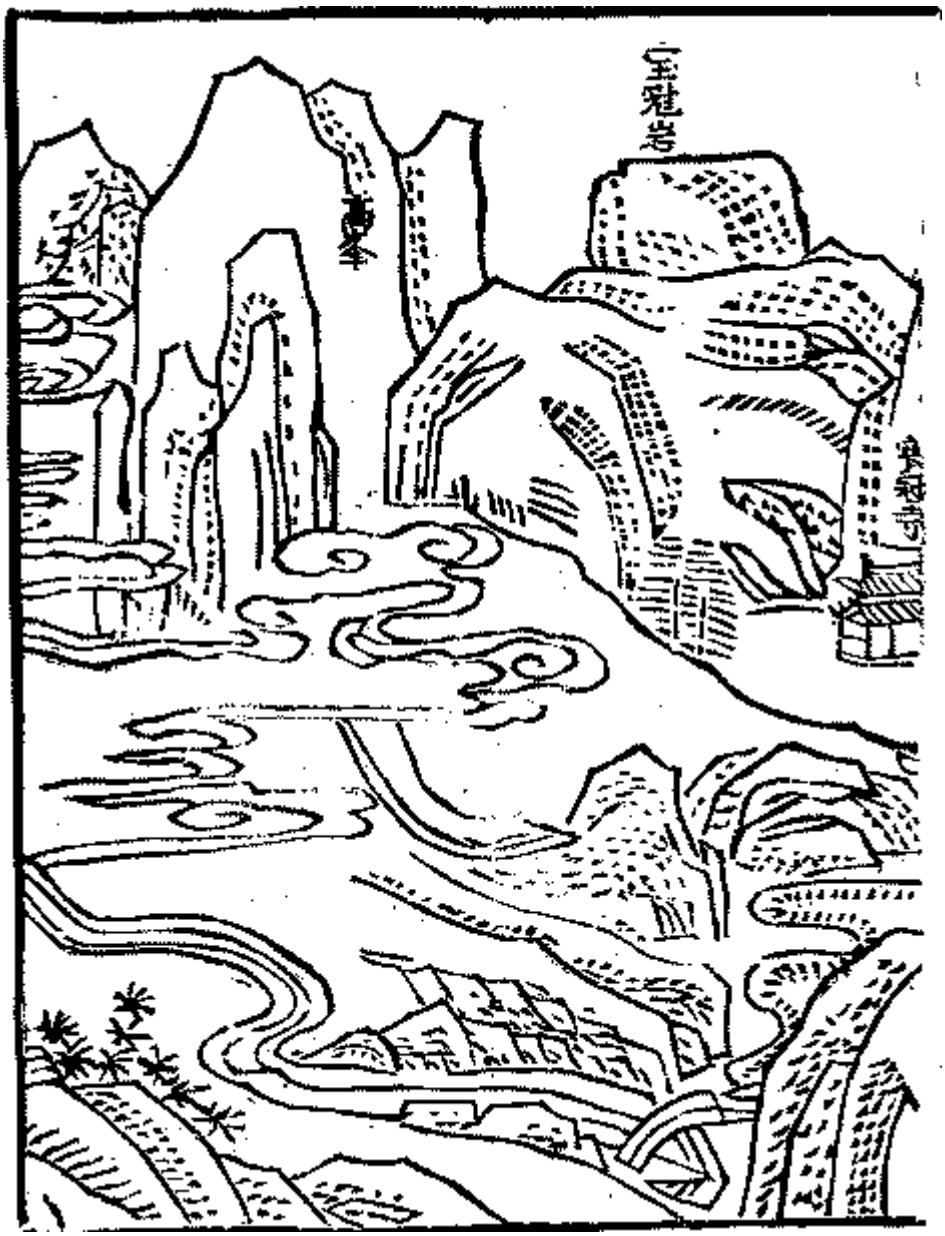

本覺寺圖


白雲寨


三
凌雲寺圖
石柱峯


高麗峯
含硃岩
愛


石梁巷
五龍山
南山洞


玉鬼岩


能仁寺圖
飛泉


七
雲花巷
能仁寺
大鐵
四十九盤嶺

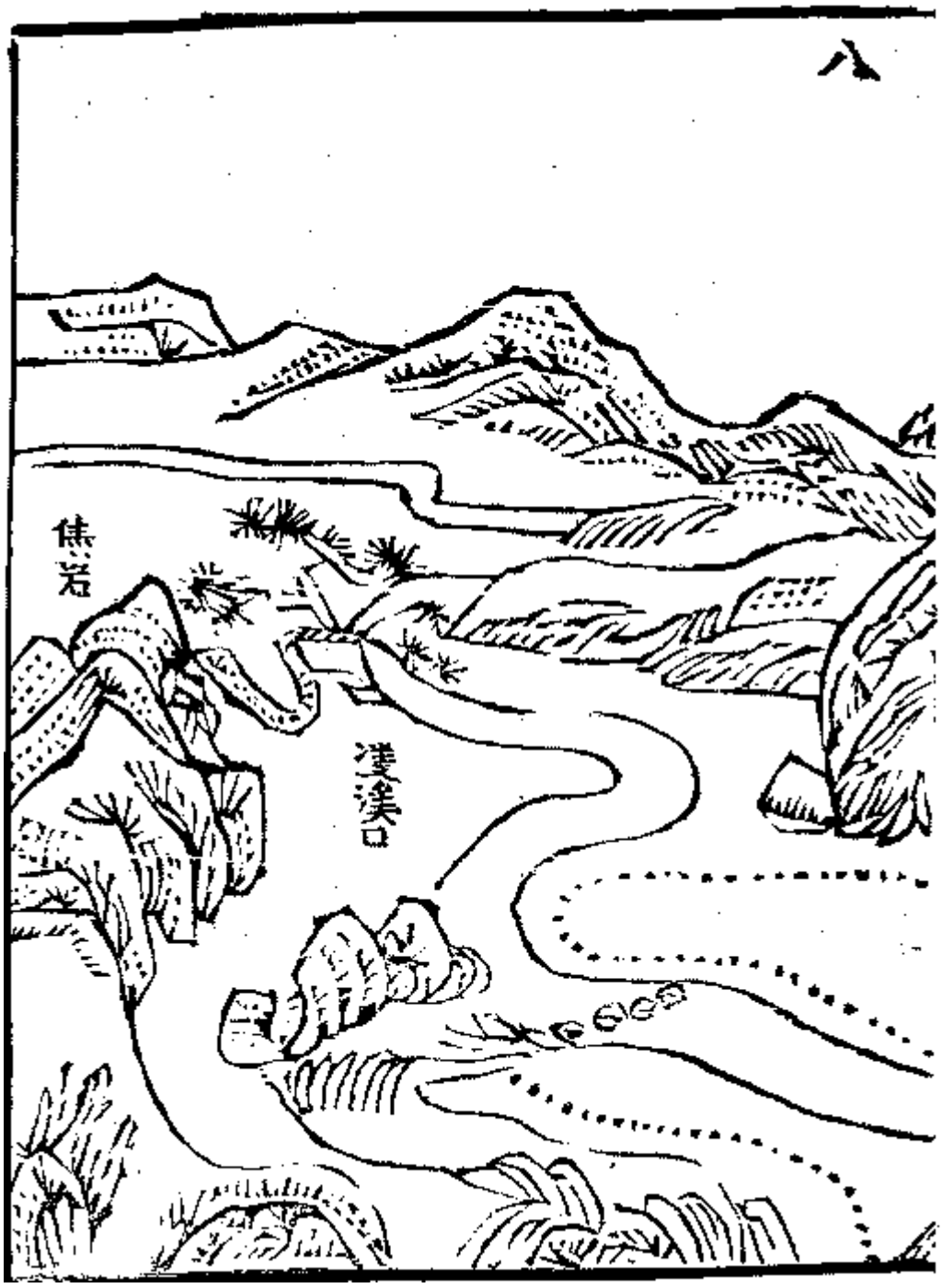

六
谷口岩
石龜石


古塔寺


飛泉寺圖
飛泉寺


飛泉
能仁寺


普門寺圖
普門寺


八
焦岩
溪口


羅漢寺圖
羅漢寺
投山塔
石泉塔


九
石

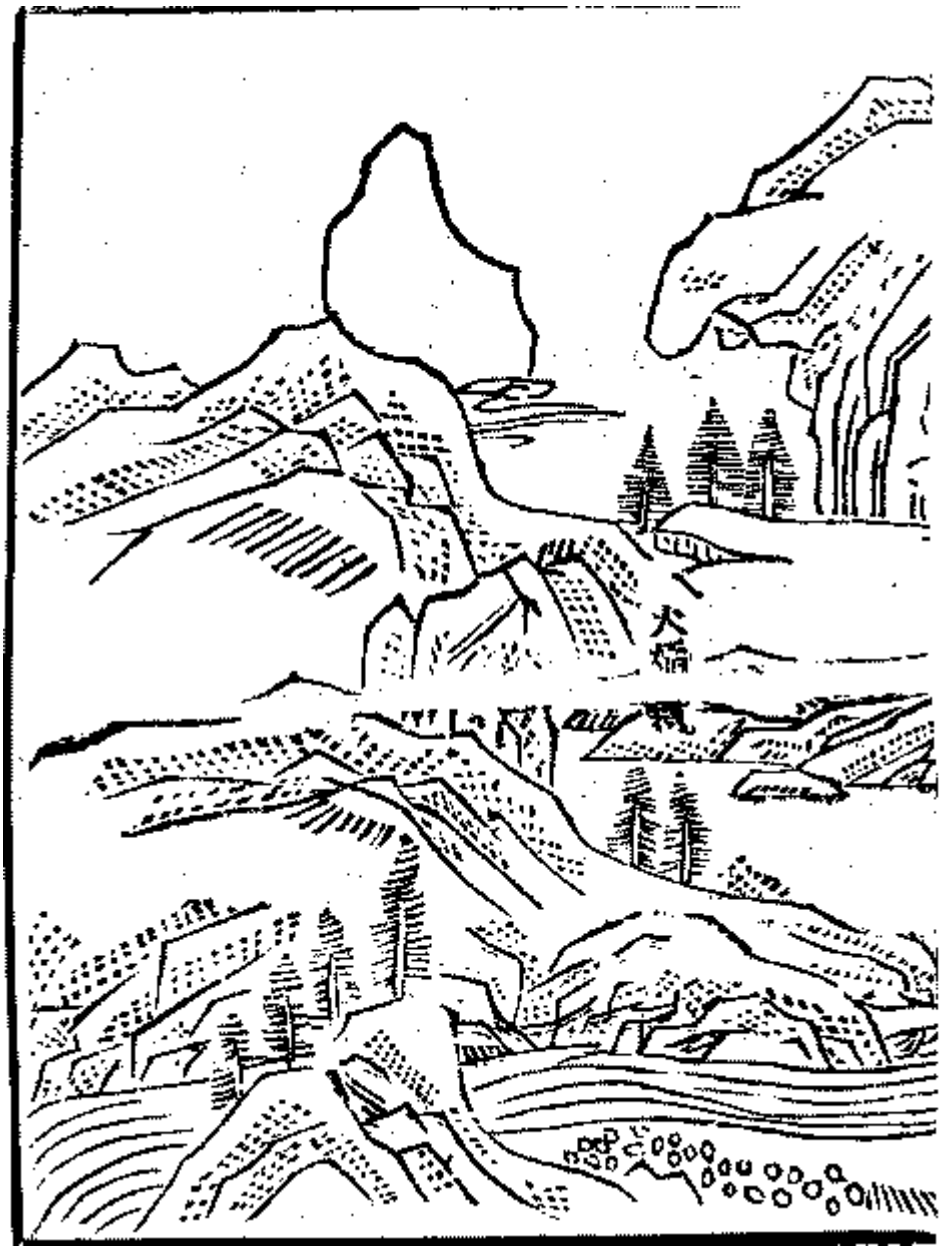

石門寺圖
石門寺

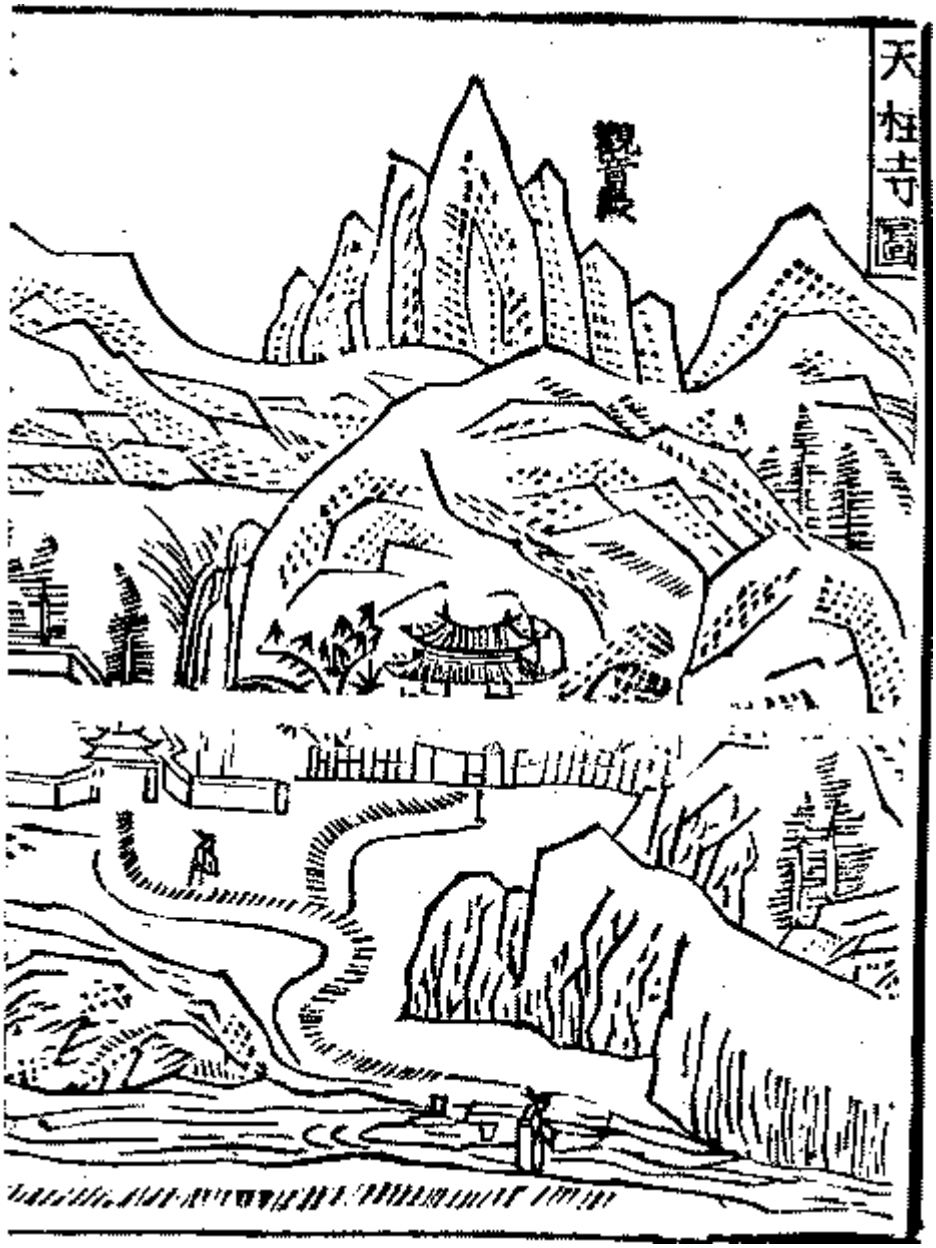

十
石門山


十一
瑞鹿寺圖
樹岩
寺基
道松澗


龍湫背
白雲菴
五臺二
僧所結
朝陽峯


華嚴寺圖


犬牾

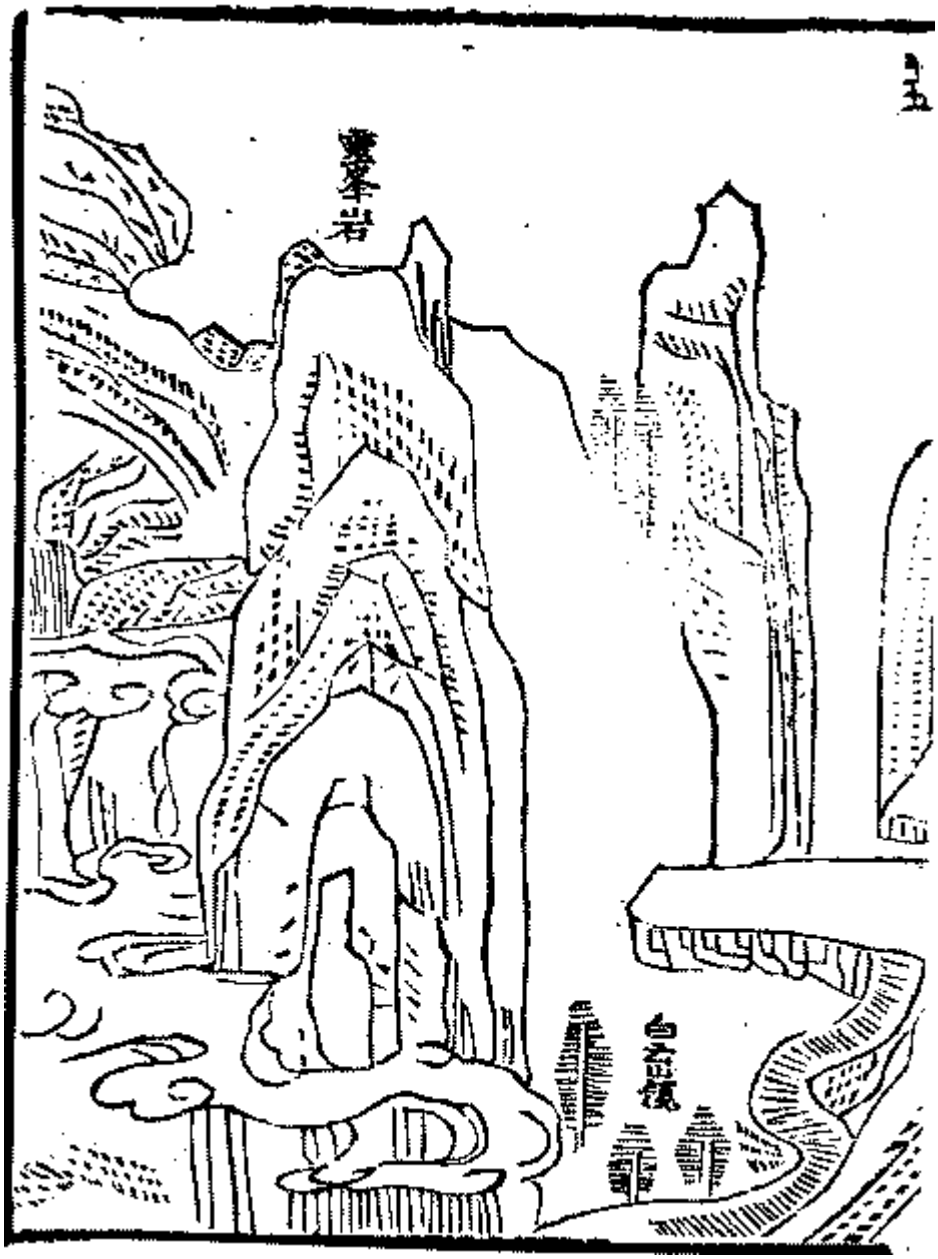

天柱寺圖


十二
天柱峯
天柱寺


獅子峯
仙掌峯
獨秀峯
雲巖
風潭
雙筆石

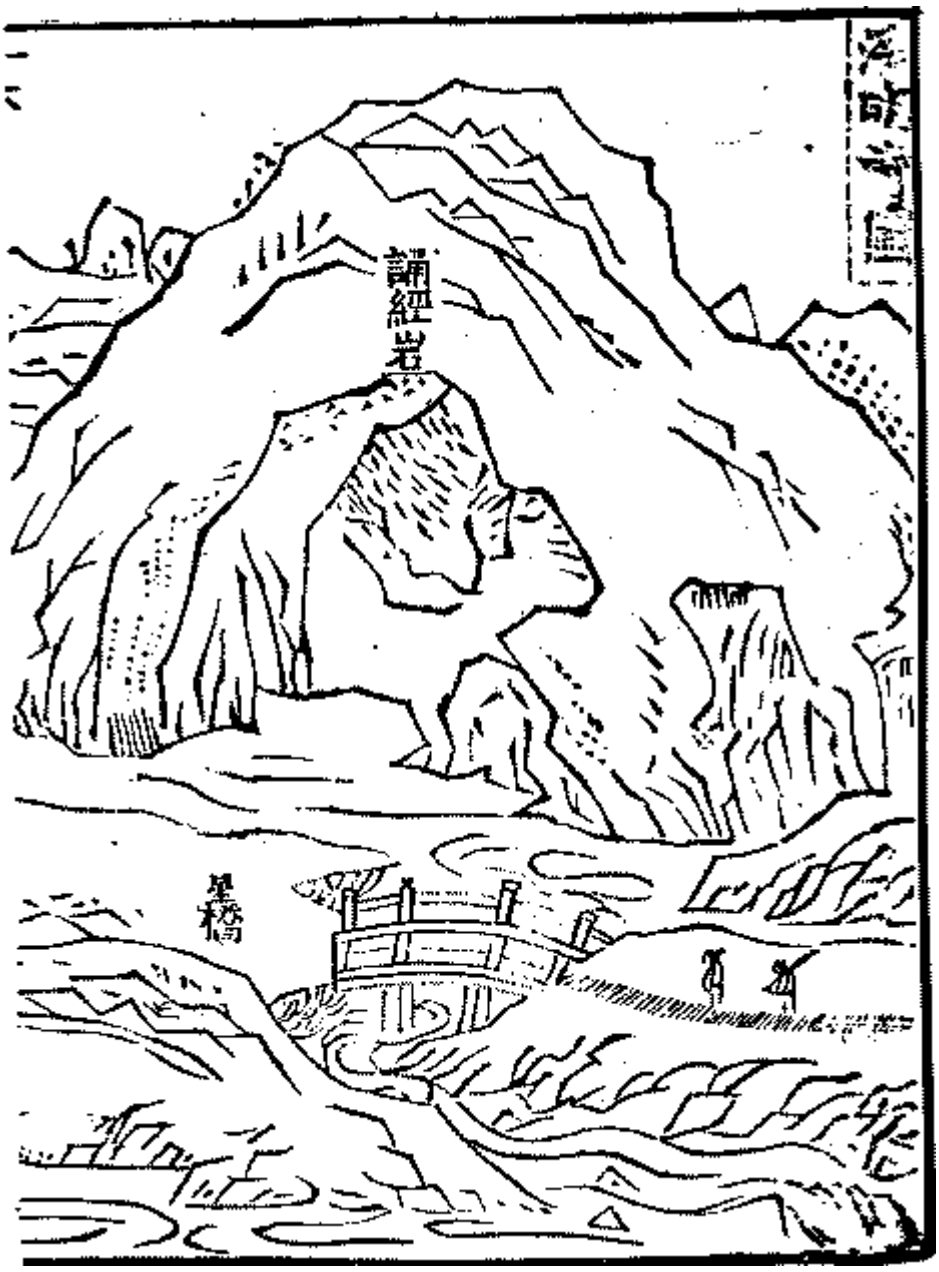

靈峯洞
鉢盂巖
靈峯寺


真濟寺圖
真濟寺


靈峯岩
白云山镇


靈巖寺圖
屏風障
天鳴井
石屏風


十二
天柱峯
天柱寺

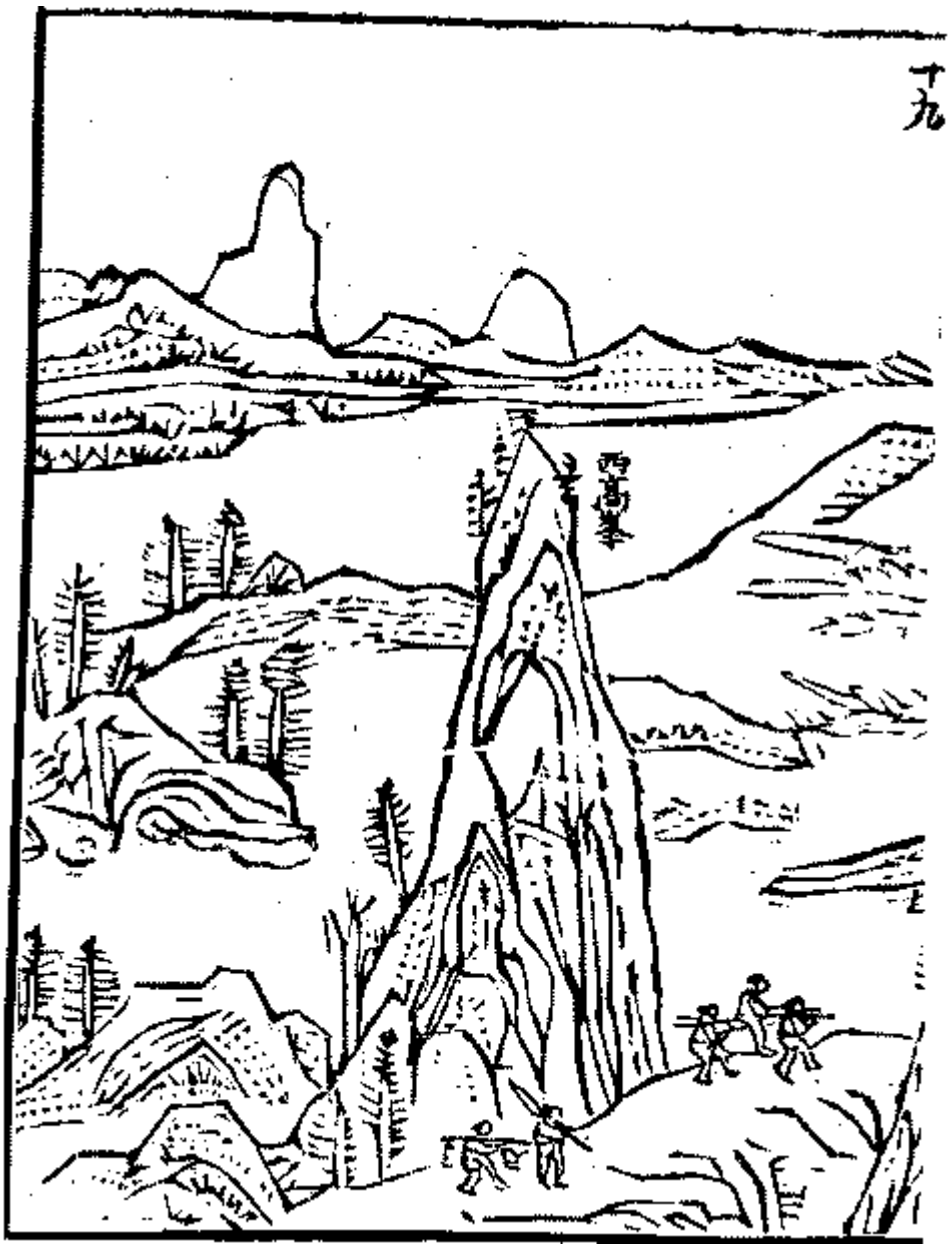

誦經岩
星橋


淨明寺
白溪口


石梁寺圖
石梁橋
大佛岩


十八
石梁洞
石梁寺


雙峯寺圖
雙峯寺
東高峯


十九



鴈山奇峯數十處，惟剪刀峯屹立澗水中，傍無所倚，高數百丈，兩股如蟹螯，望若剪刀，然峯之最秀而奇者也。餘不能一一遍圖之。



鴈山瀑布數處，惟大龍湫高數百丈，懸崖瀉下，隨風變態，尤為勝絕。撮而為圖，以例其餘，不能一一遍而圖之也。

鴈山紀勝(並用東冬兩韻)

平明發嶺店　驅馬石潭東(驛屬樂清前即石門潭)

地靈先獻巧　酷肖僧伽童(潭前里許有老僧巖小童巖最肖)

古寺甃甍圮　遺墟蓁莽叢(石梁寺今廢)

山門非昔勝　石棟至今雄(上有石梁洞亦奇)

詢度稱周使　風流憶謝公(次為謝公嶺)

寶冠翡翠羽　彩岫鳳凰峯(次為寶冠巖為鳳凰峯)

碧月飄丹桂　青霄近紫楓(次為碧月丹桂逼霄諸峯)

凌峯攀絕磴　危洞鑿崆峒(凌峯寺亦廢有凌峯洞最佳)

五老風前度　雙鸞月下逢(洞旁有五老臺前有雙鸞峯)

瓊芝誇獨秀　鷹隼欲騫空(左有靈芝峯右有獨秀峯山上有石鷹)

試論百年事　何如一局同(洞口有棋盤石)

會當解朝幞　從尔卧烟松(有火小幞頭峯)

谷響臨青嶼　巖靈碧穹(次為響巖又次為靈巖寺新建)

霞屏開梵剎　天柱倚龍宮(寺後為霞屏嶂前為天柱中有龍鼻水)

玉女匀粧靚　胡僧禮石恭(有玉女峯禮石僧)

展旗氛自掃　卓筆賦誰工(有展旗峯卓筆峯)

便擬乘鸞去　疇能仗劍從(兩峯並峙亦曰雙鸞又有劍峯泉)

蟾生真皎潔　龜息更巃嵸(有蟾蜍峯靈龜峯)

照乘珠仍在　傳燈鉢已終(有頂珠峯鉢孟峯)

天孫金剪就　大士石屏封(次為剪刀峯石屏山觀音大士巖)

巒障渾如架　詞鋒可似虹(次為筆架峯)

澄清攬轡外　辛苦據鞍中(次為馬鞍嶺頗峻)

鴈蕩稻粱足　龍湫星漢通(次乃鴈蕩為龍湫飛瀑数百丈絕勝)

寒潭飛雨細　疊巘落霞濃(飛練水積為潭絕頂日照如錦)

日射蛟虬吼　風號虎豹登(右山開口如龍吟左山雙目類虎嘯)

雲間連帳幔　天際削芙蓉(周圍為連雲障洞口為芙蓉峯)

芳草山呈黛　夕陽火艷紅(能仁寺前有火焰山)

懷家未有鴈　度嶺且乘驄(前為四十九盤嶺)

巨那亭下鼓　能仁寺裏鐘(亭在潭側鼓響則瀑迅寺在山下官至則撞鐘)

浮名成底事　暫此叩禪宗(浮名好是閑真不若僧矣)

辛巳夏六月，余將巡歷象浦，道出鴈山，問巖令索圖焉。比至，則崇崖峭，孤峯飛泉，使人驚心奪目，應接不暇，盖非圖所能繪。若隨步換形，殊名異狀，山僧指點，歷能道之，又非圖所能盡者。余欲次第其勝，以志不忘。顧餘以文則隱晦而弗白，拘于韻則牽强而難周，乃輒為口占，不限聲律，非敢比作者，聊用序事云耳。

粵人連城馬象乾識

鴈山志卷之一

山名

鴈山，一名鴈蕩(宕同)，一名平湖，一名鴈湖。去縣東鄉九十里，高四十里，頂上有湖，方可十里，水常不涸。春鴈歸時，多宿于此，故名。或曰山勢最高，上有水蕩，惟鴈宿焉。

山界

北至蒼山(在永嘉縣，南溪寒坑外二十里，即蒼坡山也)。

東至溫嶺(一名溫嶠，其地常煖，冬月不寒，舊為溫之南界，溫州所以得名也。原屬樂清，今分隸台之太平縣)。

西至白巖(在東外谷北閤蕩陰，今有白巖寺)。
南至玉環山(在海中)。

開山次第

舊志，晉謝靈運為永嘉守，好遊山水，自郡城渡江上筯竹澗(有渡筯竹澗詩)。澗今在能仁寺東南山峽中，龍湫諸水所會入海處，去海十餘里。寺西北有謝公嶺，相傳是靈運蠟屐所經處也。又按西域書，諾詎那者(即諾詎羅)，天竺第五羅漢，居震旦大海際，讚曰：(每一羅漢西域書內有一讚，大略言其出處道場事)鴈蕩経行雲漠漠，龍湫宴坐雨濛濛。今龍湫諾詎那菴，其宴坐處也。俗傳諾詎那觀瀑坐化於此云。

宋太平興國元年，永嘉僧全了遊方至荊州天竺，遇一神僧謂之曰：汝緣在浙東，當得名山居之。永嘉有諾詎那者道場，適當興，師宜往訪，力成茲事。了，詰其所，曰：地以花名，山以鳥名，中有龍湫宴坐，此尊者棲息地也。二年歸，而遍訪諸山不遇。行至海濱，見山水清奥，因問其名。父老曰：芙蓉村鴈蕩山也。了大感悟，遂徃山中結菴於要會處，曰芙蓉菴(即今能仁寺)。至天聖元年，有僧文吉居山之東碧霄峰下，曰碧霄菴(即今靈峰寺)，開山靈跡始著，諸寺相繼而興。

通山徑路

舊志，右路自邑而往，道白沙、芳林，逾窖嵊，過長[檄-木+山]原徑古塔、本覺、寶冠、石門諸寺，出白溪驛(即今嶺店驛)而往台之巖。自巖来，由白若嶺入石梁，過靈巖寺，逾馬鞍嶺，至能仁，出長[檄-木+山]，抵窖嵊驛至縣。

一路由筯竹澗入(沿澗皆小徑)，抵能仁，過馬鞍嶺，至靈巖(靈運自永嘉渡江至海涯登岸，循澗路入山，度今之謝公嶺，嶺在馬鞍嶺北)，入南北閤，抵巖、永嘉界，路自邑之窖奥逾嶺至小芙蓉，上丹芳嶺(即四十九盤嶺)，抵能仁寺，寺在嶺下。逾馬鞍嶺至靈巖，出白溪至嶺店驛，似為捷徑，比舊路約省二十里。

又一小徑二處。一從南北閤来者，自謝公始。一從江邊龍平来者，自陌西始(陌西在驛路白峯嶺邊，當窖奥嶺店二驛折中處)。

又一徑從筯竹上飛泉寺，入能仁寺。其徑路崎嶇難行。

谷

以馬鞍嶺為界，分東西谷。嶺東有內谷、外谷，嶺西亦有內谷、外谷，計四谷。入山之路自西始，西外谷寺五(古塔、靈雲、寶冠、石門、本覺)，西內谷寺七(能仁、羅漢、飛泉、普明、天柱、華嚴、瑞鹿)，東外谷寺二(石梁、雙峯)，東內谷寺四(靈岩、名、靈峯、真濟)。

水簾谷

水自岩下散垂如簾，廬山康王谷亦有水簾，彼之循崖而下，不如此之飛墜而飄散可觀也。

安禪谷

在靈岩寺後石下，中虛如室，而外坦平，開山僧神朗所居。

會賢谷

在靈岩寺後。

以上俱東內谷。

南閣谷

在鴈山北支。

北閣谷

在南閣溪北。二閣以溪分南北。

俱在東谷外。

湫

大龍湫

一名大瀑布，在西谷能仁寺五里許。水自鴈湖合諸溪澗會成巨淵，淵側石檻有龍窟如井，狀深黑不可測。檻中作凹，石數百仞，水從凹中瀉下，望之若懸布，隨風作態，遠近斜正變幻不一，或如散珠、如驟雨、如飛麵、如濛濛烟霧；或飄轉而中斷，或左右分散而落，或直下如注，或屈轉如蜿蜒。觀者每立於潭外，相去數十步，水忽轉舞向人亂洒，衣帽皆沾濕，忽大注如轟雷，或為風所

遏，盤桓而不下，皆奇態也。廬山瀑布惟沿崖下溜無變態，似不及此，彼聞天下者，路出要區耳。

小龍湫

一名小瀑布，在東谷靈岩寺後。水自石城諸溪澗来，會于霞障右脇，從巖溜中飛流而下。高數百丈，山間好事者嘗準之，云大龍湫高五千尺，小龍湫高三千尺，而小龍湫之水惟直瀉下，其半沿崖，不能如大龍湫之飛舞作態，是為大小之別也。

上龍湫

一名上瀑布，在大龍湫上數里，自来人跡罕到，無有知者。近歲五臺二僧，曰白雲、雲外者，結屋徃居大龍湫上，於湫畔平土中種薑芋、菜菔自給。嘗散步至湫下，云與下大龍湫相似，飛流懸瀉，亦數百丈。地僻而人跡罕到，故鮮有知者。

峯

東谷諸峯

雙鸞　寶印　巃嵸　小卓筆　獨秀　重樓　茶爐　石指　天柱　展旗　招賢　獅子　伏龜　礪齒　石碑　天冠　總角(一名童子)　金　蓮花　迎陽　石燕(下有小石屏)　碧霄(一名逍遙嶠形如轎)　凌雲　朝天　五雲　雙穴(下有連雲障)　橐駝　戲獅　犀角　香爐　倚天(一名獨秀)　鳳凰　超雲　丹桂　象牙　玉蟾蜍　芝草　虎蹲　龜子　藥杵　架海　朝陽(西谷办有朝陽)　佛掌　皷槌　覆船　捲螺　缽盂　三賢

以上四十八峯俱東內谷

石佛　獅子　雙峯　老人峯　吹簫(志無，見《梅溪集》)

以上五峯俱東外谷

西谷諸峯

紫極　棲鳳　華陽　戴辰　戲龍　群鳳　田鸞　石龜　朝陽　瓊臺　石笋　卧龍　凌霞　瑞鹿　抱兒　獅子　石碑(一名紫薇屏)　立笋　削玉　卓筆　天樂　宴坐　常雲　剪刀

以上二十四峯俱西內谷

連珠　靈犀　獅子　山冠　石表　立戟　羽人　射垛　含珠　含翠　朝陽　靈芝　二仙　招賢　寶冠　寶簪　石鏡　鳳凰　香爐　伏虎　天冠　獅子(西內谷、東谷各有獅子峯)五雲　雙穴

以上二十四峯俱西外谷

泉

龍鼻泉

一名龍鼻水，在東谷靈岩寺後大石龕內。從寺後上石磴，盤數十折至龕口，口高數十丈，深十餘丈，皆石，龕脊石色皆紫黑色，中嵌橫石作鱗，甲狀陷入石中，從下視之，獨見其脊隆然外露，宛若龍形，繞下數十丈，勢盡乃垂入龕底作懸鼻。如小瓠壺而稍長，石色紺碧而膩滑，鼻端有小孔，出泉水，時時一下滴。僧人以小盂盛之，云：洗眼可以祛翳疾。客至此，皆脇息胹燥，取以潤渴，則清寒不可着。齒雖暑月，如飲冰客，或坐龕下小酌，歌笑絃管之聲，繞間不即出，悠揚石罅，最為可聽。

劒鋒泉

在小龍湫下，稍西湧出，石罅直上，指二尺許，形如立劒，自遠望之，則光明瑩潔而搖動。觀者駭愕，莫知其端。意者湫水下擣于潭中，勢甚急，迸出石罅，故直上也。石罅有小稜，故作劒形。凡水自高而来者躍處必高濟南跑，突泉亦出地數尺，相傳是黑虎泉，自高原潛行地中，至此而突出，亦此類也。

摩訶泉

在東谷摩訶者，梵語也，相傳天久旱，僧人作呪，以祈水卓錫於此，泉即湧出故名。

合掌泉

在東谷出石間，形如合掌，泉發掌中。

溫湯泉

在靈岩寺後，霞障右脇懸崖石室中，室中有窪，窪中有泉，冬煖如湯，寺僧相傳。昔有羅漢常浴於此，至今石路上有平偃跡，石室乃其憩息地也。

按浙下無溫泉，惟此有之。惜乎産於幽谷深崖，而人跡罕到也。

巖

梅雨巖

在西外谷岩上，有水飛洒而下，濛濛然常若梅雨。

天柱巖

在西外谷，狀如天柱峯，頂平而大。盖銳而秀者曰峯，平而大者曰岩也。

白雨岩　火焰岩　童子誦經岩(狀如童子，常聞有誦經聲)　文英岩　寶陀岩　寶香岩

以上五岩俱在西谷

觀音岩　橐籥岩　注金岩　石相岩　楞嚴岩　神跡岩　文會岩　霹靂岩　棲真岩　神王岩　石臍岩　修道岩　赤石岩　侍郎岩(宋胡侍郎讀書所)　騰波岩　巾子岩　響岩(狀圓，孤立溪中，行人語其側則隨聲相應)　說法岩(陳覺說法處)聽泉岩

以上十八岩俱在東谷

散水岩　隱山岩　石佛岩　仙岩　讀書岩(章恭毅公讀書所)　方岩(在鴈山東趾溫嶺內，二謝先生所居)

以上六岩俱在東外谷

石

招賢石　大梁石　石鏡　石天窗　石塚

以上五石俱西外谷

虎蹲石　覆盂石　鴟尾石　圓羅石　石門柱(二石對立如柱)　石城　石茶爐

以上七石俱在西谷

僧抱石(一名僧寶石)含珠石　龍潭石　飲羽石獼猴石　觀音石(在龍鼻水下，元時有一監司持去，渡江逢惡浪，投諸水後復得於故處，詳紀異)　石廡

石明堂　石屏風　石魚　石倉　石斛　石橋　大小石屏風　石碁枰　石浮屠　石室(中空底平，如室可居)　石居士　小石屏

以上十九石俱在東谷

石梁　石行廊(鴈山西趾　公洞石廊尤為勝絕)

以上二石俱東外谷

潭

下培潭

在筯竹澗，深廣幽邃，傍有龍王廟，祈雨有驗。

西龍潭

鴈山龍潭數處，惟此潭祈禱應，水亦奇秀。

大龍湫潭

在大瀑布下巖石間，瀑水直瀉入潭，潭水常沸。潭邊有慈濟廟，旱時祈雨多有驗。僧官詮上人嘗言其靈異跡，事見紀異。

小龍湫潭

在小瀑布下，潭傍多恆石，水跳躍出石間，奇態有過於大龍湫者。

以上四潭俱西谷

照膽潭

在靈峯寺外，廣數十畝。水自巨岩亂石出，滙成深淵，絕清可見底。

梅雨潭

在靈峯寺側，瀑水自崖飛瀉下，每風起，水吹着人，常濛濛如四五月梅雨然。

白雨潭

在靈峯寺側。

以上三潭俱在東谷

池

騰池

在東谷。其水騰躍而上出。

洞

天聰洞

在東谷。靈岩寺後大石壁間，壁有巨穴，望之若人之耳竅然，故名。

龍遊洞

在東谷。舊傳龍過處而成此洞，古云龍不見石，理或有之。

石洞

在東外谷。舊縣志云洞在山腰，天陰聞有雞犬聲。

新月洞

在東谷。狀如初月，故名。

羅漢洞

在東谷。靈峯寺後，幽深秀絕，中如廣厦，傍有石室，皆可居。僧不設屋，就洞卧起，冬溫而夏涼，內塑應真像五百身。相傳過客至誠，瀹茗則往往成乳花。(見紀異)

古洞（一名烏洞）

在東谷馬鞍嶺下小谷中，空敞可畝許，水自項上石縫中飛洒而下，洞中水深三四尺，產小魚如鰍，不堪食，土人呼為水和尚。水

從洞門出，灌稻畦數頃，居人恒厭夫遊者，詒之從他徑去，故人亦鮮知之者。

風洞

一在大龍湫右側連雲障絕上，每大風將作，則洞口木葉飛舞轉急。居人候之，則明日大風作矣。

一在照膽潭上路側石崖中，洞口大如斗，有風自口中出，附口處草皆外偃，牧牛小兒常羣集于崖下，以手向洞，云夏可取凉，冬可取溫也。予適冬月過洞下，令人試之，皆言近手處若向火，盖陽氣自地而發，土穴中皆能通洩，夏之凉者，陰氣也。

南碧霄洞

在靈峯寺後，深邃而清幽，多奇石。

北碧霄洞

與南碧霄洞相對，中隔溪水，亦多奇石。

道松洞

在瑞鹿寺後，深廣可容數百人，是住僧道松所開。

道姑洞

即陶公洞。世傳陶弘景修煉於此，乃陶公洞也，方言訛而為道姑耳。洞在鴈山西北趾，去山六十餘里，在永嘉界上。鴈蕩多石山，而洞乃純石也。洞外有巨石，長可數十丈，平坦如牀。側立者如屏風，內有石室二重，宛如堂房。其路平熟，常若有人来往者。洞外巨木數百株，有熊棲其上。

石佛洞

在南閣山中，洞口四石相倚，水自石出，路可側行，宛若二門。石梁横跨澗上，緣梯而上，躋禮佛壇，西北岩龕三石佛巋然蒼莽間，若相次而行，相肩而語者。不知高幾百仞也。壇上一小石

碑，題曰：邑令葛逢率僧法成義超同瞻石佛。熙寧乙卯仲夏晦日刻。

溪

新溪

在鴈山北，蕩水北出為新溪。東流會于寒坑、板藏、大溪，南入于海(袁采記)。寒坑龍潭最為奇勝，水自蕩頂流下、經寒坑南注蒼山之坡，從楓林、當溪、石柱、古廟、潮際以入甌江。寒坑以下皆名南溪、以蕩水南流得名也，俱永嘉地。

筯竹溪

在筯竹澗下，水從大龍湫出，經龍平塘入海。

白溪

在鴈山東白若嶺下，水自靈峯諸谷中出，東流入于海。舊有白溪驛，今遷于嶺北大荊、曰嶺店驛，相去十餘里。

九折溪（一名石溪）

在鴈山北閤，水從鴈山東北諸谷中出，東行十餘里，與大龍灘合流，東會于石門入海。

澗

筯竹澗

在能仁寺東南山峽中，水從大龍湫下。靈運渡江遊鴈山，初從此澗入，有渡筯竹澗詩(見文詞)。

峽

經行峽

在能仁寺東南五里近，水自大龍湫来，出筯竹澗入海。唐僧貫休為諾詎那贊云：「鴈蕩經行雲漠漠，龍湫宴坐雨濛濛。」後人因以名峽。

門

石門

在鴈山東北，蕩陰諸谷水所會也。兩崖屹立，望之如門，水從門中出，大小計一十八水。門內外俱成巨淵，水漲時深可二十丈。門側水底石中有龍井，仰口如圓甑。居人嘗見夜間有赤光馬。

相傳原是一山，元至正間，山水瀑出，有龍自鴈山乘水而下，觸山斷為兩崖，而中空若門。按《梅溪集》，梅溪先生下第時，嘗過石門，有詩記水勢之危險。宋前雖無所考，靈運集中亦有石門詩一首，疑即此石門也。若然，則由来遠矣。至正間水發而龍觸者，好事者為之也。大抵山川開闢之初，人莫得而測焉。(康樂梅溪詩俱見文詞下)

嶼

卓嶼　馬家嶼

俱南閣水口。蕩陰諸水皆經於此而下石門。二嶼參差對立，狀如卓筆，尖秀圓直而鬱然。章恭毅公第在上游約里許。自台入鴈者，望二嶼，宛若大華表然。古人謂是鴈山之北戶，又為鴈山之眉目云。自今諦視之，誠猶室之有門戶，人之有眉目也。

閣

南閣　北閣

俱在蕩陰高原。外有環抱，中土寬平可居之地也。蕩水自西北而来，界於中流。南曰南閣，北曰北閣，土壤饒沃，人物繁衍。恭毅公第在南閣底。

嶺

東嶺

在鴈山西南。入西內谷至能仁寺，東北出驛路。

丹芳嶺（一名四十九盤）

在能仁寺西。入西內谷，寺在嶺下，嶺路盤轉四十九折，山極陟峻，故羊腸其狀也。

飛泉嶺

在能仁寺東，南通筯竹澗，路上飛泉寺。

謝公嶺

在靈岩寺東，通石梁寺，入南北閤，又出驛路。相傳靈運遊鴈山時蠟屐過此，故名。

馬鞍嶺（一名石城嶺）

在能仁寺東北五里許，逾嶺至靈岩寺。嶺背石凹，狀如馬鞍，故名。

溫嶺（一名溫嶠）

在東外谷，鴈山東趾也，去能仁寺四十餘里。其地常溫，溫州所以得名。舊屬樂清，今分隸台之太平。

按鴈山舊志，云東至玉環山，山在嶺南大海中，則溫嶺又是鴈山至內之地也。

西嶺

在能仁寺西，由羊瑞坑度嶺出長[檄-木+山]。

障

屏霞障

在靈岩寺後，高廣數百丈，石色如塗丹堊，龍鼻水，安禪谷在其下，溫泉、石室在其上。

連雲障

在西谷瀑布，左右連亘里許。左半崖有雙穴如人鼻孔，謂之閻王鼻。右半崖有風洞，呼嘯則風至。

橋

行春橋

在能仁寺前，西谷諸水，由橋下出筋，竹澗入于海。

星橋

在淨明寺前，傍視橋下空明如星，極其精固，至今畧無震動。俗傳昔僧富，鎔銅鐵作而成者。

鴈山志卷之一(終)

鴈山志卷之二

寺院(十八剎建置沿革)

鴈山寺宇凡十有八。鐘梵之音，聞千百里；贍僧之田，贏於萬丈。及其衰也，僧稀寺廢，斷礎遺墟，凄然於烟草之中，遊人亦罕至矣。訊之於僧，興廢以三百年為一輪廻云。

能仁寺

在西內谷丹芳嶺下(即四十九盤嶺)，相傳諾詎那為開山祖。

按西域書，第五位尊者諾詎那大阿羅漢續居震旦南大海際鴈蕩山。又云：龍湫雁蕩，乃吾佛弟子諾詎那尊者之化都也。詎那至山中觀瀑，遂坐化焉。宋太平興國元年丙子，僧全了入山結菴而居，名芙蓉菴(詳開山下)。至咸平二年，始建殿宇。四年，寺僧進百宝塔，賜名承天寺。政和七年，以禁中有承天寺，改能仁寺。紹興十二年，郡守丘昕奏改能仁禪院，遂為鴈山大道場。後皇舅太寧郡王請寺為奉先地，詔賜額曰時思薦福寺。至乾道七年，以太上皇后命復為能仁寺。元至正丙午，遭兵燹。

國朝洪武二十四年立成叢林，至三十一年，僧曇竺修建殿宇，後圮。萬曆六年，督撫常熟徐公栻重建。

靈岩寺

在東內谷太平興國四年，僧行亮、神昭(即神朗)挈瓶荷錫，共訪幽奇，得鴈山安禪谷居焉。新市蔣光贊為建殿宇，寺之山水靈秀，名聞京師，太宗命中貴人，持御書五十二卷，軸賜於寺。咸平十二年，賜額靈岩禪寺。天聖十年，仁宗賜藏經(凡千卷皆金字)元至正間遭兵燹經書，亦無存者。至國朝洪武八年，僧道沛重建。二十四年，歸併成叢林。後圮。督撫徐公栻重建。

靈雲寺

在西外谷，宋太平興國五年，建熙寧元年賜額，國朝洪武二十四年歸，併成叢林。

雙峯寺

在東外谷，宋祥符元年，僧法遠建。後有禪僧善持誦，每誦經于峯下。有老人侍聽，忽不見世傳以為寒坑神龍来聽法也。(詳紀異)

靈峯寺

在東內谷宋天聖元年，僧文吉建，康定二年賜額，寺傍泉石奇恠，亞於靈岩，而羅漢洞尤為勝絕。

寶冠寺

在西外谷宋咸平四年，僧全了，建熙寧元年賜額，後廢元末重建，復廢國朝。洪武二十四年歸併靈雲寺，今廢。

羅漢寺

在西內谷宋咸平二年，僧全了建熙寧元年賜額，後被寇燬。國朝洪武六年僧大巖建，二十四年歸併靈雲寺。今廢。

瑞鹿寺

在西內谷，宋淳化二年，僧法道建。熙寧元年賜額。後廢元豐五年，僧道親進藥，有靈驗(詳紀異)。重建復廢。國朝洪武二十四年歸併雙峯寺。

飛泉寺

在東內谷，宋天禧二年，僧從吉建。熙寧元年賜額，元末遷于戴辰峯之西絕頂上(頂平有泉，四面峯巒)。國朝洪武二十四年歸併雙峯寺。

石梁寺

在東外谷謝公嶺東，宋慶曆二年建熙寧元年賜額，後廢國朝。洪武二十四年歸併雙峯寺。

本覺寺

在西外谷大芙蓉長[檄-木+山]原，入鴈山路從本覺寺始唐乾寧二年建宋熙寧二年賜額今廢。

古塔寺

在西外谷大芙蓉長[檄-木+山]原，因開山祖全了骨塔建古塔菴，熙寧元年賜額後廢骨，塔仍存。

石門寺

在西外谷宋咸平三年，建熙寧元年，賜額後廢。

普明寺

在西外谷宋咸平三年，建熙寧元年，賜額後廢。

天柱寺

在西外谷，宋太平興國二年，建熙寧元年賜額。

華嚴寺

在西外谷宋咸平二年建熙寧元年賜額。

淨明寺

在東外谷，舊名淨明菴，宋太平興國二年建嘉祐七年，浙漕李復圭愛其山水秀異，奏立淨明院，八年賜額，舊有維摩室今皆廢。

真濟寺

在東外谷宋祥符二年建熙寧元年，賜額今廢。

以上十八剎俱在鴈山東西內外谷中。

附

白巖寺

在鴈山東外谷北閤，唐元和九年建熙寧元年，賜額梅溪有記。

明因寺

按舊志，在鴈山東外谷溫嶺石，晉天福六年僧德蟾建。宋治平二年，賜額大明寺。元豐三年改今額，元仍宋。我朝洪武二十四年歸，併成叢林。永樂元年，僧從宰重修。後僧嵩大能持呪驅崇，復創塔院，刻千佛像，為明因子院。

實相寺

在雙峯後，谷宋祥符元年，僧法煥，建後賜額。紹興中，徙於山間。後廢。

崇德寺

在南閤石，晉天福二年建宋熙寧元年賜額後廢。

按十八剎者，鴈山東西內外谷中諸寺也。若白岩寺、明因寺實相寺崇德寺，俱在東外谷之外，然亦鴈山境內寺也，合之凡二十二寺。

菴

觀瀑菴

一名宴坐菴，一名龍湫菴，諾，詎那觀瀑處？

八扇菴

寺有八菴，各理田粮，以供役事，曰同源，曰新樓，曰下院，曰天然，曰柘菴，曰雲岩，曰曇花，曰新菴。共田百餘項，惟一人住持。後因役煩田，皆質券於人，菴隨以廢。

堂

資深堂

在雙峯寺後，梅溪有記。

亭

看不足亭

在靈峯洞取昔人岩前，向見白頭翁，自道一生看不足之詩而名之也。

忘歸亭

在大龍湫下。

翠微亭

在靈岩靈峯中道相去各五里許。西南入淨明寺。

藍玉亭

在雙峯寺側。

鴈山書院

亦曰鴈山。鄉賢祠祠，宋元暨國朝諸名賢也。提學萬先生，撰降祝文，刻石于祠內。知州朱守宣為置祠屋數楹，祭田一十畝地一十畝，俱在瑞鹿龍湫上寶香巖。萬曆八年，奉例改創公館。

仙釋

木葉老人

宋元豐五年，瑞鹿院僧道親，於院前道上逢一老人自山而下，履木葉皆無聲，呼僧與語，付一丸藥如彈子大，曰：「爾可速入京師，以進此藥，乃萬歲藤膏熬成龍壽丹也。以金椀研服，可保二九之數。」道親未行，次日又遇之，仍趣其行。道親如其言。至都下，適聞仁宗不豫，詣省，言其狀，執政異而不受。上聞，召而取之。問所欲，道親言，老人但戒太歲，本命四六，慎酒樂，乞濟貧民及禁天下捕龜。上命中臣梁從政賫香至鴈蕩訪老人，無所見。八年立春，上染疾，太后得藥於睿思殿，如前法研服之，稍愈。及上崩時，計在位一十八年，適符九二之數。

紹興末，平陽獨嶼李氏子，跌蕩不容於父。遇一方士，將以東遊。不移時，達樂清孝義橋下，去家已三百餘里矣。辭不能進，方士出一小鏡使窺之，恍然抵一山寺，俄而如夢覺，視其僧舍，則已在靈岩寺矣。

禪僧有遊山者，嘗至鴈山中，偶失道，循小徑至一處，有茅屋數十家，皆方士也。笑謂僧曰：爾亦知遊鴈蕩乎？方冬沍寒，而其地煖。有實，僧摘數枚懷之，方士呼童子奪取其，僧因恍忽過山椒，不覺至明州天童寺矣。

陳覺，陳州商也。嘗遊鴈蕩東峯，望西巖下一木如盖捫蘿。至其所，見藤蔓纏繞一人，其形如石，視之，乃入定僧也。觸其衣隨手而化，乃結菴于傍。居二月餘，僧欠伸張目曰：吾有衣寄岩間，有虎守之，可持吾錫杖以取。覺往，見虎，示以杖，虎搖尾而去。持衣以授僧，見藤蔓有入僧膚肉者數寸，覺因懇拜僧為說法，山中鳥獸鬼神皆来聽。後人指其處為說法岩(今岩在東谷)。

唐堯運，即鴈蕩闡化祖師諾詎羅尊者，姓羅氏，法名詎那，又名諾詎羅，眉州青神縣人。居蜀之中岩山，有石笋三峯鼎立，其傍惟寶瓶一峯，岩岫奇峭，林木蓊蔚，為尊者道場。飛錫來居震旦東南大海際鴈山龍湫。(餘見開山祖下)

宋全了，永嘉人，遊山至荊門玉泉山，遇天竺僧言：汝緣在浙東，當得名山居之。永嘉有諾詎羅者道場，數適當興，龍湫宴坐，此尊者棲錫地也。了遂感悟，至山中結菴，曰芙蓉塔、曰古塔。鴈山之顯，皆自全了發之。其人放蕩不拘，時人目為了滂蕩。(餘詳開山下)

景宣，樂清人，陳氏子。受業能仁寺，十五歲試經得度，出遊方外，紹興間歸能仁。越數年，又居本覺，後以壽終。平生喜讀莊子，自為註解，凡三十三卷。又能究極性命道德之說。年九十七，雙目炯然，視聽不衰。及茶毗，齒與袈裟皆不壞，人以為得道云。

雙峯寺舊有龍祠，相傳僧人曰後可者善講經。一日聚僧講於峯下，有一老人侍聽，長鬚古顏，頗異之。問其從來，曰：某寒坑龍也。曰：寒坑去此百餘里，講不逾時。何從知之而遽至此乎？曰：寒坑、鴈蕩原是一山，首尾相連，地脉相通，故易知之。因忽不見，風雷驟起。僧懼禱，請立為祠。仰而視之，則蜿蜒之狀已在雲中矣。祠今在東外谷。

羅漢洞內設羅漢五百身，過客至誠瀹茗，則徃徃成乳花(洞見前)。石羅漢在西谷羅漢寺前高崖上，崖高數十丈，世俗相傳漳州有一羅漢，聞鴈山之勝內有諾詎那尊者道場，尊者乃西靈山第五位大阿羅漢也，欲來叅受，駕海舶至溪下，登岸陸行，以尋詎那，未及

見，適遇見樵人，即飛上高崖上，立化為石。至今形肖宛然，矻如巨人，寺因以名。

遠夢和尚碑文

戴洵(祭酒，號愚齋，四明奉化人)

遠夢和尚者，本應天溧陽人袁應魁也。有妻子兄弟，田宅頗饒。一日棄之，出遊至雁蕩靈巖谷，依僧學佛，更名圓魁，落髮。然不甚禮誦講解，嘗掩室坐。手甲長二寸餘，冬夏衣一衲無增減。萬曆丙戌夏，余偶至靈巖谷，與語佛，不甚領悟。明年，忽造余廬，謀建寺。又明年，寺成，来請為記。余曰：「天地中有鴈蕩，雁蕩中有靈巖，靈巖中有寺，寺中有爾居之，皆夢耳，而又記之，是夢中言夢也。爾方求覺者，何記為！」魁自號鴈峰，余為更號曰遠夢，而作說以貽之曰：「遠離顛倒夢想，佛教也。」魁笑曰：「雖然夢覺不二，離夢求覺亦非也。」終請記之。余偶病，未得為，魁来促之且曰：「有寺無經，佛法何明？凡愚何覺？吾將造京師，謁名公卿，請印藏經歸寺，以畢吾志。」余笑曰：「無欲速，果熟自然香。姑留，與爾共講佛法大意也。」魁乃留寓塔亭山，日来聽講。余因以《三千有門頌》授之，自五月至八月始成誦。一日，席地仰天，余曰：雲行鳥飛，佛體也。魁笑曰：「自古只有僧為儒說法，今公反以儒為僧說法，亦異事。」良，忽起附余耳，自指鼻尖低聲曰：「我雖不解文義，然常常照管主人翁時刻不忘者二十餘年矣。」余始異之，前欲與深言，竟無語。留凡一年，余記成，辭歸靈巖，余以二絕送之曰

：昔住靈巖寺　今留佛塔亭
寺亭俱佛境　若夢若為醒
昔來真如夢　今去夢還真
寄問雪巖石　真知夢裏人

明年，余養病西湖净慈寺，魁忽来，曰：「吾杖鉢来，竟將徃京師，何以贈我？」余取一手卷，畫靈巖圖，書〈遠夢說〉其後，授之曰：「都城繁華，尔其時覺本真無迷也。」魁竟去，逾年不知其所遇何如。又明年，壬辰夏，南宗伯王公寄余書曰：「承遣魁僧，於今年正月二十六日，已在玄真觀中坐化矣。此僧與之語，若無甚見解，而臨去一著乃爾，豈真有宿根耶！」余猶未信之。已而其徒明海負其骨歸，為余言其化日如常時，但獨語曰：「印藏經自

有時，今亦已矣。」遂瞑目。猶謂其晏坐，不知已化也。化之日，面色微青，明日轉紅潤如生，七日而鬚髮漸長，都人瞻禮紛沓，玄真觀主郭懷野懼多事，陳於禮部，請從茶毘 。王宗伯乃命具龕薪火之，烟皆西向，時二月二日也，年五十六。世傳得道者多坐化或立化，色臭無變，每疑其妄，今觀於圓魁，猶信。嗟乎！余未知魁所得果如何，顧世之學道者，誰識所謂主人翁而照管之哉？主人翁，盖即釋家之本来面目，僊家之元神，儒家之慎獨也。認本来面目者，常止常觀耳，不在持經解偈也。存元神者，常清常净耳，不在烹鉛鍊汞也。慎獨者，常戒常懼耳，不在多聞多見也。彼其所以不言不為，如愚如訥，既屬予以建寺，又屬宗伯公以印經，而竟又委之長徃無藉焉，安知非古佛應世，而特啓吾二人以聰明學識為無用耶！退之之大，示以形骸可外；子瞻之了元，使知性命所歸。吾是以深信，魁之以覺覺吾夢也，而又深愧吾之方夢方未覺也。冬十月，宗伯公至錢塘，邀余遊西湖。公之子汝龍、堉廉語余曰：魁化之三日，親徃瞻禮，挺身端坐，兩手俱仰，一上一下，不著胸膝。掣其肘，可開闔，盖兩肩猶軟云。遺一偈蓐間曰

：自古原無死　無死亦無生
作一梁夢　亘古又亘今

明海将歸，葬靈巖谷，樹碑宇下，請余為銘。
銘曰

：混溟一氣　化變日新
形凝質具　有物有人
維人靈　誰為之主
不見不聞　常出常處
出周沙界　處守一中
三教攸判　主一是司
舍我主人　[竺-二+欺]弄軀殼
棄本逐末　終迷妄覺
於維魁公　晦迹韜光
不解文義　自得知常
常為變主　變則常使
主之所之　使即隨至
既搆殿宇　復摹藏經
功成不居　飄然西行
主人既去　留此遺蛻

鴈谷都城　等為客寄
在寄如夢　夢亦何因
既覺求真　真復何存
即夢即覺　非真非假
覺既無取　夢奚足捨
峩峩靈巖　靈骨斯藏
敬述遺蹟　以表不亡

鴈山志卷之三

土産

茶

浙東多茶品，而鴈山者稱最，每春清明日，採摘茶芽進貢，一鎗一旗而白毛者，名曰明茶；穀雨日採者，名曰雨茶，此上品也。其餘以粗細鬻賣取價。宜以滾湯泡飲，久熬則無清色香味。

一種紫茶，葉紫色，其味尤佳，而香氣尤清，難種而薄收。土人厭人求索，園圃中故少植，間有，亦必為識者取去。

杜鵑花

有四種，緋紅、粉紅、藍色、碧色，隨處有之。惟鴈山書院左右最盛，碧者亦難多見。

觀音竹

莖小而葉細長，不滿三四尺。人家多植園圃中岩石上，蒼翠經冬不凋。

方竹

體小而方，可作杖用。山中人每取其枯瘦有稜節者，刻其根為人物，形充土宜以贈人。

筋竹

質柔韌，可作竹絲器皿用。寺東南澗邊多有之，澗因以名。

金星草

葉上有金星點，根中有黑筋如髮，又謂之出髮草，俗傳用以浸油塗頭上禿處，則髮生。

金線草

一名蟹殼草，葉圓如蟹殼，蔓生，節間有紅線長尺許。或生岩石上與井池邊，性亦寒涼，治燙火瘡用。

鳳尾草

生巖石間，葉如鳳尾，性寒，入痢藥用。

龍鬚草

舊傳出自縉雲鼎湖，軒轅帝升仙時，乘龍而去，羣臣拔龍鬚，鬚墜化而為草。晉時織為席，歲貢御座用，今處處有之。惟蘇州虎丘為盛，種者如藝稻，織席通四方，溫州者次之。産鴈山者，莖細而秀。

石菖蒲

深谷中有之，亦有一寸而九節者，但無服食之方耳。

緑草

根有子如麥大白，山名緑草米，一名麥門冬，性寒，能治熱渴用。

櫻粟

花紅實，內有子，如小粟皮，苦澁能治泄痢症醫家，謂之木榔椎。

百合

性平，根可食，一名鬼蒜。荒年，山中人取以療飢。

鈎腳

狀似精，葉與莖稍有不同，一則養人，一則殺人。其性毒烈，與精遠甚，服精者不可不察。山中亦不多見。

精

山多精，土人鬻以代糧，但不能知九蒸九曝之法耳。此物雖處處有之，惟以天台鴈蕩者為佳；天台鴈蕩又以絕頂不聞雞犬之聲者為上品，性中和。

薯蕷

性寒，有紅白二色。産於岩石竹樹間者，味清而甘，堪入藥；人圃種者味尤佳，不堪入藥，可入飲食用。

何首烏

性平，岩下石畔皆有之。寺僧相傳，惟靈岩寺佛殿下有一本甚大，蔓延于外者，絕與他蔓不類。殿自洪武至今一百五六十年矣，其根之大可如栲栳，但為殿楹所壓，無從而取之耳。

山蘿菔

性寒，狀如圃中所種者，土人用以治癰疽，搗汁服之，查塗患處，愈可。

金釵石斛

性寒，生麥地中，歲取入貢。

雪裏開

性大寒，深谷中有之，能解砒毒，冬時開花，故名。

金線重樓

性寒，能治諸熱毒。

金銀花

性涼，能解熱毒，土人用以作湯，治諸瘡。花初開時色，後轉白色，故名金銀花。藤有汁而甘，謂之啜蜜藤。

香薷

性溫，能治暑，消煩，止渴，煖胃 。惟靈岩寺馬鞍嶺下石坦中産者佳，人家園圃種者稍劣。

鳥獸

白鶺

形似雞而大，白色，毛有黑花，細紋長尾，生深谷溪澗中。

錦雞

形似雞，毛五色紋。每日至午間，胷前雜毛斑斕叢起，宛如錦綬，土人謂其吐錦，過午則斂。自矜其容，每臨水自照，或溺而死。

練鵲

形似鵲而小，尾長而色白。

金雀

似雀而色，與雀相類。

山樂官

形似金雀，羣鳴而聲相抑揚，如作樂音，土人謂之山樂官。

山羊

其狀如鹿，而能歷險，白者如雪。猿，有毛如狨，謂之金線。

熊

形似人而長大，山中人呼為野人，有力能拔樹，又名為人熊，惟鴈山西北趾深林中有之。於巨木駢立處，連結其枝，構為一巢，夜則棲宿于上，晝則下林中取食，遇人則避入叢莽中。

玉面狸

形似猫，面有白毛，霜後肉美，山中人以為佳品。諺云：霜天玉面狸。

竹豚

狀似小猪兒，又如巨鼠，竹林中有之。食笋根，味清美。

獾豬

似猪而小，肉肥美。

野豬

似豬而大，大者重二三百斤，健嘴長牙，有力能與虎鬬。

田狗

形似狗而小，毛深溫厚，可作煖耳用。

香狸

形似猫，肉香美。

五段狸

尾有黑白紋相間，各五段，肉肥美。

猴

十百為羣，巢於高崖石洞中，秋時樟樹子熟，則相率摘食。居人出其不意，嗾犬以嚇之，驚墜茅中，不能跳躍，或為人所獲。

魚類

香魚

一名細鱗魚，無腥而鱗極細，肉甚美，生鴈山溪澗中與潮水相通處。春初時生，月長一寸，九月以後可盈一尺，則赴潮際生子。

生已則黑瘠而死於鹹水中。次年春初，子復化為魚苗，仍入淡水中，隨月而長，五月以後可長五寸，漁者始取以鬻諸人，味極清美，作乾魚尤佳。凡山水入江處皆有之，在樂清則石門潭為盛，筋竹溪、芙蓉溪次之。蕩水西流於永嘉，南溪則自楓林、當溪、下渡潭、石廟潭諸處亦有之，均産於蕩水之一源也。

石門鯉魚

門內巨潭多鯉魚、味甘而清美、異於他所産者。每天晴日初出時，羣浮水上，可一二畝許，中有一巨鯉，其長如人，魚環繞，隨而旋轉，若相侍然。漁者百計，終莫能得，或以為神魚云。

詩文卷之四

詩

五言絕句

宋

能仁賜額

王十朋(號梅溪，宋状元)

不到能仁久　欣聞賜額還
浮雲已過眼　依舊好青山

國朝

望鴈山

黃綰(尚書，岩人，號久庵)

盤領秋烟外　亂峯霄漢邊
知湖水曲　留我釣魚船

羅漢洞

張池(台州人)

空山留幻跡　天立高臺
海闊月初上　水流花正開

石梁

韋商臣(叅政，嘉興人)

巖際石梁橫　嵓中石髓溜
我来秋氣涼　天光滿幽竇

龍湫

吳玄會(號五松，應天判，樂清人)

白日飛寒練　青天下玉虹
誰將廬阜境　移入鴈山中

憶山

侯一元(號二谷，布政，樂清人)

黽勉辭名山　數日仍在眼
羨山中人　初不出戶限

度謝公嶺

蔣國輔

登登緣澗嶺　謝守昔年開
欲賦懷賢調　慙無一斗才

照膽潭

蕭(號兌隅，侍郎，江西萬安人)

紺碧一泓水　淪漣百尺潭
洗心居已　照膽自生寒

靈峰洞

懸燈入靈岩　中有應真跡
五老列蒼屏　似與開雲笈

仙人橋

一片敝虛明　渾淪無點涴
誰將神斧開　却駕飛雲過

響巖

峭壁倚天開　空谷貯清響
不信少文琴　能徹鈞天上

展旗峰

龍旗掣海雲　誓掃三韓宅
席捲向名山　早已来重譯

天柱峰

一柱自亭亭　四渾無倚
莫咲鼇頑姿　天地期終始

獨秀峰

拔地起孤根　天成獨秀
冠頂金石姿　未許洿靈鷲

玉女峰

玉女竚靈山　含睇在遐舉
許汝駕雙鸞　更莫行雲雨

龍鼻水

龍在天地間　存神還廢耳
任鑿一竅開　混沌何曾死

剪刀峰

天孫有抒軸　雲漢羲昭宣
吾欲施裁剪　還歸象帝先

度馬鞍嶺

捫蘿陟崔嵬　列屏開石室
中即上世人　彷彿曾相識

大龍湫

誰信一勺水　而能藏蛟龍
有時驚人語　飛瀑滿晴空

宿能仁寺

竟日行雲霧　薄暮倚新晴
自咲車前雨　催耕更洗兵

早行鴈山

藍輿初入谷　拂面雨聲來
任汝吹多少　吾心豈易囲

老僧岩

老僧面觀　車馬紛來往
心景了不關　莫更加清賞

石梁洞

昔年來古洞　雨急興先闌
此日非前度　心空境自閒

七言絕句

宋

過靈岩寺

呂夷簡

淨名菴下靈巖路　峻層崖倚半空
最愛老僧年八十　一生長住翠微中

過鴈山

王梅溪

三宿山中始出山　出山心尚在山間
浮名奪我林泉趣　不及高僧一味閒

又

清秋天氣過山中　征鴈行人路不同
從此又勞千里翼　傳書来往浙江東

過靈岩二首

家在梅溪水竹間　雲蠐屐可曾閒
鴈山新入春遊眼　却笑平生未見山

洞中大士半千身　住世端能了世因
應笑玉簫臺下客　馬蹄長踏利名塵

過靈峯

三宿靈峯不為禪　茶甌隨分結僧緣
明朝杖屨丹丘去　帶得烟霞過海船

龍鼻水

石梁雙合夾蜿蜒　中有飛来萬斛泉
一竅涓涓通海眼　時興雲雨擁高禪

過淨名二首

淨名却見老維摩(謂長老顏公)　道眼相看語不多
待我衣冠掛神武　杖藜来此老巖阿

谷中有月露蛾眉(新月洞)　水織珠簾更絕奇(水簾谷)
滿目峯巒觀未盡　有僧攜紙覓題詩

送夏元鼎歸鴈山

真西山

嗟我深扃五柳門　無從相與細論文
會須脫履囂塵去　鴈蕩山頭或見君

元

送輔賢出山作二首(首尾吟)

李孝光(號五峯，著作郎，樂清人)

儒官不畏簡書催　拄杖休驚石上苔
行到水窮雲起處　路從四十九盤来

路從四十九盤来　樹底看雲首獨回
客裏不知身是客　向人猶愛話簫臺

贈靈岩秀禪師二首

北林日午煖如烘　盡日溪行曲折中
自愛敲水看魚上　山頭樹影落溪紅

色都無霜露氣　壁間看此一枝笻
平霞室裏論文酒　未信閽黎飯後鍾

雪屋為通上人之第作

倒挽天河轉翠微　玉虬鱗甲滿天飛
道人結屋東邊住　愛看晴花不掩扉

國朝

入鴈山

朱書卿(樂清人)

雙鸞峯下踏莓苔　鳥道斜經五老臺
長嘯一聲風滿壑　半天羅漢洞門開

遊鴈山

鄭善夫(郎中，福建人，號少谷)

昔年梦上百尋臺　薄海鯨波天地囘

四十九盤東向立　鴈山猶是夢中来

龍湫和韻

朱濂(樂清人)

竹下烟浮僧煮茶　草邊風軟是韶華
芒鞋無數看山客　瀑布巖前數落花

寄題鴈山書院

夏言(號桂洲，少師兼太子太師，江西貴溪人)

聞君書院鴈山中　却在西岩弟幾峯
何日青鞜訪靈谷　白頭端拜蕩南翁

和尚巖

裴紳(號右山，御史，山西人)

一僧兀坐似安禪　日炙風吹不計年
錫化空山應有待　乘龍還許到西天

石梁

石梁突起半山空　冷冷鳴泉瀉洞中
古木煙深藏虎穴　靈潭無底長跼龍

玉女峯

玉顏何必要濃粧　獨立青霄出洞房
不效巫山神女夢　為雲為雨媚襄王

鴈山四絕

廖希顏(號東雩，叅政，湖廣人)

千尋瀑布瀉芙蓉　一派銀河走玉龍
疑是天孫裁素練　面前遺下剪刀峯

翦刀峯高千仞巍　剪下天孫雲錦機
不見岩前瀑布縷　至今搖颺如絲飛

靈峯無主野蒿開　藤老雲深半古苔
只有雙鸞不飛去　月明僊子洞蕭来

猿聲鳥語道邊聞　水色嵐光樹杪分
烋盡長空飛白鵠　天風吹散石梁雲

梅雨岩

王獻芝(號湛臺，御史，徽州人)

寒谷銀河瀉九天　瀟瀟細雨弄厓前
海風狂激晴嵐滿　洗出含珠對月圓

僊人橋

吳綸(尚書，謚恭毅，樂清人)

兩厓排闥倚天高　上駕横空一玉橋
為有廣寒宮裡客　徃来經過在雲霄

展旗峰

天造旌旄出地間　萬年樹立鎮山關
無心雲霧間舒卷　有影龍蛇自往還

登龍湫背

王健(號鶴泉，少卿，永嘉人)

萬仞危峰半倚天　白雲簇擁紫金蓮
順風直上龍湫背　疑是乘龍到日邊

龍湫二絕

萬疊盤桓尋雁宕　千尋飛洒對龍湫
雷霆地激澄潭起　河漢天廻絕流

拔地萬重青嶂立　懸空千丈素流分
共看玉女機絲挂　暎日還成五色文

次鶴泉上龍湫背

朱守宣(號靈谷，知州，樂清人)

使節扶摇自九天　錦衣照耀鴈池蓮
山人不預龍門約　望見星槎犯斗邊

龍湫

李頌(樂清人)

玉龍千尺噴靈湫　萬丈銀河瀉碧流
乘興縈廻躋絕頂　恍疑有路接瀛州

天柱峯

侯一元

寥寥萬仞卓雲空　黃道低分彩翠中
恠得地維長不缺　千山雄壓海門東

玉女峯

行雲飛盡鴈湖巔　玉女明粧尚儼然
自是天皇巷衣伴　錯教人賦洛神篇

龍鼻水

林大春(號石洲，提學，潮陽人)

絕磴懸崖隱萬峯　長空昨夜起蛟龍
真形化作靈岩石　噓氣猶成玉露濃

靈峯洞

仙子何年闢洞天　手持雙斧下蒼煙
簷前時許金莖滴　為種華山玉井蓮

僧抱石

何鏜(號濱岩，叅政，處州人)

面壁嘗攀少室龕　鄉山重見倚江潭
如何要解西来意　拆韋南游更再三

(余往游嵩山少室上，達摩洞見立石向壁，儼然一僧也。余鄉括蒼山，有石僧立江，于今又見此石，豈處處示人習靜耶？)

龍鼻水

趙性魯(號疊巖，大理寺副，樂清人)

顆顆勻圓走玉盂　卧龍鼻觀瀉明珠
會看白日拏雲去　一洒甘霖四海蘇

大龍湫

王叔果(號西華，憲副，永嘉人)

澗道秋生松檜風　水花飛墮綠雲中
未論天外招黃鵠　且向尊前看白虹

又

懸崖飛瀑信奇哉　夭矯乘風萬狀迴
疑是天孫張疋練　剪刀側立若為裁

靈峯洞

古洞穹窿迥絕塵　奇峯環列翠嶙峋
朱欄窈窕憑雲架　漫向名山結勝因

又

縹緲連峯望不分　崆峒誰鑿掩觧雲
不聞海上歸黃鶴　試向厓端辨赤文

靈巖寺

上谷何年建化城　諸峯羅立似相迎
老猿引子窺人過　好鳥呼朋隔樹鳴

又

排雲玉筍聳岑　獻秀爭奇總會心
安得昔人驅石法　稍移一二鎮園林

登龍湫背

李勅(樂清人)

盤紆鳥道上青天　萬朶真疑太華蓮
自笑野人狂太甚　春風三宿白雲邊

龍湫

林大春

千年幽勝擅南陬　萬里常雲枕碧流
氣動若為丹鳳舞　秋深坐使白猿愁

石梁洞

石梁飛渡自天台　誰復移之此地来
歲久渾如枯樹色　天寒忽見野梅開

觀大龍湫漫興

黃猷吉(號両皋，山陰人)

百年幾度雁山遊　我為中萬斛愁
天上斗槎真可握　等閒酌盡大龍湫

出鴈蕩山，見海上舟行，口占

十日山行不見舟　出山晴海望如秋
片帆搖曳来何處　好是逢仙返十洲

天柱峯

張國紀(安吉人)

萬丈孤高天柱峯　仙人曾此架長虹
不周未必傾西北　只為秦王到海東

五日雨游鴈宕觧疑山靈兼柬龍塘憲使五首

蕭廩(號兌隅，侍郎，江西萬安人)

生平守朴更棲玄　擬向名山早結緣
嘉節屢虛三過後(余廿年游宦過家僅三遇立節)　勝游還咲十年前(甲戌曾遊此山過老僧岩遇雨而止)
塵容俗狀君應憎　獻巧廻奇我亦憐
賴有雨雲時擁護　不妨賓主兩無嫌

曾駕蒼虬百二間　華吴真對斗雲閒
揭來海上春波　喜見山中藥草殷

一雨豈堪田俗駕　雙旌先已度靈閑
游人莫嘆衝泥險　且為三農一解顏

渭曲相逢眼倍明　十年還共海山行
千峰過雨旌旗净　萬壑流泉鼓角鳴

鴈度嶺雲開洞府　龍飛岩瀑接滄瀛
縱言佳景堪留客　俯仰乾坤有情

五言律

宋

重遊鴈山

呂夷簡

徃年遊海嶠　上徹最高層
雲外疑無路　山中忽見僧
虎蹲臨澗石　猿掛半巖藤
何日拋龜紐　孤峯上再登

大龍湫

趙師秀

一派落寒空　如何畫得同
高風吹作雨　低日射成虹
西域書曾說　先朝路始通
或言已老　出處別為宮

鴈山寶冠寺

行向石闌立　清寒不可云
流来橋下水　疑是洞中雲
欲住逢年盡　因吟過夜分
蕩陰當絕頂　一鴈未曾聞

方虛谷曰：杜荀鶴秖應松上鶴，便是洞中人。此三四亦相犯五六有味。

遊鴈蕩

康惇

不怕石頭滑　来為鴈蕩行
平生夢不到　今日眼逾明
未歷千峯秀　先逢一段清
遍觀從此始　着脚履崢嶸

石門菴(即今石門寺)

翁靈舒

山到極深處　石門為地名
嵐蒸空寺壞　雪壓小菴清
果落羣猿拾　林昏獨虎行
一僧何所得　高坐若無情

壽昌道中

清遊從此始　過處必須看
背日山梅瘦　隨潮海鴨寒
平途迷望闊　峻嶺疾行難
聽得居人說　今年冬又殘

按壽昌詩：本非鴈山，作以方虛。谷遊鴈山，選此二詩，故附于此。

龍湫觀瀑

晁端彦

萬丈龍湫水　飛流翠壁開
始疑河漢落　翻若海潮来
飄灑四時雪　喧聞萬壑雷
廬山吾未到　氣象勝天台

靈岩靈峯

戴復古(號石屏，岩人)

見二靈境　山林體勢豪
空天柱壯　障日石屏高
覽勝苦不足　登危可憚勞
白雲飛動處　絕壁走猿猱

淨明

林巒相掩暎　嵓谷獨玲瓏
下置維摩室　上通龍伯宮
靈珠四時雨　秋水一簾風
甚欲觀新月　山高脚力窮

鴈山

左緯(號委羽，岩人)

亂山無限好　幽徑有時迷
石骨秋偏瘦　松稍老却低
天寒聞鴈過　月白見烏栖
海上知名地　無人識馬蹄

龍湫

郭君舉

絕頂龍君宅　深疑與海連
飛来千丈瀑　下潤幾桑田
嘆日虹霓壯　隨風雪霰圓
高寒吟未穩　欲去復廻旋

觀音岩

上得馬鞍嶺　奇峯應接頻
看孤絕處　分現普陀身
納月瓶泉冷　嬌春柳黛新
却疑吳道子　貌出此岩真

天聰洞

混沌何年鑿　天聰亦强名
我疑龍窟宅　人說鬼經營
梯向岩邊架　雲從洞裏生
此行頑健甚　脚力十分輕

維摩室

来問維摩疾　因叅不二門
一龕閒日月　方丈別乾坤
風落巖花煖　雨晴山鳥喧
何當分半席　默坐聽潺湲

巖居僧

趙師秀

開扉坐石層　盡日少人登
一鳥過寒木　數花搖翠藤
茗煎氷下水　香炷佛前燈
我亦逃名者　何因似此僧

元

代送彥明

李五峯

詩舸幾時發　秋風海水腥
雲分鴈蕩路　江繞蛄蜞亭
大府文星聚　名山僧氣靈
憑君道問訊　無恙讀書螢

能仁方丈

朱希晦(號雲松，樂清人)

山中松桂老　濃翠鬱紛紛
水壯蛟龍氣　風高鴻鴈羣
浮嵐晴後見　疎罄夜深聞
却憶居士　衰年屏俗氛

淨名寺

纔入清涼境　憑高意豁然
山横烟簇簇　溜滴雨涓涓
靜坐維摩室　因叅達磨禪
奏名人已遠　遺像閱千年

國朝

宿靈峯寺

璨(中書，永嘉人)

尋幽来此地　四顧冷於秋
愛靜經三宿　偷閒約再遊
僧今無白足　佛古尚青頭
歸路鐘聲外　登十里舟

大龍湫

鄭少谷

瀑布飛不徹　大聲空谷哀
青天下河漢　白日奔風雷
潭穩蛟龍定　歲鴻鴈来
方岩倚天畔　吾志在崔嵬

宿能仁

王獻芝

空山飛野火　千朵照芙蓉
宕氣分禪榻　湫雲鎖寺峯
夢驚靈運草　心憶了公松
落葉飛泉石　翻疑雨意濃

龍鼻嵓

裵紳

真境中天迥　烟封古洞深
石龍懸漱玉　風磵坐鳴琴
盛有青雲氣　寧忌霖雨心
願將一滴水　直擬滌凡襟

鴈山次韻

王(主事，福建人)

萍蹤多舊友　登覽此時懷
勝槩千年在　浮生幾度来
飛泉懸石瀉　翠拂雲開
不盡登山興　新詩取次裁

能仁

孔天胤(號文谷，提孛，山西人)

夕陽下山坂　旅宿山門禪
窻暝乘嵓樹　庭昏帶雨烟
力疲甘宴處　氣熱喜涼泉
時有玄猿嘯　空帷復不眠

過丹芳嶺

吳綸

每過丹芳嶺　蜿蜒七七蟠
身登三島外　足躡五雲端
素練懸匡瀑　瓊珠漱石湍
入林暑氣薄　秋滿萬山寒

再過丹芳嶺

千古丹芳嶺　遊人去又来
霜楓紅似錦　春樹綠於苔
幽鳥逢人語　寒花待日開
風光還復舊　正遇一陽回

靈峯

蕭一中(副使)

靈洞撑天立　門開石竇新
岩花晴滴露　洞草歲常春
却愧登臨晚　無妨望頻
風塵苦牢落　何日可還真

大龍湫

飛瀑沿崖下　風飄亂作絲
蛟龍翻石窟　烟霧起滄池
天地精靈洩　乾坤造化奇
靜看聊自得　清興獨題詩

能仁寺

路向五峯轉　人從天柱来
梵宮凌漢起　盤嶺倚雲開
白日曇花落　青天鸛鶴哀
壯懷知不減　迥迥逼三台

靈岩

夏鍭(號赤城，評書，臨海人)

僧迓緇頻見　峽開青不關
奇峯立五六　遠客笑中閒
朗月待今夜　美人期此山
短歌招玉女　雙跨紫鸞還

石門次韻

黃綰

曉日開銀闕　晴川看躍魚
須維溪上艇　来讀壁間書
猶恨衡門遠　那同太古居
何時結茆屋　共倚翠屏虛

龍湫寺

李顯(號臺南，副都御史，樂清人)

偶到龍湫寺　来叅諾詎那
迴流翻石　飛瀑下銀河
瑤草迷丹竈　奇峯擁翠螺
茲遊諧夙願　便欲住山阿

靈嵓次嚴二守韻

施悌(號鶴洞，序班，嵓人)

五馬巡行地　乘間共此遊
雨餘芳草合　雲亂峯幽
秘蔵開千古　奇觀界二州
鎮山有玉帶　應為洞門留

遊蕩北最高峯

陳亶(號芝南，御史，樂清人)

幽尋来蕩北　遐滿天東
海色浮元氣　湖光照遠空
世途傷老馬　吾道在冥鴻
此日陪蓮社　長年任轉蓬

大龍湫

汪文盛(號白泉，都御史，湖廣崇陽人)

石迳尋幽入　陰崖瀑布懸
迸空花作雨　灑迥玉為泉
雲擁蒼龍氣　風搖白鶴烟
觀瀾絕下　望海萬山巔

大龍湫次韻

朱諫(號蕩南，知府，樂清人)

白雪無春夏　明河若倒懸
忽添花外雨　散作地中泉
潤氣滋丹　餘氛入紫烟
瑤池浴斜日　如在閬風巔

靈峯寺

舊日峯巒在　今来殿宇非
烟霞全不減　松竹自相依
古道沿溪出　殘僧乞食歸
晚来鐘磬少　惟見白雲飛

龍湫道中

徐衍(號宗梅，舉人，樂清人)

長薄帶寒湫　雲深一徑幽
茆茨隱松竹　烟火隔林丘
日落風初起　山空水自流
悠悠人境外　有路接瀛州

秋夜宿龍湫古寺贈上人

陳杕(號后溪，署丞，樂清人)

絕俯寒湫　禪房一徑幽
山空涼露下　天近火星流
水壯蛟龍氣　風高鴻鴈秋
况逢蓮社日　得與遠公遊

宿靈嵓寺

守喬(樂清人)

攬結靈巖秀　沉潛爽氣中
雲移峯欲墜　霞落嶂猶紅
變幻珍奇態　縱橫造化功
月明蓮宇靜　慘淡是僊宮

曉入能仁寺

朱玄操(樂清人)

空山尋梵宇　初日照林丘
鐘磬隨風度　雲霞拂曙流
森松不受暑　碧樹正宜秋
意到無言坐　清猿嘯未休

遊能仁寺

陳士舉(號五山教諭，樂清人)

偶来尋勝槩　長嘯入松關
小憩林間寺　看天畔山
鶴眠清晝永　僧倚碧窻間
歸路斜陽外　微茫紫翠間

靈岩

矣二谷

亥徑重重　看山面面殊
書從丹洞秘　峰入紫霄無
候鴈雲中斷　驚猿月下呼
悠然赤水宴　何處訪玄珠

六賢祠

俛仰成千載　停車展六賢
文垂麟史後　功契馬圖前
浩渺雙龍瀑　孤高一柱天
春遊成怵惕　川上惜流年

次文谷

范惟一(號中方，提學，直隸人)

一入能仁寺　如叅不二禪
法輪流落日　梵語和鳴泉
石抱雲邊海　窻含樹杪烟
偶来幽意　詎是故留連

宿能仁寺

卞錫(號豹山，進士，直隸人)

梵宇停征盖　鐘聲入暮禪
閑雲歸古岫　巉石枕清泉
塵慮消幽境　高懷薄紫烟
鈎簾回首處　山色與天連

宿能仁寺

陳洪濛

已攬靈峯秀　還来謁四禪
亂山齊捧日　幽谷靜含烟
瀑布晴飛蜃　林端夜嘯鳶
未從覓歸路　下榻可忘年

宿能仁寺

陳錫(號南衡，進士，台州人)

山迥寒侵夜　松疎月近禪
短橋廻落馬　細石漱流泉
霜葉濃催酒　秋衣薄逗烟
祥雲峯外望　飛鴈與天連

宿能仁寺次文谷韻

葉世德(號文溪，舉人，樂清人)

勝地逢佳節　空林一問禪
偕行無俗侶　滌慮有清泉
古岫藏丹室　奇峯吐白烟
莫言茲境外　更有十洲連

過鴈山

王曉(號小田，御史)

虛亭觀瀑布　潭水何冷冷
鼓吹蛟龍見　天風晝雨冥
慈航憐野衲　繡斧失山靈
他日應傳說　逢人此地經

又

靈巖有古洞　陟險一登哉
水響山棚滴　天光石塁開
此中信真境　何處訪蓬萊
所恨身為役　夕陽下坂催

靈峰迴文一首

盧安甌(雁山人)

融融日暖值遊人　遶径花陰柳色新
峰峻聳厓松欝欝　洞深龍穴石磷磷
龍潜澗底雲籠日　鶴唳林中鳥春
逢境妙歌人意夷　紅桃對飲喜精神

大龍湫

遍覽奇観陟雁巔　忽驚飛練半空懸
佇看不尽無窮趣　欲坐那亭住百年

龍鼻水

誰幻青龍蟄翠峦　天然頭鼻縱奇観
想渠不遂施霖雨　為惜蒼生涕不乾

遊雁山

李宗吾(序班，樂清人)

因尋雁蕩歩溪橋　萬像森羅倚碧霄
卓筆題来龍水渴　展旌遊過洞風瀟
乾坤有意開吟咏　花柳無私入望
始信一生看不足　老僧雲外漫相招

又

昔年雁蕩曽聞耳　今日龍湫入眼明

地折東南山斷勢　江流吳越水分清
層峦邃谷難窮盡　怪獸珍禽未識名
欲把新詩收勝槩　雲深重問白頭僧

七言律

宋

荅樂清尹周邠寄鴈山圖

東坡

指點先憑採藥翁　丹青化出大槐宮
眼明小閣浮煙翠　齒冷新詩嚼雪風
二華行觀雄陜右　九仙今已壓京東
此生賸有看山分　已覺溫台落手中

又

西湖三載與君同　馬上塵埃鶴入籠
東海獨来看出日　石橋先去踏長虹
知別後添華髮　時向尊前說病翁
所恨蜀山君未到　他年携手醉郫筒

迎趙清獻公遊鴈蕩

石景立(郡守)

鴈蕩天台路險艱　多應特地隔塵寰
不辭登陟來千里　為是東南第一山
爭望台星從海上　方知蓬島在人間
武林二老圖中見　重惜官師遠莫攀

約遊鴈山

宋趙抃(太子少師，謚清獻，衢州人)

自諳趁拜力惟艱　柯嶺歸来遠帝寰
抱甕不能師老圃　驅車猶足訪名山
魚書入手殷厘後　鴈字排空杳靄間
多謝主人期我意　謝公遺迹願追攀

淨名寺

周邠

水簾谷口瀑泉飛　金鼎峯前玉骨奇
入院未登居士榻　升堂先謁贊皇祠
菴開明月長圓滿　路插重雲半嶮巇
杖履偶来聊宴坐　徘徊不厭出山遲

西瀑布

梅溪

靈源東接鴈池　裂石崩崖下九霄
雲斷青天倚長劒　月明泉室掛生綃
江聲雨勢三秋急　雪片氷花五月饒
休勒移文北山去　他年来赴石梁招

卓筆峯

束縛真憑造化功　巍巍直氣貫鴻濛
雨將苔色生彤管　山吐虹光遶兔鋒

未數如椽曾入夢　誤疑怪事尚書空
士人毛穎多榮辱　恩寵纔衰便不同

雙鸞峯

赤神降瑞奠坤維　秦女吹簫度翠微
影落寒潭疑對舞　身橫雲漢欲同飛
太古胚胎憑氣母　何年斧鑿備毛衣
丹山威鳳思僚佐　萬一相從覽德墀

送劉方叔、李文仲遊鴈山

一客騷腸不耐秋　飄然蠟屐去尋幽
蕩中若要窮青眼　岩下先須問白頭
詩社不容添異姓　名山應豈遇清流
會須乘興天台去　澗水花訪舊遊

瑞鹿寺

晁端彥

古寺無碑幾歲年　陰廊雨積翠苔鮮
啣花瑞鹿今何在　飽飯殘僧不解禪
泉繞竹間聲漱玉　柱標雲外勢擎天
停車欲了痴兒事　借得晴窻隱几眠

元

瀑布

陳太希

剪刀峯畔蜿蜒宅　噴薄銀河下翠微
天上但聞風雨至　岩前長見雪霜飛
千尋玉繭牽春浪　五色珠璣弄夕暉
底事山童催我去　不知到此欲忘歸

鴈山次韻

李五峯

竹杖芒鞋去去賒　一春紅到杜鵑花
山椒雨暗蛇如樹　石屋春深燕作家
老父行尋靈運屐　道人喚喫趙州茶
明朝塵土芙容路　猶憶山僧飯一麻

贈國性菴入鴈山次韻

銅杖彭鏗響白雲　山之南北水之瀕
玄猿白鶴愁行客　紫翠青霓下應真
藥老雲根幾萬本　天開石髓又千春
却還有客来相訪　已與先生隔一塵

遊雙峯寺，贈覺上人

茶具酒壺從兩童　入山慎莫作匆匆
雪消新水鴨頭綠　沙煖小猩血紅
喜意人生行樂耳　只今杯酒與君同
依依藍玉亭前路　他日重来憶遠公

和遊鴈蕩

峽中鍾磬十八寺　山腹茅茨三兩家
雨後亂溪青似髮　霜前病葉赤於花
懸崖萬仞塗猩血　怪石千株錯犬牙
牢絆芒鞋行一月　出山慎勿向人誇

又

北鴈山中路詰曲　夕陽木杪見人家
筍輿穿樹驚霜葉　桐杖敲雲損土花
白鴈秋高還蕩頂　流螢月黑出簷牙
匆匆但得皮膚耳　出外逢人莫浪誇

遊鴈山能仁寺

吳學禮

興國年間路始開　前朝碑墨半蒼苔
鴈横蕩月驚寒到　僧踏湫雲看瀑来
一嶺暫靈運識　萬松都是了公栽
此行曾共秋風約　說與山猿不用猜

簡五峯

楊鐵崖(名維禎)

鳳凰西風吹葛衣　鴈蕩落月照松扉
夢登玉女夜吟句　哭到金人秋作歸
海菜紫芽如蜜脆　山柑黃顆待霜肥
今年預報李夫子　五子峯頭攬夕暉

常雲峯

貢師泰

高處東為鴈蕩尊　孤標千丈拔雲根
峯巒磅礴山川氣　草木薰蒸霧雨痕
影侵河漢秋中斷　勢泊扶桑曉半昏
億萬蒼生墜塗炭　欲從雲路欵天門

寄題大龍湫和李五峯韻

林清源

鴈蕩峯頭春水生　無邊木葉作秋聲
六龍捲海上霄漢　萬馬嘶風下雪城
春盡不知陽鳥去　岩高惟許白雲行
故人家住青山下　野竹寒流亦有情

宿龍菴懷友

吳主一(名志淳，四明人)

高情久矣念離羣　獨向山中禮白雲
龍送雨来留客住　鹿銜花去與僧分
疎星出竹昏時見　流水鳴渠靜夜聞
却憶故人江海去　題詩誰是鮑叅軍

國朝

大龍湫

黃淮(少保，永嘉人)

兩崖拔地勢爭雄　中有銀河一道通
聲撼天風搖素練　光涵海日炫晴虹
奔騰忽作縱橫態　開闢難窮造化功
願得餘波覃遠邇　閭閻處處樂年豐

龍湫

黃斌

龍湫靈秘古今稀　曉拂煙嵐瀑飛
瑤闕聯珠垂帝網　銀河翻練落天機
一聲喚和風生壑　萬點飛來雨濕衣
卷起山川清淑氣　灑向玉堂輝

遊鴈蕩

趙寬(提學，吳江人)

誤入清都妙門　居然別是一乾坤
移来西極崑崙圃　拔起東維天地根
迷路每從樵叟問　會心難與世人言
夕陽疑有羣仙過　千隊翔鸞萬寶幡

能仁寺漫興

陳玉(提學)

幾年夢踏龍湫路　此日真成鴈蕩遊
紅葉滿川秋未老　白雲沿澗水爭流
山靈隱秀環雙屐　空翠生寒擁敝裘
留我上方三日住　遍題岩壑慰窮幽

入鴈山

顧璘(左叅政，蘇州人，號東橋)

落日雙旗度竹村　靈峰歷歷引輶軒
秦人避地空水　謝客開山自石門
松栝藤梢俱刺眼　斷崖巉易銷魂
攀蘿欲上招提宿　轉見雲深細路昏

又

春歸幽谷見花　問訊安期海上家
石虚無通鴈蕩　星河漂轉坐龍槎
林香定有千年藥　雲起皆成五色霞
且訪名山消俗慮　未論勾漏隱丹砂

雁蕩

鄭善夫

丹崖側轉窺欲頹　拊石捫蘿鳥道廻
滄海客心長自遠　錦溪秋色是重来
峰盤古蕩天關壯　水激靈湫夜壑哀
便向蓬萊望宮闕　黄塵北首頻回

秋夜偕應黄二子宿靈巖天柱峯大雷雨作

日落風迴天柱陰　峯前雲木正蕭森
古堂衾枕秋燈淨　永夜雷霆山雨深
漠北不聞麟鳳信　海濵空寄蕨薇心
結廬欲擬南陽卧　抱膝長歌梁父吟

靈峯

顧璘

幽澗泠泠洞壑哀　靈峯不斷石門開
鯨波直撼三山動　鵬翼搏萬里来
日落餘寒飄大野　酒醒孤嘯層臺
披襟擬賦青蘋色　慙媿同遊宋玉才

石梁

陰洞龍宮倚石梁　寶珠深夜有虹光
千章古木藏雲雨　六月飛泉洒雪霜
逝水年華流不盡　孤雲禪觀澹相忘
坐霑空翠清毛髮　絕勝醍醐灌頂涼

長至宿鴈山

鄭善夫

不應六琯混窮愁　歲晚空門雲水幽
滄海客身餘夢寐　錦溪春色背林丘
山寒夜宿龍湫雨　日至天回鴈蕩秋
何處疎鐘喚深省　此時黃屋拜宸旒

龍湫

王積(副使蘇州人)

玉龍噓沫下天　績女分絲絕漢懸
灝氣乘風晴亦雨　雪光盪日散還聚
排雲直瀉三千丈　望海長趁億萬年
坐向深湫貪一酌　令人永念結真緣

靈岩

吳玄應(號蔓亭，布政，樂清人)

不到靈巖二十年　荒涼院宇舊林泉
千崖周匝無多地　一洞空明別有天
虗穴風生潭影動　遊人歌起谷聲傳
過山便隔人間世　何處源擬學僊

上劉五清提學遊鴈山

張孚敬(號羅峯，大學士，兼少師，永嘉人)

海內衣冠集鴈山　草茆無路得追攀
山中定掃豺狼道　天下誰當虎豹關
玉輦胡從瞻樂地　金尊未許破愁顏
江湖廊廟心相似　莫道樵漁盡日閒

鴈山呈諸同遊

黃綰

五年不踏雁山烟　此日登臨飛鳥邊
洞府何年藏石髓　天池一夜長青蓮
誅茆準擬開三徑　拄杖寧辭掛萬錢
去去未緣山水癖　與君同種紫芝田

遊鴈山

謝省(員外，太平人，號台南逸老)

翠巘重重一径通　奇峯怪石鬱龍葱
梵宮聳碧依銀漢　瀑布飛寒下遠空
秋入蕩陰迷落鴈　雲連鼻水起蟠龍
停車不盡登臨興　還擬重来訪遠公

遊能仁寺

東吳張穆(叅政，松江人)

靈岩遙聽五更鐘　千里来登最上峯
春氣未全回古木　日光纔覺到陰松
水流人世幾番變　山繞禪房只自重
白鶴當年僧未老(菴昇上人曽在白鶴寺)　談玄此地又相逢

聞二謝先生遊鴈蕩

李

鴈蕩本来天下勝　謝公原是海東仙
地逢佳客應高價　詩向清秋定巨編
好事已聞千里外　舊盟空愧兩年前
且論携我重臨地　更報東林瀑布泉

過鴈山

蔡潮(提學副使，黃岩人)

天設奇觀隔世氛　盛名信是不虛聞
寒生六月龍湫雪　暝合千峯鴈宕雲
拄笏我能輕好爵　揮戈誰與駐斜曛
武陵衡岳相知舊　雅愛従今為爾分

鴈蕩

章玄梅(知縣，樂清，南閤人)

鴈山高與海天接　海雁南飛古宕秋
鴈飛一夜渡海去　鴈宕之峯何邃幽
四十九折盤鳥道　三千餘尺飛龍湫
芙蓉面面削寒玉　長使騷人舉目愁

靈峯

裘紳

巨靈擘破一山開　圓嶠中
石磴風清来白鶴　雲門秋晩老蒼苔
龍湫倒鳴雨　虛谷傳聲似轉雷
披躡煙蘿恣探歷　人間有蓬萊

約遊鴈山，至栢山而返

周夔(號草庭，岩人)

野色蒼蒼曉未分　荒村紛紛
塵纓擬濯龍湫水　詩興空馳雁宕雲
行處有　霜空斷雁坐来聞
不知向晩宿何地　時酒半醺

鴈山紀行

廖希顏

驚濤初卸海門舟　覽勝還尋上界遊
秋老白雲迷鴈蕩　霜深紅葉暗龍湫
諸天路繞三千部　雙劒芒寒七十州
悵望僊橋人鮮遇　終風鵠兩悠悠

重陽前一日遊鴈山能仁寺和韻

陳璋(號省齋，刑部侍郎，樂清人)

獨上高峯望遠荒　龍湫飛瀑洒衣裳
溪山有待頭顱白　時序無言木葉黃
長得尋僧来梵宇　何須起草借明光
昨宵風雨重陽近　邠老詩成寄草堂

遊鴈蕩三首

余應舉(號午渠，刑部郎中，南昌人)

縈迴磴道俯千盤　鴈蕩秋風立馬看
今古河山成混合　東南虎豹此雄蟠
長松日暎龍鱗起　靈瀑晴飛王乳寒
欲問蟾蜍無指顧　金光瑤草路漫漫

二

揚旌伐鼓怯斜暉　路轉峯廻翠作圍
天削玉蓮僧慣數　地盤金鼎鳥孤飛
貪遊露滴巖頭盖　趺坐雲霑石面衣
不用遠公来說法　休飡應解息塵機

三

凌晨蠟屐陟崔嵬　向夕攀蘿去未回
天柱赤霄擎日月　龍湫白晝吼風雷
空門茗盌當猿嘯　老衲袈裟候客来
華髮自憐箕潁癖　驅車明天台

鴈山有感

黃綰

西谷今来驚我老　詎那堂背又高亭
白晝回風散烟霧　清秋絕壑隱雷霆
嵓扃落月寒宵霽　石竇飛雲曉樹青
惆悵勝遊真不易　昔年蹤跡半凋零

龍湫

王汝孝(副使，山東人)

登登午磴躡層雲　飛瀑垂空淨紫
天上銀河疑倒瀉　人間素練相平分
疎松影落澄潭暎　古洞陰深亂竇聞
更愛巉完天柱對　翛然心賞已忘曛

遊雁山

吳仲禮(推官，南直隸人)

蠟屐頻年意不酬　塵鞅何復問丹丘
獲披雲際天人勝　安惜花間地主留
海嶽文章標雁蕩　古今烟雨挂龍湫
石床夜燭歸来夢　猶覺山靈聚一樓

早度四十九盤嶺

龍湫已轉三三曲　鳥道猶經七七蟠
正訝崛崎天與設　番將夷險宦同看
花風撲撲時牽屩　山日津津尚護嵐
歸袖誰矜有東海　余囊亦自畏巉岏

入雁山

趙廷松

至人夙住龍湫背　野客今登雁蕩山
萬里烟霞開曉霽　半空蒼翠墮秋顏
藍輿遠度青冥外　尊酒重携落照間
信宿探奇迷出處　初衣相對一僧閒

龍湫即事

陳猷(舉人，樂清人)

物外幽棲堪我老　間中佳興少人知
坐臨流水雨晴後　看到前山雲起時
萬壑斜陽摩詰畫　千峯黃葉謝公詩
明朝囘首龍湫路　白鶴玄猿繫我思

秋日陪諸公遊鴈山

朱守宣

北蕩山前候鴈飛　涼風天畔灑秋衣
雲中挾客尋詩去　谷口逢僧步月歸
萬里滄江蟠大地　千峯黃葉下斜暉
遐觀漫有登臨興　何處夷歌度翠微

靈岩寺

李顯

一徑逶迤入翠微　雲間鐘磬出岩扉
甘泉細向方塘落　白鶴依碧嶂飛
瑤草春風迷藥鼎　曇花天雨散珠璣
尋幽更上峯頭立　萬疊青螺擁四圍

詠鴈山

蒿賓(號薛峯，知縣，山東人)

試將山水論奇絕　鴈蕩應為天下宗
跨海門三百里　直蟠鰲背五千峯
青厓丹壑飛靈鳥　紫草玄雲秘石淙
日暮猶緣藤起處　强登絕巘兩三重

宿能仁

吳玄彬(號石山，樂清人)

重尋蠟屐舊時痕　峻坂迴流幾度村
客倦白雲山外路　僧開秋竹寺邊門
一溪幽跡新過鹿　萬壑清哀獨嘯猿
苦憶能仁今始到　上方鍾動月初昏

石梁洞

葉材(號木庵，推官，常州人)

石梁洞府久知名　此日登臨布襪輕
嵐暝晚烟疊翠　泉迷野草暗傳聲
清虛迥與人間別　詩句多從景外生
老衲也知山水好　傍花隨我作春行

羅漢洞

黃俌(郎中，贈詹事，兼學士，岩人)

迢迢驛路繞晴川　恠石奇峯萬壑連
嵓漏無雲常自雨　洞虛有白不知天
靈通此地成風穴　覺照何人得妙傳
更有雙鸞持洞口　石門從古不須關

宿靈岩

葉良佩(號海峯，郎中，太平人)

探奇留宿靈岩寺　東谷雲收雨乍晴

天柱峯頭觀出日　玉人洞口聽吹笙
醉緣鳥道窮愁散　渴飲龍湫肺疾平
尚憶蓬萊多勝境　揮毫萬里獨含情

能仁

曇花西下散繁陰　坐愛籃輿度遠岑
日抱祥雲明海觀　溪迴瑞鹿見叢林
殘碑細認千年事　短屐長懷五嶽心
擬結金蘭歸白社　共将風雅寄鳴琴

雪洞

吳九儀(號天遊子，庠生，布政長子)

甕底乾坤自一家　玉堂瓊館未須誇
紙屏石枕眠雲影　竹几蒲團坐月華
招引寒光明貝葉　扶持清夢到梅花
覺来天地皆秋色　身在僊翁海上槎

鴈山

吳九思(號少崖，同知，樂清人)

鴈蕩群山多小峯　青天亘面削芙蓉
東南攬結烟霞秀　西北崚[山*層]紫翠重
倒影不妨随水去　潛形常恠被雲封
興豪飛上太華頂　渤海扶桑指顧中

鴈山

朱玄誥(號兩溪，知縣，樂清人)

山自芙蓉勢漸雄　謝公蠟屐路西東
湫龍好送催詩雨　蕩雁猶憐落帽風
野店酒旗蒼篠外　僧家蘭若翠微中
上方昏黑應須到　行樂那愁返照紅

鴈山

侯廷誡(號雁樵，舉人，樂清人)

人道山行秋獨宜　我来正好鴈歸時
雲埋絕壑半如失　峯接晴空久欲疑
好鳥迎人初出谷　飛泉作雨故催詩
山僧却有臨行囑　莫向人言路有岐

靈峯

蔡宗堯(舉人，台州人)

靈峯古洞入巉巇　湖海幽期只浪看
遂竇潛通龍母宅　凝雲深鎖佛王壇
人呼絕壑天花墮　鶴唳空山月影寒
何日約從王子晉　鳳笙吹動碧琅玕

鴈山春行

承德(國子生，岩人)

鴈蕩春深翠接空　登臨迢遞見諸峯

溪流雲錦浮丹葉　洞合烟蘿倚碧松
古寺鳴鐘龍欲起　層林飛磴雪還封
今来擬作烟霞伴　蠟屐重尋謝客踪

約遊鴈山

徐世鑣(庠生，樂清人)

康樂相攜秋蚤還　暮蟬寒葉滿空山
一天瀑氣侵衣冷　四谷蒼聲落坐閒
日出鳥啼煙樹裡　月斜猿嘯島藤間
願借壺中功德水　因君相對洗塵顔

鴈山午次古韻

朱文簡(號墨溪，知縣，樂清人)

獨上高山逸興飛　幾村茆屋午煙微
崖前晴瀑半空下　雲外漁舟何處歸
赤手我能摩碧落　醉歌誰共倚斜暉
蓬萊咫尺合飛去　願藉天風吹我衣

秋日同友人遊鴈山

王國

羽客相携尋鴈蕩　白雲深處碧溪流
半空絕藤蘿古　萬嶺寒烟竹樹幽
石洞玄陰收伏暑　雁湖晴瀑瀉高秋
十洲記裡分奇絕　盡日貪看足勝遊

鴈山次韻

鮑德輝(號東岡，国子生，樂清人)

笑解塵纓濯碧潭　似聞唱望江南
雲横絕迷僊穴　瀑瀉懸厓濺佛龕
蕩雁已歸風落木　湫龍欲起雨隨驂
此生擬有探幽分　曾與山靈約再三

遊鴈山

王曉

躋攀極目畫煙嵐　白堕深傾暫駐驂
泉瀉龍湫飛雨雪　天開鴈蕩壯東南
輞川圖絕仍非擬　靈運遊多尚未探
編歷封疆吾所事　瑰奇况復性偏耽

登鴈山

薛應旂(號方山，提孝，武進人)

海上山多此獨名　登臨真若在蓬瀛
龍湫雙瀑穿雲瀉　鳥道千松應谷鳴
隱見岡巒棲虎豹　歌傾激澗躍鯢鯨
幽奇自是天珎秘　靈運不来何重輕

登鴈蕩山

王曉

鴈山采入轉[巑-曷+老]峨　欲向芙蓉問詎那
神瀼遠従千澗落　藍輿忽傍五雲過
秋深丹葉濃於染　天際青峯鋭似戈
竹院逢僧話未得　宦遊久矣負維摩

過能仁偕僧觀龍湫諸勝

何濆巖

開山震旦是何年　萬疊雲烟大海邊
路入靈湫常受記　山依鴈蕩命安禪
齋厨舊鑊眠芳草　別院頹垣斷野烟
惟有老僧堪杖策　盡憑指引到諸天

觀龍鼻水

獨秀峰前秋日曛　穿林躡磴入層雲
龍噓古洞垂涓滴　壁綉蒼苔隱篆文
卓筆書空山晻靄　展旗披徑書氤氳
岩扃翠巘都成畫　海上僊山愜所聞

憩能仁寺次何宦岩韻

龔大器(副使，湖廣人)

采藥山中不計年　餐霞常駐碧山邊
焚香聽法曾留偈　揮麈逢僧幾問禪
泉落千峯浮海月　雲連雙嶼接江烟
寥寥彷彿聞鐘磬　疑是朝音下九天

遊鴈山

王臣(號瑶湖，南昌人)

東南此景真天造　杖屨躋攀日已斜
絕龍湫能作雨　半空石嶂自凝霞
雲岩虚静鳴泉溜　天柱孤高吐月華
了却吾儒經濟事　石田茅屋可移家

又

此山獨擅甌越勝　廿載相望今始登
龍湫日晴作雨灑　天柱月明疑掌撑
處高渾可攀南極　眼空直欲收東溟
同遊髣髴皆僊侶　何必海外求蓬瀛

龍湫

吳玄梅

懸崖千尺噴靈湫　飛雪晴空打石頭
自分一源来宕頂　不辭千里作江流
雷霆徃往魚龍夜　風雨時時天地秋
遮莫海槎銀漢上　詎那坐處不勝幽

雁山次韻

謾說乘槎海上浮　尋游須及雁山秋
竹深鶴共秋池静　松暝僧分午院幽
裊裊孤雲生斷石　蕭蕭落木墮寒流
老来筋力粗强健　遍歷諸天到上頭

遊龍湫

金翮(號文峯，郎中，樂清人)

洗眼空山寒澗裏　仰看瀑布半天垂
興公賦內何如此　供奉詩中一見之
白雪亂翻星宿海　玉虹倒挂影娥池
挂冠擬欲辭神武　結屋禪林愜宿期

雨後同朱靈谷入山

王叔果

幾年寤寐名山游　此日登臨逢素秋
有客共飛蒼玉舄　題詩寄紫霞樓
靈湫帶雨添奇勝　峭壁連雲邃幽
應接滿前真不暇　卜棲舍此更何求

大龍湫

王村杲(號暘谷，叅政，永嘉人)

排空峭壁欝崔嵬　不盡銀濤天際來
忽訝疎林懸彩蜺　却疑幽壑動晴雷
風飄瓊沫沾行盖　日映瑤華落酒杯
便欲窮源攀絕頂　雲端騁望一裴徊

靈岩寺

覽勝名山興未酣　藍輿到處恣幽探

千尋丹壁開霞嶂　一簇奇峰護佛龕
石罅龍蟠垂玉髓　崖端僧臘禮金函
酒闌日落渾忘去　坐看松枝月半含

靈峯洞

何年神斧鑿岩礲　解道天開大士宮
亥磴緣崖藏窈窕　靈泉迸石洒冥濛
叅差五老排雲並　夭矯雙鸞獻秀同
對境恍然迷處所　却疑杖曷已凌空

石門潭

萬壑溪流向此　紫崖中斷石門危
奔湍噴薄千巖動　積水涵虛一鏡披
潭底神魚潛欲化　雲端歸雁度還疑
竭来未盡登臨興　欲理浮槎弄碧漪

靈峯洞

王叔本(號後橋，署丞，永嘉人)

洞天虛敞淨煙氛　望裏諸峯秀不群
翠壁玲瓏含旭日　梯峻絕晴雲
隔林霞彩空中變　近寺聲象外聞
欲駐頹齡問棲隱　千年石髓若為分

玉女峯

王宗沐(號敬所，侍郎，台州人)

萬丈丹梯次第攀　稍從層磴指仙關
空言玉女延初月　苦憶鸞蕭久不還
碧水遠疑奩鏡啟　綠蘿長似帶絲閑
登遊秖益羈人思　錦瑟湘妃曲未闌

宿能仁

何汝哲(號鴈州，舉人，臨海人)

乘閑際此到芙容　上見層巒列異峯
千仞靈湫通碧漢　一鉤新月照青松
鐘聲細細驚思客　禪話頻頻起卧龍
未盡登臨無限興　春風来日且從容

靈峯洞

張存鉅(號雲橋，知洲，樂清人)

玉府平生勞想像　那知只在海南邨
玲瓏漏日斜開竇　宛轉通天別有門
黃石橋邊来赴約　赤松鶴背可傳言
出山回首看雲際　迷却花深處源

又

蠟屐靈峯洞裏遊　旋攀石磴歷深幽
峯頭老樹連青漢　洞口寒烟鎖碧流
好鳥向人饒野意　時花夾道簇閒眸
匆匆未盡臨登與　尊酒斜陽且暫留

龍湫觀瀑

康従理

谷轉峰迴路有無　四天蒼翠入清都
懸厓噴瀑寒相濺　半壁栖雲裊自孤
風捲晴光翻玉蝀　日銜清影散氷壺
尋源我欲乘秋去　一借僊人九節扶

宿能仁候觀察吳公不至

康従理

海上靈區亦故丘　白頭新媿畏粮遊
湖標鴻雁孤侵漢　山削芙容別帶秋
深谷未銷龍樹色　殘碑猶帶梵天愁
空林日暮歸雲度　片片如將節使旂

龍湫谷有懷壺梁山

顧聖之

憶壺梁弱水頭　海濵踪跡幾瀛州
漂流人世三千界　恍忽僊家十二樓
雲裏瑶池分鴈蕩　夢中神漢溢龍湫
故人明月空遐矚　獨鴈飛来又早秋

次韻酬蕩南先生遊鴈山

方軒

緊絆芒鞋入舊山　青蓮簇簇白雲間
相從麋鹿雲中伴　謝却鴛鸞天上斑

老去閒情随處得　秋来詩句未容慳
就中已與紅塵隔　安用神丹煉大還

九日同吳願夫登鴈山最高處

張書紳

九月九日寒氣清　霜風吹客雲中行
置身萬仞走廓　仰天一嘯卑滄溟
青錢慳酒更何意　黃菊向人空有情
興来偶尔發狂叫　起舞長劒雙龍鳴

風洞寄懷吳千峯先生

十年南閤牽清夢　咫尺靈峯隔論心
江海我懸徐孺榻　水山誰賞伯牙音
雁湖九月雁鴻舉　風洞一床風雨深
獨把新詩見顏色　相思楓葉滿寒林

龍湫偶書

十年清夢此山遊　雙舄今經山上頭
不為叅禪尋鴈宕　偶因看瀑過龍湫
峰攢天柱雲霄近　目極星槎江漢浮
憶前身卧牛斗　道衣猶記泛東甌

遊鴈山歸途

張國紀(教諭，號瑞岩，安吉人)

摘璧攀蘿覺倦遊　蒼崖翠徑已深秋
田看鴈宕天猶近　夢想龍湫水自流
謝客登山偏有興　陶公載酒豈無儔
啣杯落日溪亭畔　應怪山靈不見留

遊鴈蕩

俞邦韶(號鑑湖，新昌人)

芙蓉萬朵植雲衢　叠嶂危巒倚翠微
泉瀑龍湫光奪日　風生靈谷冷侵衣
石梁橋下魚從躍　天柱峰前鶴自飛
盡日躋攀登絕頂　恍疑有踏接瑤池

靈峰洞

陳謨(號鳴峯，樂清人)

誌公道左報靈峰　未躡夷庚興倍濃
乍接逶巒供遠翠　田看五老斂傾容
巖扃泉落瓊珠溢　洞口烟封錦繡重
再拜應真為我貯　休捋佳趣付塵蒙

靈峰洞

青嶂蒼崖此欝盤　僊庭俯瞰碧霄端
草間石碣年難辨　石上飛流夏亦寒
雲斂洞門歸五老　天空木末下雙鸞
冷然已出人間世　勾漏何湏問大丹

靈峯洞

李含(樂清人，貢士)

捫蘿磴上崔巍　古洞陰陰天際開
地迥金人隣斗極　年深石碣翳莓苔
玄猿接臂巖前掛　老鶴聯翔雲外迴
兀坐泠然忘幻想　恍疑身世是蓬萊

靈巖寺

王士昌(給舍，臨海人)

絕壁沿迴勢若墉　青天忽墮翠芙蓉
地雄轉覺林巒壯　雲方知澗壑重
屏隱霞標迎玉女　崖懸石乳掛蒼龍
鴈湖更在諸峯外　濟勝還須九節笻

靈巖寺

何湛之(參議，南直隸人)

磴道盤雲歷翠微　石屏霞嶂欝崔嵬
泉珠滴瀝龍孤臥　岩頂蒼茫鴈幾回
漢數峰鴛鳳舞　叅天一柱斗牛廻
啣杯白日衣裳冷　萬里扶搖海氣束

五言古詩

晉

斤竹澗越嶺溪行

猿啼誠知曙　谷幽光未顯
岩下雲方合　花上露猶泫
邂逅傍隈奥　迢陟陘峴
過澗既厲急　登淺亦凌緬
川渚晨徑復　乘流既迴轉
蘋萍汎溶洋　菰蒲胃清淺
企石挹飛泉　攀樹摘葉卷
想見山中人　薜蘿若在眼
握蘭勤徒結　折麻心莫展
情周想為美　事殊竟難辨
觀此遺物慮　一悟得所遣

石門山

晨策尋石　夕息在山捿
疏風枕高館　對嶺臨迴溪
長林羅戶庭　積石擁堦基
連岩覺路塞　竹使徑迷
来人忌新術　去子迷故蹊
活活夕流駛　嘒嘒夜猿啼
沉冥豈別理　守道自不攜
心契九秋幹　目玩三春荑
居常以待終　處順故安排
惜無同懷客　共登青雲梯

夜宿石門

朝搴苑中蘭　畏彼霜下歇
暝還雲際宿　弄此石上月
鳥鳴識夜棲　木落知秋發
異音同至聽　殊響俱清越

妙物莫為賞　芳酳誰與伐
美人竟不来　鳴珂徒晞髮

宋

遊鴈蕩

梅溪

鴈山五經眼　茲行尤可觀
初冬天氣佳　鴈歸山未寒
有日照幽谷　無雲翳層巒
入景見常雲　振衣登馬鞍
瀑泉飛玉龍　羽旗翔鸞
石柱屹天外　卓筆書雲端
靈峰觀石室　杖屨穿巑岏
山禽知我来　好音若相歡
羣峯列春笋　丹青狀尤難
行色愧匆匆　更約他時看

度謝公嶺

十九年行役　屢經此山中
愛山不厭觀　每愧行匆匆
大士瞻詎那　騷人思謝公
一生看不足　語如白頭翁

遊靈岩靈峯，寄輝老禪

鴈蕩冠天下　靈岩尤絕奇
烟霞列屏障(平霞障)　日月明旌旗(展旗峯)
岩前有卓筆　可以書雄詞(卓筆峯)

天聰况非　洞然聽無疑(天聰洞)
願起靈湫龍　雲雨行可為(大小二龍湫)
願用真柱石　永支廊廟危(天柱峯)
願煽造化爐　四海歸雍熙(煽輔爐峯)
願拈鸞鳳友　朝廷相羽儀(雙鸞峯)
何人夢石室　妄談夸一時(石室洞)
那能了世緣　未免貪嗔痴
名山誤見污　公議安可欺
願借龍湫水　一洗了堂碑
詩以寄老禪　狂言勿吾嗤

遊鴈蕩

范宗尹

一徑入幽谷　隨山幾縈盤
雲樹深蓊蔚　石溪自潺湲
我来春色曉　山花亦何繁
好鳥不知名　向人自關關
遣我發興新　探討忘疲艱
龍湫信奇絕　飛泉落雲間
快瀉萬斛珠　濺沫霜雪寒
尊者所經行　草木不可芟
敢将塵土足　濯此清冷灣
晚投山僧家　山作碧玉環
高堂極虚明　可寄須更閑
此行端為山　山窮我當還
明朝驅車去　依然隨塵寰
勝趣未嘗忘　神遊清夜間

和立齋先生鴈山韻

宋車若水(號玉峯，黃岩人)

洗山出穹石　削空蹲蒼城
一清屹萬古　何物相與形
步涉貪深遊　往往神所兵
立齋立千仞　天地鑑清聲
平平遡龍準　不見猿鳥驚
斯道今沂寥　斯人世重輕
槩天隻柱健　此嘱誰堪膺

遊靈岩

一徑碧如合　四山危欲堕
天低鳥不飛　露濕龍常過
岩根小葉下　境不可唾
深香洞出雲　冷鐘佛驚卧
川僧住八年　有此清福大
而我尋盟来　坐借蒲團破
燈深眼雙青　各話其所課
我穀未必實　他華已成果
歸来宜有餘　吾道豈全懦
閒清獻存　當年愧輕和

宿靈岩贈長老敏行

梅溪

籃輿謝公嶺　杖屨詎那室
淨名訪維摩　一菴僅容膝
尋僧畫屏中　往往多八十
平生看不足　靈岩最奇特(靈岩有看不足亭)
老禪蜀中来　心印傳佛日
脚力窮天下　稱此為第一(敏行自西来歷諸名山謂無如鴈蕩山之勝)
茲山昔未開　藏閉最深
儻不遇明　造物肯容出
孫公賦天台　勝地尚遺逸

我欲續金聲　願借山中筆(峯有卓筆)

元

大龍湫

陳剛(字公潛，平陽人，號潛齋)

出寺西北行　怪石立前後
陰沉傍羣木　苔徑修蛇走
蒼崖迴合中　仰視天半畝
玉龍千尺飛　散作風雨吼
碧澗搖空濛　餘波蕩林藪
人言發源處　空洞蟠蚴蟉

與叔夏遊石門叔夏有狠石，忽中斷勢，若兩虎

鬬之句，予輒足之

李五峯

狠石忽中斷　勢若兩虎鬬
白龍来喚之(喚一作嗅)　仙聖不敢捄
想當二物爭雌雄　憑夷擊鼓張其咮
日車為之翻　地軸為之仆
至今兩門開　天遣百永湊(永一作水)
吾聞神禹疏龍門　蜿蜒偃伏夾左右
坐令遺黎收樹藝　嗟哉神龍之功獨何有

觀龍鼻天柱，贈欽上人

天根盤海底　大浪舂其南

山盡萌芽　迸出碧玉簪
濤波蝕之半　玲瓏兀空龕
其陰生琪玕　其陽産楩楠
絕頂逼太白　纔可一劒函
銀河從天来　白鳳毛氄氄
魚龍撼不醒　醉如卧箔蚕
其中黑無底　銅杖不可探
一綫出山腹　牛乳清而甘
清寒漱草木　日出香馣馣
雲霧忽捲去　玉氣射紫嵐
千峯碧菡萏　春霞散紅酣
或黝如蒼璧　或青如掞藍
或樹旗杠一　或覆鼎足三
或抉如怒猊　或呀如洪蚶
或如馬善踶　或如虎視耽
聳者如樓觀　窾者如罃甒
仰者如箕踞　俯者如負儋
或螺髻紺目　儼雅如瞿曇
或厖眉鮐背　傴僂如老聃
矯如天女戲　卑如童子叅
萬鬼若斲削　天巧未易談
招提十八寺　過者常挽驂
中有天人師　久卧老栢菴
法界如塵沙　一一毛端含
長風吹遊子　鬢髮青鬖鬖
幽尋忽至此　佳處若已諳
我家鴈山頂　擇勝不敢貪
但悲食塵子　腐作書中蟫
相逢一大咲　新詩出長錟
明朝芙蓉路　惟聽霜鍾

同靳従矩宿鴈山天柱院

東南地勢下　海水復善齧
青天久軒輊　獨見斗柄揭
古帝省下土　東維成欹缺

大靈駿奔走　蛟螭攲其穴
洚水縮地入　萬鬼拔山出
想見風雨黑　電火上下掣
兩柱俄支撐　真宰仰咋舌
遂令天行健　不復見卼臲
鬼工妙斲削　又不見剜缺(缺一作　)
日月轉半腹　隱避若兩蝶
我夜卧其旁　戶外白如月
開天冥冥　岩崿立積雪
居然混沌素　元氣淡不裂
平生山水性　念此心屢結
緬懷萬物初　天地亦芽蘖
人如螻蟻　細大強區別
俯仰聊自喻　白雲一怡悅
亭午日氣近　鳴鳥着清樾
我僕膏我車　前路在[喋-口+山]嵲

國朝

黃淮

端居困沉鬱　薄遊暢幽懷
鴈蕩夙所慕　素志今始諧
陟境思已清　歷覽萬像詼
屹如錦屏列　粲若青蓮開
一柱擎天起　日月相往回
羣峯走其下　聯絡羅嬰孩
誰提并州剪　越羅不可裁
誰立趙壁幟　勁氣那能摧
玉女跨雙鸞　昂身紫霞堆
邀我綰卓筆　灑墨題蒼崖
石梁險莫測　飛虹架迴溪
側足難徑度　佇立空徘徊
或云神斧運　剗削搜坤倪
或云洪濤湧　衝激遺筋骸
詭狀欲窮詰　妄執成疑猜

龍湫洩嵌竇　跳珠散瓊玟
飄然隨長風　雲霧排空来
詎那清淨觀　跏趺據崇臺
佛剎十有八　廢址滋蒿萊
存者僅六七　甲乙推次排
能仁據其會　金碧耀璇題
鍾梵遠相荅　緇流互相攜
追尋謝公跡　陟嶺登崔嵬
摩挲舊碑碣　殘缺湮莓苔
懷賢發清嘯　驚起猿聲哀
更欲尋鴈湖　肩輿倦扳躋
從遊諸君子　秀拔皆英才
主席二老禪　法相真獅猊
欵留動洽旬　展席傾尊罍
賡和鏗金石　談笑驅風雷
懸車絕塵想　此樂信悠哉
採芝與斲苓　聖訓近可稽(少保文簡公致任宣宗皇帝御製詩以送之米云鴈蕩峯高清不極中有謝公舊遊迹採芝斲苓可長年應在天南憶天北)
維昔李謫仙　名與廬山齊
覽勝發豪句　曠達真吾儕
人生百年内　弱草棲纖埃
題詩紀歲月　重遊能幾回

北鴈步虛詞

鄭善夫(號少谷，郎中，閩縣人)

昔我夢翼飛　去與王子親
雙雙鸞鳳簫　吹破緱山雲
翻身大火坑　洗髓明河津
砉然馭白鹿　下宴瑤池春
枉駕鴈蕩陰　玄冥閉天閽
醉掃千丈石　萬刼留至文
只今靈峯洞　元氣猶氤氳
悲歌草木偃　坐嘯天地聞
歸来鏟光彩　大隱金馬門

君看東方生　至人伏垢氛
詎那不了道　一壑空云云

送葉澄遊鴈山還金陵，兼呈大司馬喬公

顧璘

泛覽名山圖　鴈蕩天下奇
天吳舉蓬島　亂擲滄海湄
巉岏老蛟脊　結曲蟠枝
攢峯蔽青冥　星斗晝陸離
靈湫到銀漢　六月飛寒澌
仙人隱洞府　玉簡靈文垂
白石充餱[飢-几+量]　紫芝可療飢
鳳笙乍縹緲　鶴駕時逶迤
綠髓苟未變　丹梯詎能窺
葉子道者流　夙稟烟霞姿
去年遊武當　未愜心所期
今春策短杖　直往了無疑
天台逢高生　拍手欣相持
遡流問源　探穴尋仇池
俯瞰不測淵　仰攀萬仞危
端坐天柱峯　要觀日出時
扶桑射東影　照見蒼龍髻
太湖僅一勺　匡廬忽平夷
呼酒酬蒼梧　鳳鳥来何遲
浩浩浙江濤　伍胥今為誰
花落已盡　芳草含碧滋
啼鶯勸客飲　正與烟光宜
滿舉白玉斗　吞却東南陲
坐覺方寸間　雲嶠相撑搘
歸来回風亭　目光如玻璃
磈磊作奇盡　琳琅吐新辭
顛倒雷電走　蒼茫神恠悲
十日說不輟　齒頰生涼颸
四座煩鬱散　聽者俱忘疲

靈秘自此洩　海若安能私
還拜大司馬　請陳賤子詩
定知巑岏勢　縱橫列階墀
迢金銀闕　夢寐如見之
謝客休掛席　孫公應解頤
何必舉五嶽　高下論等差
至樂有同好　難與俗子知

石梁

王獻芝

鬱鬱蒼翠墟　中隱維摩居
採藥茹石髓　吐氣升雲車
[門@(豆*斗)]虎化石梁　殘僧依洞虛
煮茗酌飛泉　共吸玄汁餘

小龍湫

錦屏百尺餘　萬斛洗珠絲
紛紛逐金　泊流波
半崖飛明霧　抱石隨風馳
餘霏忽霑衣　變態無常期
愛爾晦靈跡　破棘探幽奇
卷石辯古痕　索隱同我蚩
攀崖坐磯石　悠然思委蛇

入雲峯

孔天胤

所稟幽石姿　因心愛白雲

欣茲採秀往　涉此連山雯
輝潤忽屢回　輪囷互氤氳
似煙流非薄　觸石出逾殷
總與太虛混　都無區裡紛
芝盖倏已翔　羽人其来羣
帝鄉倘可至　豈羨雲中君

鴈山夜坐

趙廷松(號俟齋，副使，樂清人)

朝搴苑中蘭　畏彼霜下歇
宵吟謝公詩　清歌達明
節換心屢驚　年徂變玄髮
溪水鳴岩瀨　涼風響林樾
澗戶暎疎星　石梁橫天闕
空虛宜留人　光景坐超忽
懷人竟不来　西林照殘月

靈峯洞

吳子孝(推官，吳縣人)

神岫矗坤萌　危巖啟天竇
丹梯邈龍偃　涼風乃金奏
鏡沼竦碧幹　滃雲麗玄囿
允協丘中懷　江南獲靈覯
飛旋凌九霞　楊[社-土+圭]采三秀
悅彼乘鸞迹　願躡安期後

靈巖

紆組外塵慕　躚步仰天遊
霞嶂暎新綺　玉峯倚澄湫
雲深翠淨　谷窈丹泉流
閬風未足儷　珍恠焉可求
餘方　捫石歷遐
靈庭幾奇賞　矯首獨夷猶

龍壑軒夜坐

日入紫霞沒　天空玉露清
萬境盡奇絕　諸峯更分明
海鶴靜夜夢　山蟲高秋聲
步蟾起綴句　靈洞孤雲生

靈嵓次韻

吳朝鳳(號南岡，叅議，樂清人)

行入靈谷　天邊無數峯
石龍奮鱗甲　雲屋隱喬松
遠日騰海蜃　高風散寺鍾
秋光未蕭瑟　岩見芙蓉

龍壑軒次韻

露下看牛斗　陰陰毛骨清
霜寒山鬼泣　風細天河明
孤亭懸夜榻　萬籟送秋聲
隱几談玄罷　山頭新月生

石梁次韻

長虹起東海　故將青天遮
陰洞生虛白　清尊引落霞
雲開鳥墮影　巖漏雨生花
摩崖訪真迹　前村日半斜

遊龍湫遇雨

吳仲禮

客子數偶窮　龍湫忽烟雨
山靈詎我尤　造物忌多取
余僻良莫排　衝濕歷其阻
幽攀直到雲　果往無却武
危亭小爾憩　茲景疇績組
一道擲長烟　四塞皆噴霧
乍止神骨定　番思髮毛舉
嵐動欲浮嵓　霆吼兀撼柱
豈獨蒼懸　似盡銀河吐
深山大澤中　底事相眩瞀
但恐真物在　變化失昏午
異哉立海濤　鱗甲紛四顧
綃已控鮫人　珠誰散天姥
睠茲活潑勝　語大盖不禦
地猶局有所　天更無方助
我中長嘯　三才無所與

常雲峯初至作

侯二谷

禪林憩徒旅　迷霞及山半
靈颸豁曾雲　青天啟凌旦
四顧出芙蓉　孤峯入天漢

初瞻駭峻極　久佇忻奇[習*見]
離離生白雲　英英浮玉案
暝日轉霏微　迎風屡迴換
春衣林杪　暮雲栖嵓畔
冉冉孤鶴騫　歷歷羣鷗亂
忽紛殊態　終然倚
有似靜者心　靈明絕機貫
方同丈人
人保　居然使天叛
歸去來　逍永無

石梁

趙(貢士太平人)

節凌山阿　雙厓巨靈擘
矯　鑑寒古甃碧
澄水月襟　緬天路客
當侶喬　鍊金液

入龍湫

三照(號南石，貢士，嵓人)

曉拂靈嵓烟　晚觀瀑布泉
奔馳起絕壑　飛流瀉青天
煙橫縷忽斷　風散天瓢穿
臨流浩歎　起和廬山篇

鴈山

方召(號蕩雲，貢士，樂清人)

厩山高插天　形勝冠閩越
老翠盤崆峒　靈籟湫樾
落日愁栖猱　秋空碍飛鶻
望望令人憐　浩歌石山枕

將入厩蕩雨，憩樂清張，匡原朋府，邀同何徵？君無

咎，陳茂才納之，飲西塔院賦此
微尚寄名山　蕩南来杖屨
山靈欲試予　雨師遣相遇
賈勇氣方新　天光發裏素
夕翳忽以祛　晨熹恍將露
仙吏諧夙心　輟琴枉三顧
置酒臨崇岡　翠盤引高步
古剎入青霄　千峰莽廻互
海色生暮潮　葉葉風檣度
盪胷已生雲　握塵旋披霧
日落返巾車　裴徊婁溪路
朋發謝主人　花紅復来晤

萬曆戊戌夏五月既望谷潭逸客鄭汝璧書

張使君招同鄭中丞、陳茂才登西皋塔院，用中丞公韻

出郭眄西岑　嶔崎薄雲霧
磴道細盤空　披榛躡予步
蓮臺冠山椒　微鍾出深樹
僊令展芳讌　上客来絇履
憑高引睇　適與賞心晤
千峰奄南趨　婁流浩東注
飛雨海上来　烟霏澹將暮
亂帆信洄潮　歸禽共楊騖
儃佪眷故都　依依射游處
枌榆夔平阡　松楸感霜露

昔遘倏已新　今遊嘅非故
懷土軫深情　願言託毫素
況對子大夫　登高未能賦

何白(號丹霞樂清人)

夏日偕徵君何無咎、茂才陳納之，自能仁寺抵石梁洞

鄭汝璧(號崑巖，縉雲人)

偏憐夏日長　扶攜婁屐破蒼茫
時時衣桁深　巖泉帶雨香
巧乾坤多秀發　憩餘心地清凉
出山悔與前谿　又促藍輿度石梁

大龍湫注自鴈湖，飛瀑千丈，是山中奇絕處

浩蕩雲霄鴈影孤　銀河天際灑蓬壺
斷虹掛日時高下　疋練飄風乍有無
噓氣怳疑通帝座　標奇真已冠僊都
靈山空水堪舒嘯　何處還携五嶽圖

入靈巖眺玉女、婁鸞諸峰

踏遍芙蓉信短笻　千峰迴合擁僊蹤
鞭駈東海何年到　劒倚長空此地逢
婁管調成時引鳳　三茅丹就欲乘龍
夜来似聽群靈語　月明青鞋許過從

谷潭逸客，鄭汝璧書

大龍湫，用鄭中丞韻

葉璞(號慎所，雁山人)

玉島仙人十二壺　平分海色瀉霜都
喧奔白日爭夔革　寒濺青天落素揄
陰壑行龍腥樹暝　高旻寫雁峰孤
掌中牛斗真堪犯　不數寰瀛第一圖

登龍湫背

葉璞

疊巘重閼路不通　深瓢輕策倚崆峒
臥龍潭下水長碧　過雁峰前樹正紅
六谷雲來高島暮　三天花落貝壇空
八賢勝事堪追憶　獨理枯桐夕照中

七言古詩

宋

淨名寺

周邠

淨名菴畔水簾谷　萬仞蒼崖漱寒樹
布衣如簾窣地垂　更有鶯聲如度曲

鴈蕩山

釋惟一

四海名山曾過目　就中此景難圖錄
山前向見白頭翁　自道一生看不足

元

龍鼻水聽琴，為劉芳在作

五峯

玉笥仙人鞭白犀　天風吹度芙蓉溪
手脫長劒洗妖血　驚起石上玄蛟啼
炎沙燒尾鱗甲赤　腹中慘淡蟠雲霓
頑銕出冶太古色　霜露欲結風凄凄
老翁摩挲莫驚汝　置之膝上聽其語
大聲伏雷鳴地中　小聲颼颼吹風雨
阿香辛苦玉龍睡　收霆捲電還元氣
頷底明珠忽迸落　金支羅襪凌波去
江清雲煖天無風　暗潮自撼銀宮
紫髯玄甲卧不動　真翁龜息深至踵
大笑伜伸忽飛起　清月蕭蕭在秋水
君為我起扣其角　我亦長歌返其樸
却騎過海呼安期　還君七尺珊瑚枝

龍湫行，送軒宗冕歸山

居頂

大龍湫　小龍湫　青天倒瀉銀河流
海風吹練白杲杲　雪花滿面寒颼颼
詎那大士濯足處　碧波下見長蚪
山僧洗鉢白雲動　澗猿飲子蒼岩幽

神蹤隱現不可測　幻境變化誰能求
道人此地昔追遊　玲然一錫辭神州
天香飄飄滿衣袖　散作雨露東南陬
老夫送別歌龍湫　芙蓉花開溪水頭
永嘉妙語猶可續　永夜松聲消客愁
思君何處寄清梦　三十六峯明月秋

和沈憲副遊鴈山韻

採(少卿，永嘉人，文簡公子)

名山秀拔何穹然　呈奇獻異滄海邊
朶朶青削芙蓉妍　雙鸞颯沓挾飛仙
玉女相從下九天　赤城閩海相連
神僧西来欲扣禪　銀河倒瀉落奔川
詎那宴賞支陋肩　繡旗高張堅前
鰲柱聳立凌長烟　歸龍洞口垂腥涎
手提卓筆揮彩箋　石屏醉寫紫霞篇
佳句驚人遠近傳　敏捷獨數烏臺賢
恨不追遊為執鞭　海天雲樹徒聯蟬
嗟予性僻躭林泉　拂袂何當車早懸
飄然往買數頃田　看山把酒終餘年

瀑布歌

裴紳

瀑布噴流千仞岡　僧言中有老龍藏
吞雲激電下東海　隨風洒潤如飛霜
我来到此看不足　古殿陰森毛骨涼
疑是素絲挂絕壁　倒懸銀漢注石梁
屏風九疊錦霞張　影落明湖青黛光
老僧指點矜奇絕　忽如雷雨来愴忙
深山大澤人迹荒　風起夕曛驛路長

萬山回首轉羊腸　空留餘潤沾衣裳

大龍湫

王獻芝

千仞錦屏雲裏結　蕩湖老龍精沫泄
飛匪隱隱生白煙　舞空英英散晴雪
精光射日成長虹　瀟洒向人隨天風
露衣帶得清冷氣　倚壁坐對珠簾瓏
繞谷廻風欲盡轉　寒光暎日不可見
須臾出谷洗剪刀　剪斷行雲太空見
我欲隨龍遊越甌　豺狼股慄奔荒丘
乘時飛泉轉潤澤　消我東南萬古愁

龍鼻泉歌

夏鍭

巨靈何年一血指　擘開百丈蒼色石
驅龍出山不出山　至今尚有蜿蜒迹
雲斷天乾石自潤　龍息深深泉一滴
世間萬事見者真　病眼摩挲尚青壁

同五溪萬公酌瀑布下

朱諫

高崖仰刺天骨碧　龍湫水自崖端出
雲間一瀉到深潭　上下相懸幾千尺
和風習習嵐氣消　細雨霏霏酒杯濕
貪看未盡眼力高　葛巾岸向斜陽立

先生慣識川流意　駐屐停驂總深契
白頭老叟亦忘歸　點筆斜闌覓詩句

過鴈蕩山中

趙濮規(教諭，號東崖，樂清人)

步躋谷口九盤頂　望凌虛積翠擎
遍歷一千三佛界　如登十二五樓城
山中誰布金地　天上空傳白玉京
嶺路夕陽車馬客　應知當日是昇平

龍湫

翠壁削圍雲畔起　銀河倒瀉自天来
懸流雨洒飄寒玉　飛沫風旋散瞑埃
晴敞虹光潭影炫　煖融氷溜谷聲摧
乾坤此地真奇絕　清興百年能幾廻

鴈山從事有感届行賦此

張子琿(萬安人，知縣)

巨鰲屹立海之東　化作峰巒幾許重
鴈宕瀑飛平地雪　龍湫氣吐半天虹
巉巖五老雲中峙　窈窕婁鸞月下逢
玉女剪刀裁雲錦　老僧抱石朝天宮
峩峩卓筆兼芝草　矗矗展旗及戲龍
龍鼻水将王液灑　石梁洞比天台雄
觀音端拱蓮花座　童子時鳴金鼎鍾
南北碧霄成彩岫　東西靈谷列屏風
朝陽嶂對鳳凰嶺　合掌泉皈羅漢峰

觸目騁懷皆美景　車塵馬足似傷農
先年舊主歸方亟　此日新詩思未工
旦莫相逢夢寐　躋攀只在畫圖中
遙知冠盖登臨興　可柰閭閻杼軸空
喜有黎寬騶從看　山僧滿饌獻青驄

排律

五言

題靈岩寺

張允中

曉入靈岩寺　靈蹤一一穿
天聰鑿混沌　龍鼻滴潺湲
不雨山長濕　微風谷競喧
鸞旗開障日　鰲柱仰擎天
鴈異靈山鷲　蒲非華頂蓮
重臺疑魏載　卓筆豈張顛
夜月連千嶂　晴雲盡一川
詎那常宴坐　行亮昔安禪
共樂仙遊勝　都將世事捐
雙鸞如我跨　擬把石碑鐫

靈岩寄跡

李彥明

橋拄仙遊策　谷聞禪定鍾
舉頭天柱逼　眩目障霞紅
辨印紫泥濕　讀碑蒼蘚封
海梁莫架　天近聽宜聰
笑跨雙鸞去　才非獨秀鍾

題詩僧抱石　童子怪匆匆(俱峯障岩洞名)

過靈岩寺

翁仲通

勝境多奇絕　靈峯更卓然
石屏環殿廡　天柱隱雲烟
化現神仙窟　聰開洞府天
數峯珉琢出　疊障玉排聯
岑寂坐僧寶　巍峩朝列仙
鴈池飄瀑布　龍鼻滴甘泉
西竇清泠響　南巒紫翠妍
秀尖侔卓筆　虛谷好安禪
石笋百千狀　崖松一萬年
謝公徒悵望　呂相昔留連
勝景應無比　清遊亦有緣
騷人吟不盡　畫手巧難傳

七言

遊鴈蕩

李五峯

盤盤古蕩倚蒼穹　勢壓坤輿距海東
異境從真三島外　羣山呈技五雲中
玲瓏勝剎連星斗　杳渺神鰲戴華嵩
香霧千屏金沆[泳-永+(蘆-卄)]　煖霞萬簇錦芙蓉
峯亭玉女螺鬟躡　瀑瀉氷簾雨氣濃
怪底雙鸞翔彩鳳　嶄然絕掛蒼龍
展旗輕颺神僧洞　天柱相高玉笋叢
偃盖紫芝當錦悵　挺標卓筆對天聰
北瞻瑞鹿晴嵐薄　西遡飛泉紫翠重

鉅宦来觀留好句　名才遠訪暢幽棕
躋攀適帶琴尊並　嘯覽紛陪杖屨同
倦客豈知今再到　老禪能記昔相逢
水盤甘脆傳秋果　芳飣新柔薦晚菘
遠社飛杯深繾綣　贊房對榻重從容
晃衣楓錦飄階葉　吹珮松濤度曲風
悟趣只知玄圃近　探幽擬與虎溪通
掛巾五老窺靈穴　脫屐常雲濯劒鋒
涵日影摇臨水塔　破烟聲度隔林鐘
千年紀載文光爛　數日盤桓目力窮
鐫石題詩状難盡　遍圖勝槩貯詩筒

古詩長短句

登靈峯

元陳德永(號兩峯，岩人)

我疑遂古初　奔精堕南斗
元氣淋漓擘石開　帝遣巨靈来試手
想當剝削時　震撼天亦驚
至今萬萬古　[卄/(凵@(口*了*又))]萏摇空青
空青離立盡奇峭　遊子見之為改貌
又恐濤波舂蝕餘　尺土無由逗痕竅
一峯黝黑中窈弘　下有線路攀幽藤
崖心如瞰鬼窟穴　石口忽漏天聰明
前直兩峯上雲雨　来效奇若掀舞
横林掩苒夕氣薰　飛翠走香洒晴紫
班荊久低回　沉思綜玄理
壯哉天地功　設奇乃如此
大風簸積氣　勢至即凝聚
坳坎機則然　胡為浪嗟擬
翻然破来路　寒月照潭水

鴈蕩吟，送秦文學還吳

鴈之蕩兮乃在甌　越之野瀛海之堧
有萬[卄/(凵@(口*了*又))]菡鑱青天　東南形勝此其最　我嘗着屐周覽扵其間
厥初宰物孕雄恠　元氣混沌何由穿
巨靈運斤鑿鬼竅　列缺吐火施神鞭
遂令後爾萬萬古　見此錯愕難為言
上疑日車解轡傾側過　下恐地軸撓動相鈎牽
昨夢尋君拂烟去　有擁芝盖導我前
崗崖旁豁瞰空洞　廻溪不定行蜿蜒
狂雷砰訇起何處　白龍噴薄飛層巔
熊蹲豹擲若怒若啼　霞明霧湧倏閉倏開
重重掩掩變幻不可以極兮　我方矯首睨立乎雲梯
南望海水不滿杯　灣環下繞山足来
仰攀玉女駕　笑踏飛鸞低
羣僊集倒影　雜佩中徘徊
聳身直上浩無際　海月正掛吹簫臺
於焉得深悟　扶桑警天雞
蘧蘧驚覺在枕席　但聞落葉如雨風凄凄
君来謝我欲西邁　惜此不及窮扶携
我知君身有靈氣　世上塵土胡能迷
推仁澤物本吾事　成功斂退真奇哉
碧花俟君到　勿使引領雙眉摧

鴈山書院

張邦奇(號甬川，尚書，四明人)

君不見　鴈山盤紆東海壖　西有靈谷吐納千峰萬壑之雲烟
平疇黍稌欝蒼玉　曲澗松篁鳴綺絃
谷中主人雅高尚　築室讀書多幾年
客来煮茗坐深夜　共訝清風明月
由来偏我今白頭　厭塵鞅　幾囬夢落僊岩泉
當買舟携酒問幽勝　日夕與子相盤旋

鴈蕩篇，和許松皐韻

黃綰

南條既窮轉而東　山水秀異爭籠巃
中有雁蕩最奇絕　盤桓百里皆昭融
山根拔地三千七百丈　穹湖隱漫不知何代曾沉鍾
蒹葭楊柳似非世間物　但見鴻鴈翽翽飛来同
我昔経覲猶記憶　軒身直上倒看滄海華夷空
方壺倏閃萬状總瓏　或踞虎豹或蹲羆熊
中天屹屹銅柱出　揚旗攢戟抗長雲而上攻
忽漫丹臺掩暎掛霞嶂　珠簾垂地聲淙淙
雄風撼谷散作霧靄随飛龍　真元惜三萬載
詎那卓錫其藏兮　至今樓閣憑蒼穹
梵宮十八黝復明　六谷瑰詭浮煙容
曲池湛綠水　錦溪奔狨
天橋駕飛絕　寒坑極幽雄
石門中斷湖霧起　下有三井混然皆神工
方嵓望群山蔟　玉環跨海不可通
南溪僊亭遠相接　括蒼迤[這-言+里]何當窮
我曾令夸娥眉山　半夜聲隆隆
須臾險恠會　几席不須緣藤胼足　晏然坐我恬而冲
澡垢入温泉　平生畢深
洞前願築一畝宮　雲霞不偶世　簞瓢我將終
矯首山水與之化　誰猶議擬椎鑿非人功
君不見　天地初判水火風　大浸混沌崑崙凝
中古水始消　此山[山*截]嵲元在風水蕩激中

序

宋

鴈山圖序

袁采(縣令)

唐一行禪師言：所言南戒(一行按，輿圖分天下山川為南北二戒，以河為中)，盖至鴈蕩山而盡。山石像物賦形，步移即換，岩瀑噴濺飛沫，俄頃百態，且限以重岡複嶺，實不可模寫。邑有倪端世，以畫鴈山名。某嘗迎送及祠禱，三走山間，默記所歷，歸按其圖，差紊為多。凡畫止一面，此山前後向背、左右偏側皆有奇妙，雖善書者尤難施工。乃與商較，令背者面，側者正，每寺為小圖，附《樂清志》。一峯而三二名者，各随其寺所見，又合為大圖二。大抵東西四谷，自縣往者由西始。西外谷有寺四，曰古塔、靈雲、寶冠、石門，其流水大芙蓉港，出纜嶼，其路平夷。西谷有寺七，曰能仁、羅漢、飛泉、普明、天柱、華嚴、瑞鹿，其水自峽流筯竹澗，出清江，皆峻嶺。自石門来者曰東嶺，自芙蓉来者曰丹芳嶺，自筯竹来者曰飛泉嶺，達于東谷曰馬鞍。嶺東谷有寺四，曰靈岩、淨名、靈峯、真濟，其水自峽流白溪，溪上有路通白溪驛(驛舊在嶺南白溪，今徙于白若嶺比大荊，曰嶺店驛)東北有嶺曰謝公嶺，達東外谷有寺曰石梁。自石梁東北至雙峯，以達岩。左有谷曰南北閤，南閤乃鴈蕩之北，有崇德寺，水自蕩頂分流，山亦奇勝。舊圖不載，今附焉，庶見其大槩云。

國朝

遊鴈山詩序

方石謝鐸(侍郎，太平人)

成化庚子，予以憂解官南歸。越三年，從吾叔父太守先生，與一二布衣陳敬所、郭筠心諸公登方岩，望天台鴈蕩。盖蓬萊三島諸仙人若可招而得，謂極吾山水平生之好，將自茲始矣。未幾，復有所掣，不果遂。明年乃遊塔山。又明年，謁番易應先生宿流慶寺。先生曰：「吾老矣，遠不可至，若聖水，諸公能相與一行乎？」又明年，余秋崖存敬聞之，請為東道主，以遂尋茲約。濵行，忍菴章公遣其子玄貞來，邀登鴈山。予重違番易之約，未果也。既而番易以疾報，遂輟存敬之請。乃從太守先生偕敬所、筠心、嶼南諸公過忍菴所。越宿，度謝公嶺，臨照膽潭，入靈峰洞，過靈岩，觀天柱、卓筆、展旗諸峯，至龍鼻水而止。於是忍菴之從子門君来會。既暮，抵能仁寺而止宿焉。明日，還過大龍湫觀瀑布，望鴈湖絕頂，相與咨嗟嘆息，以為天下之奇觀盡矣。遂復由故道過忍菴而宿。又明日乃歸，九月十日也。嗚呼！鴈山在東南，名天下舊矣。吾相去不數十里，而往来于心者也不啻數十年，乃不得一至。暨其

至也，復輟聖水之行而後果。豈茲山之遭亦固有數邪？夫以數，則一山之遭且不易得。然則吾人知得以詩酒，自於溪風山月之間，以相與優游於太平全盛之世者，可不自賀其所遭之大幸也哉！雖然，山水之樂在天地間，固取之不窮而得之無禁，然極意之所向而過之，亦皆足為害，又豈但富貴利達間哉？吾用是愧無以上酬所遭於萬一，而又懼若茲山之遭，樂而不知所極也。敢質之同遊諸公與吾太守先生，不識亦以為然否？聯句凡若干首，其名字各著于下方，而凡諸同遊者，亦得以次見焉。

修鴈山志序

潘攽

踰浙水以東多名山，東南近海，上尤秀絕。天台、四明、鴈蕩、天姥，皆為天下大觀，而選幽探奇，類以鴈山為首。前典漫漶無所考，蕩南朱先生今始克志之，而於鍾靈以名世者，顯晦、利鈍、小大類以傳輯，間嘗閱之，恍然重有感焉。其奇峯疊嶂，[石*含]砑嶮巇，立者如植，蹲者如傴，起而迎者如奔，背而去者如逝，邐迤者如舞目，左右接不暇，蓮花諸峯也，其勵拔有如此者。其雲崟煙鬟、雪崖風洞，如迸笋垂乳，如綴珠懸旒，如神剜鬼鑿，如複道，如陶穴，如蟠螭，如刻畫雲烏火藻波瀾之狀，龍湫諸谷也，其空洞有如此者。其川源爵沸而溢，如洄如洑，如震如泝，其清可酌，其湍可濯，其勝可亭，其可百折而東赴于溟渤，劍峯諸泉也，其雄渾淵澄有如此者。勵拔者存乎介，於是乎有獨立不懼者，出，如章恭毅公者先之矣。空洞者存乎通，於是乎有守玄抱虛者出，如夏玄鼎者先之矣。雄渾淵澄者存乎知，於是乎有旁行不流者出，如李孝光者先之矣。先之也者，先之也。豈天地精華之氣，將秘伏于古，而迺蓄洩于今邪？吾將以俟之，吾将以稽蕩南君之考成也。否則，天下山川泉石之勝不少，如鴈蕩者，其何以為天下之大觀？予與蕩南為舊同寅，會間出是編，以相可否。謂余宜序諸首，予弗獲辭，遂序如右。

修鴈山志序

鴈山瀕海，高出霄漢間，東南望閩粵，西北連四明、天台以接桮蒼，其原固不知其所始也。其趾之盡，垂入海嶠，斷崖千尺，下臨巨浸。自浙以東，凡山之名勝奥邃者，必首稱焉。唐一行畫天下山川，為南北二戒，以南戒盡於鴈蕩，豈謂巴蜀、湖南之山，趨金

陵，度錢塘，而歸宿結秀於是邪？他山泉石之奇者，或以一二得擅名於寰宇中，而獨茲山累至千百，尚未有既，豈造物者藏無盡藏於遐方僻壤之區，待時而洩邪？則知風氣之開闢有漸，至是而盡發於南服也。夫天作高山，奠為五嶽，効靈育物之功，紀載于典籍者嘗昭昭矣，宜乎享珪瓚之流，而勤先王之祭告也。鴈山之峻極峭拔，無讓乎五嶽之尊崇。神龍攸宅，時出雨雲，羣峯駢立，飛瀑交流，轉步瞬息，百態呈現，較於五嶽，而幽邃之景或多過焉。自晉唐以来，始得列號於輿圖，以地出偏方，居非中土，去先王望秩之跡或遠耳。夫以天地之所覆幬者，大而觀之，則崑崙以東，積石以南，際于海隅，何者非吾中原之地，先王聲教之所覃被者邪？不幸而有所蔽翳阻塞，非山川之不迨也，顧聲之所沾被有未贍耳。歷世多而幅[巾*員]廣，然後向之蔽者日以開，塞者日以通。故雖薄海塗泥之鄉，名山絕境，亦得以通舟車，萃衣冠，招士夫以遨遊，託文字以張皇，而盡洩其秘蘊，此鴈山之所以名天下者，沿至我朝而益著也。吾嘗考夫《一統志》矣，浙下名山若天目、會稽、四明、天台、金華，歷歷可數而見，較其秀異，誠未有如鴈蕩者焉。國志録其槩，郡乘未盡其詳，四方之人亦徒知其名而未竟其實也。古人云：「緊絆芒鞋走一月，彷彿見得皮膚耳。」諫也幸竊茲山形勝之餘，託處於南趾之麓，藉桑榆以卒歲，却外慮而夷猶，故能發剔幽眇，補葺舊志，以為是編。其有未備者，以俟後之同志焉。

侯一元(嘉靖進士)

敘曰：自昔通方遠覽之士，曷嘗廢觀游哉？夫既孜孜飭其本務矣，然而弛張勞佚必有所寄。是以襄城命駕，彌劭皇道；卷阿弛馭，無累王業。而夏諺於焉顒首，周民以之子来，上下俱欲，莫以為病。至史遷用周覽抉奇，謝傅以丘壑弘望，咸獵精乎觀物之間，斯又益矣。方今天下名勝，類有圖牒，然多偉其所見，墨守一隅。至談吾樂鴈山，皆云并難具美。良以四谷秀巫山之雲，蓉谿含武夷之曲，鴈湖蕩具區之波，龍湫下匡廬之瀑。是以謝公之屐千里来臻，輶軒之使以為芻舍，莫不激賞盈襟，形於篇什。以故前志蒐録，輒成巨卷；後賢繼起，復遍厓碣。允哉山川之遇也！嘉靖乙巳，我邑侯歐陽先生至自西蜀。蜀故多奇，而先生冲襟雅有五嶽之尚，既下車問俗，一至鴈山，即歎其巨麗，冠絕東維，而追昔所游，以為未至。人謂先生：且日命習池之駕，暢滁山之飲。而先生事已即旋，樂而弗留。無何，值歲洊饑，海有刼寇，縣官調度兵食以憂民，日不暇給，盖積歲廼定，而先生之不至鴈山且久。丁未秋，御史河東裴公来巡，弭節茲山，爰有登高之賦。于時海平野

闢，先生幸以無事，稟法于下，廼從寓目佳麗，諷詠篇撰。嚮者之樂，始復在懷，慨然自以不易得也。爰屬千峯吳先生，并裒近作，斷自前志，蒐其所遺，以為續集。既成，視余與諸生徐子世鑣校而傳焉。嗟乎！息游之道，通于有政。觀侯循行勞來，張為弛前；講藝宣和，佚為勞後。文武之道，不其該歟？侯又嘗言：天下衰盛，於鴈山有占。以為鴈山之聞，自晉始也，及唐而微，宋初盛時，猶未甚顯。鴈山之顯，廼當宋室之南。於是金碧被峯巒，而山之名勝始衡土國矣。將不以偏安之國貴游所湊，而一統之世車軌遠之乎？我國家奠極北方，鴈山遠日且萬里，則雲構復圮，緇流，至于今草中廼卧大爨鑊焉，固其理也。遊者徒知想故事之榮華，吊山靈之憔悴，曾不知景員之奠殷，崧高之蕃周也。深哉！觀乎其有天下之慮矣。斯集之成，亦以羽翼往記，貽之方来，俾範治則不遥于逸，論世則不泯其文，所謂舉而必書以觀後嗣者，豈徒鋪張靡麗，勸百而已哉！余故不辭，校而敘之。

鴈蕩靈巖寺疏序

戴洵(祭酒，號愚齋，四明奉化人)

余徃在史館，得李容縣所刻宋吳元美《勾漏洞天十記》，讀之，謂「其石峰矗立，巖穴勾穿，卓絕雄傑，非豪楮可及」，心甚異之，恐世間無此也。後出署留院，又得《游名山記》，中有宋李孝光〈鴈山十記〉，謂「緊絆芒鞋，行一月，彷彿見得皮膚耳」，心益異之，此真可與勾漏競勝者。乃自開闢来，獨宋人能發其勝，何耶？豈山川顯晦亦自有數，非偶然者耶？後自南雍謝事歸家，每風恬日和，出步郊野間，見清溪白石、綠草蒼松，欣然會心。因念勾漏在西南萬里外，即葛稚川竟不能到已矣。鴈山在東甌，去四明僅數日程，杖策可至，何空爾夢遊也，遂决意一徃。少司馬中丞溫公行部至嶺店驛舍，邀相見，歡然道舊。明日，相從入鴈山，而天雨雲霧冒，山頂不可辨，然所經石梁洞、靈峰洞、靈巖谷、龍湫谷，則固神劖鬼削，奇詭不可名狀。時司馬公騎從僅數十人，石梁、靈峰洞中寬廣猶可容，靈巖、龍湫則屋一布兩席，騎從皆露立雨中，即欲少留盤不得也。司馬遂冒雨馳去，余獨留宿。明日雨霽，上下流覽，則峰巒洞壑吐露頭面，指述難遍，即勾漏信有，當亦無以過之，始知僅得皮膚者之非虛也。留數日，僧圓魁備言徃時有十八寺，有田數千頃，今寺宇盡圮，田皆入民家。圓魁自金陵来，結茅而栖，乞食而食也。余謂此寺與田，必皆當時達官貴人所施捨者，古今人一也，何今人遽不古若耶？相與嘆息而別。歸家數

月，念未嘗不在鴈山下也。一日，圓魁忽持疏簿至，力請所以為興復者。余念：有頻婆娑羅，乃能立竹園精舍；有須達，乃能買祇陀園地。當今誰可語此？獨平湖五臺尚書也。乃具書，令圓魁往請，果得百金，并以〈法住記〉見貽。惟司馬公亦給以二百金也。然工役頗鉅，事力難贍。夫不有創始，後將何因？不有多助，始將何成？今五臺公始之矣，更望高賢達士相與助而成之也。鴈山僻在東南海際，舟車所罕到，或以遠不相及為疑。然余嘗遊岱宗，亦有靈巖寺，親見河南北、淮東西及關川蜀之人，日接踵至，施舍不倦。盖山川靈秀與人之精神默相通感，豈必以遠近為間隔耶！竊謂天地間有鴈蕩，則必有阿羅漢如諾詎那者為之啟道場；有道場，則必有戒行僧如行亮、神昭者為之興殿宇；有殿宇，則必有喜緣事如蔣光贊者為之助貲力。興者不能不廢，而廢者不得不興，造化旋轉，原自有不可測者。今圓魁雖不甚解經，而，持齋守戒不少渝，未必非今之行亮、神昭也。鴈蕩之興，此或其時。余恐疏簿所至不甚信之，故為述其緣起如此，以告夫樂為蔣光贊者。

遠夢說贈魁上人（并序）

戴洵

圓魁上人自鴈蕩靈巖寺，以去年九月至吾廬，乞為佛殿記，余病，未能也。日與譚佛法，欣然會心，因寄語塔亭山憑虛閣，日来聽講，至今年六月不去。余嘉其誠也，為寫其像，祚〈遠夢說〉以贈之。他日歸靈巖，日誦其說，猶日對吾講，且使後之人知靈巖由魁僧而重興也。

靈巖僧圓魁，自號雁峰，余謂其近於俗也，為更之曰遠夢，而語之曰：爾學佛者，而不知佛之說乎？佛者覺也，以世皆夢也。今夫人之在世也，眼耳鼻舌身意，結而為我，非根乎？色聲香味觸法，浮而為他，非塵乎？塵對根而景立焉，根交塵而情生焉。方其情景之相入也，或欣然以快，或拂然以恡，膠然若不可以解，及已於事而寂然無一在也，茲非其夢也耶？夢之中，未嘗不自以為覺也，及已覺而後知其為夢也。今之欣然怫然而自謂膠不可解者，安知非在夢而自以為覺者耶？夫自我謂他，則他為塵也；由他謂我，則我亦塵也。浮塵變滅，寧有定體？浮塵流轉，寧有實事？是故去不可追，今不可執，来不可冀也，是以謂之夢也。是故自世之無始以来二帝之所讓，三王之所伐，五霸之所，七雄之所奪。貴而侯王卿士，賤而執鞭衣褐富而櫝玉籯，金貧而履穿衣，結及乎今，而皆泯然盡絕也。是世世皆夢也，自我之有生，以来幻之所弄者，長已

棄之矣。壯之所營者老，已忘之矣。是歲歲皆夢也。一歲之中，朝之所為者，及暮而已；改室之所作者，出門而已。違是日日皆夢也，豈惟人哉？日月星辰之旋轉，風雲雷雨之聚散，春夏秋冬之代謝，盖木有一息，安其故焉，又安知天地之非夢也耶？即如仲尼之論語二十篇，伯陽之道德五千文，釋迦之說經十二部，自以為覺當時傳後世，而不知杏壇之講席，關門之牛駕，祇園之法筵，其陳迹之不可尋也，亦久矣。又安知三夫子之非夢也，夫夢何？從来也，心所想也，心想而攀，緣生焉。攀緣不已，而係戀生焉，係戀不已，而憂畏生焉。係戀則趨，憂畏則避，趨避者習於為而後感結者形於夢。故夜之所夢，皆晝之所為也。然則晝之所為，即夜之所夢也，皆想所致也，非有二也。無想則無為，無為則無夢矣，故想非無也。順其理而不以人情叅焉，猶之無也。故無愛於色而目自視，無悅於聲而耳自聽。無羨於香而鼻自嗅，無嗜於味，而舌自嘗。無藉於觸，而身自應，無耽於法，而意自知。順於理者，拒不於外；逆於理者，不留於內。順不拒而情景俱融，靈光普照；逆不留而惑業俱解，魔障何依？是謂不想而實無不想也，雖想而實，若無想也。依此者謂之正悟，背此者謂之邪迷。邪迷即夢也，正悟即覺也。夢所以溺於世中覺所以出於世外，此佛說也，亦孔子老子之說也。此三夫子之所以至于今，稱為先覺也。嗚呼！圓魁誠依吾說而修之，則知根塵不為樂，生死不為苦。四海不為廣，丈室不為狹，須彌不為大，微塵不為細，曠劫不為遠，瞬息不為近。屋不為尊，草廬不為卑，眷屬不為戚，仇讐不為疎，禪坐不為定，循乞不為擾。靈巖不為常住塔亭不為客寄聽吾講，不為佛說，對眾語不為俗談。迷與悟無容辨，而夢與覺無處尋矣。不然，世弱世情雖學佛，終為夢中說夢也，何遠離之有？

記

宋

記鴈蕩山(見筆談)

沈括(字存中，湖州人)

溫州鴈蕩山，天下奇秀，然自古圖譜未嘗言。祥符中(太宗時)，因造玉清宮，伐木取材，方有人見之。此時尚未有名。按西域書，阿羅漢諾詎那居震旦東南大海際，有「鴈蕩經行雲漠漠，龍湫宴坐雨濛濛」之句。此山南有芙蓉峰，下有芙蓉驛(驛今改于嶺南曰窩奧

驛)，前瞰大海，然未知鴈蕩、龍湫所在。後因伐木，始見此。山頂有大池，相傳以為鴈蕩；下有一潭水，以詩名之也。謝靈運守永嘉，凡佳山水，遊歷殆遍，獨不言此山，蓋當時未有鴈蕩之名。予觀鴈蕩諸峯，皆峭峻險怪，上聳千尺，穹崔巨谷，不類他山。山皆包在諸谷中，自嶺外望之，都無所見。至谷中，則森然干霄。原其理，當是為谷中大水衝激，沙土盡去，惟石巋然挺立耳。如大小龍湫、水簾、初月谷之類，皆是水鑿(音曹)之穴。自下望之則高崖峭壁，從上觀之適與地平。以至諸峯之頂，亦低於山頂之地。而世間溝壑之處，皆有植土龕岩，亦此類耳。今成皐、陝西大澗中之土，動及百尺，迥然聳立，亦鴈蕩具體而微者，但此土彼石耳。既非挺出地上，則為深谷林莽所蔽，故古人未見，靈運所不至，理不足怪也。

鴈山記

袁采

鴈蕩山，溫州樂清東北山之通名也。去縣九十里而，越白沙、武芳林，達芙蓉，逾窈奧，過長[檄-木+山]原，始至其山。凡山有名號者，蓋純石而土山不預焉。宋太平興國二年丁丑(太宗時)，僧全了始居山之淺者，曰芙蓉菴，今能仁寺是也。己卯，僧行亮、神招居山之深者，今靈岩安禪谷是也。天聖九年辛未，僧文吉得山之盡東而居者，曰碧霄菴，今靈峰是也，於是有民居矣。皇祐元年己丑，縣尉甄昂乃發蕩陰山，今南北閣是也。由丁丑至皇祐己丑，七十有三年，此開山之歲數也。東盡縣之境(止溫嶺)，西距白岩(在蕩陰北閣底，今有白岩寺)，南距玉環山(在海中)，北距蒼山(在永嘉南溪)，此盡山之地勢也。名山之人多矣，或以義，或以象，或以跡，或以無稽。以跡獨侍郎岩，則為胡兵部居之而言，以義則見而可知，以象則聞而可知，以無稽亦見而可知，此山之佳異者也。蕩水南出為大龍湫，東南會于天柱、飛泉，南經筯竹，入于海。蕩水北出為新溪，東流會于寒坑、板藏、大溪(俱永嘉界，大溪即南溪)，南入于海(經甌江入海)。石門之水，分自大龍湫，經長[檄-木+山]原，入于海(自芙蓉溪入海)。石城之水，會于小龍湫，經白溪，入于海。此水之勝者也。舉山無崖(崖，鳥名，似鷹而稍大，生於海崖中，每秋末波海，海邊居人謂之曰崖。其色蒼白色，亦謂之白崖。又曰搗崖，以其勢能攫物，自上而下，有如搗也)。有禽色而差小焉，而謂金雀。有一種羣鳴而聲相抑揚，謂之山樂官。有獸如鹿而能歷險，謂之山羊，白者如雪。猿，有毛如狨，謂之金線。此鳥獸之異者也，故詳記之。

詔復能仁寺碑記

曾建(郡守)

乾道七年春，臣奉命守永嘉郡，道經鴈蕩山，見大梵宮，號能仁。時思薦福者，高甍巨棟，包原亘壑，若可容數千人。入其門，殿閣岌岌，如將壓焉。堂下草深尺許，突無炊煙，浮屠才六七人，庀羸瞶躄。聞太守至，扶曳出戶。臣愕眙久之，問寺所以廢狀。老僧前曰：寺故名能仁，山川紺宇之勝，甲于鴈蕩，常以歲時日食千人。今聖朝太上皇后母弟太寧郡王，請為奉先之地，加賜今名，然未身至寺也。豪僮黠隸之往来者，幸其主之遠，憑藉聲勢，並緣為奸，伐木于山，取禾於廩，惟意所欲，浮屠相率去之，其不去者，非老則病。由是十五六年之間，寺日以毀，僧日以散，某輩且死，遂無復僧矣。臣聞其言而悲之，將有請於朝，顧念便殿臨遣之意，專以救荒為職，他未敢先也。視事才兩月，詔以太上皇命，除時思薦福之名，復為能仁寺。詔下之日，老稚歡呼抃舞，若人人受上之賜。夫以元舅之尊，專一蘭若，雖僮奴橫恣，如前所陳，其事至微眇也。永嘉崎嶇山海間，去帝所千里而遠，蕞爾浮屠之病，何由而聞於上乎？聞於上固難矣，何由而聞於太上乎？幸而得聞，察不察未可知也。昔者孝武皇帝王皇后終不知其弟武安侯之短猥，曰人皆藉吾弟，此人情之常也。今太上皇后發德音，述慈訓，出於常情之外，非有姜任之德，能如是乎？寺之所病非一歲，浮屠未嘗敢訴，何也？以事關貴戚，勢或不行，懼且得罪，明詔既下，則皆相視愧赧。然則天下事有未嘗訴而曰吾不敢者，非愚則誣，皆聖世之罪人也。浮屠從瑾主之，未數月，一日緇流四集，塔廟一新，請以詔旨刻諸石。臣因記其事，以彰德意之美，以示後人之勿忘云。

白岩院記

王十朋

諾詎那居震旦東南，山名鴈蕩，最為造物所惜，秘於萬萬古，而顯於本朝。山中絕景，皆廬於佛子，開闢經營，必其徒之有道力者，驅龍蛇虎豹、魑魅魍魎而有之。權輿數椽，侵尋萬柱，如全了之菴于芙蓉，今為能仁；行亮谷于安禪，今為靈岩；文吉菴于碧霄，今為靈峯是也。山之內外，招提無慮二十餘所，問其經始與廢而復興，無非有道力者。山之東，有嶺曰謝公，世傳靈運好遊山而不知有鴈蕩，蟨屐窮幽至此而返。去嶺而北十五里，有山曰白岩，

水曰仙溪。去岩而北十五里，有王子晉仙橋。子晉遺跡在吾州者三，一在永嘉，二在樂清，茲其一也。院在白岩之下，峯聳而奇，水清而駛，松竹蓊然而深，信諾詎羅駐錫、王子晉飛仙、謝康樂登臨嘯詠之所，是宜幽人逸士逃名晦跡、修真學道者徜徉乎其間也。院創于唐會昌四年，至明年廢，又明年復興。初曰白岩院，宋治平四年十月，賜壽聖。宣和三年，燎于魔寇。院僧元像閔之，草創殿廬，塑像貌以奉香火。歲久寖壞，僧子親慨然曰：「茲山吾祖潘氏所捨，殿與像吾師所建也，其可坐眡而隳之邪？」於是糾同志，募緣，出力以成就之，寶殿巍然，輪奐翬飛，觀者咸會，歡喜讚嘆。工未畢，會傳教于邑之七寶、雙峯二院，其徒文表住是山，遂卒其事，而道塲為之一新。嗚呼！若子親，真可謂具道力有功於其教矣，是宜書。

勅賜靈岩寺額記

鄭尚文(通判)

按釋氏書，有大阿羅漢與八百眷屬居南贍部洲，自西教東流歷數百載，人莫有知所者。皇宋太平興國四年，有僧行亮、神昭，因挈瓶荷錫，共訪幽奇。至溫州樂清之山門鄉，見西有巨山，穹崇巉峭，瞻仰愕眙，不能捨去，即相與因溪水之源，尋山足而入。披榛冒灌行，經七日，遍覽周視，疑入異域。然古樹老藤，蔽虧天日，林顛葉隙，時見異峯。貪奇極勝，舊徑屢迷。如是者浹辰，得一巖穴，稍可憩息，乃旁詢耆老，博咨鄉墅，則曰：是為鴈蕩山。山頂有蕩，不知其大小。秋多鴻鴈，飛集于上，餘波洩注，流為飛泉，高自雲倪，懸瀉數道。以是名也。傳聞故老，中有龍湫，亦莫窮其餘也。亮昭二僧，因卜棲止，乃芟蘿徑，誅蕭剪薄，丐米近村，鳩工木，闢塞發翳，殫極勞苦。逾年之後，山無遁形。岩穴之前，地平如砥。[巾*員]幅千步，天設穹基，顥峯秀巒，環匝周列。但見白猿金雀，飛棲雲樹，藻氣圓光，冠映林嶺。時即有新市居人樂安，蔣光贊者，貲産豐茂，樂為勝事。覩茲靈境，首構梵剎曰亮。與昭住持伊始後於廣藏中得古禪月大師貫休。嘗著羅漢讚文，至第五諾。詎羅尊者篇中有鴈蕩經行、雲漠漠龍湫宴坐雨濛濛之句，則是山也，既名鴈山，而龍湫在焉。然後知南贍部洲羅漢所居，即此山也。至道中(太宗時)，命中貴人裴愈采風吳會，親訪靈跡，屆此山中，而以御書五十二軸，賜之而去。自是緇侶稍集，今咸平中有僧正因抗表上聞，以名為請。翊日降勅，賜額靈岩禪寺。自太平興國己卯行亮神昭經始之，厥後光贊正因修飾之中間，神昭既逝，行亮

力募壇信增嚴佛乘。塑像範鍾，廓堂安，門宇宏廠，厨庫精而光贊之。子曰文濬。嗣成先志，捨錢百萬鼎，新堂構至是凡四十年，為屋百餘間，費錢五百萬。由是寺宇大備東南為首稱焉。

鴈山十記

始入鴈山觀石梁記

五峯李孝光

予家距鴈山五里，近四方客遊者，或舍止吾家，吾歲率三四至山中，每一至，常如遇故人萬里外。秦定元年冬十一月，予與客張子約陳叔夏復来他日從小筍用自愒晝為餱糧食給，夕則舍頓牀敷，恒衡于吾心而莫得縱。於是盡屏去之。獨從家僮，兩持衾，裯杖屨，冬日妍燠，黃葉布地。客行望見山北口立石，髣然如浮屠氏腰隆，起若世之遊方僧自襆被者，客輾然而笑。時落日正射東南山山氣盡，紫鳥相呼如歸人入宿石梁石梁拔起地上，如大梯倚屋檐端檐下入空。洞中可容千人地上石脚空嵌類腐木根檐端有小樹長尺許倒掛絕壁上，葉着霜正紅。始見謂是躑躅花絕可愛。梁下有寺寺僧具煮茶醅酒，客主俱醉月已沒，白雲西来如流水，風吹橡[木*栗]。隋瓦上轉射岩下小屋，從瓠中出，擊地上積葉，鏗鏜宛轉，殆非世間金石音燈下相顧，蒼然無語。夜將半設兩榻，對卧子，約沾醉比曉，猶呼其門，生不知岩下宿也。

遊靈峯硐記

自石梁南出五百步，折而西行，過謝公嶺嶺東居，人多謝姓，故名或曰地舊。屬臨海郡謝靈運為臨海開山，適至此人因以名之。既渡，緣澗南石路欲登觀羅漢洞於篁竹窺見水西大石壁下有谷，若竪橐子約曰譆。此或一奇也，不可失呼家僮扶過澗入谷中，見谷口石嶄然下垂如懸卷，然中抱如壞壁，坐其下而嘯如語甕盎。中居頃有人語聲漸近，則吾家弟思誠子撝與諸生也。因皆屏從者，從洞下入寺。未至見道，傍有石潭方丈，而深莫可測。仰視潭南上有山孤起如偃芝，北上有山，離立平地，上如駢笋。稍入，始見兩大石，相倚如合掌，入天數千丈，從合掌根入雨，傍植石闌，直上千步，乃至掌中望見出罅中青天如懸一片冰旁設大士一羅漢十八設應真像，懸崖上五百，然皆為人緣。取持去空遺土，坐如燕巢栖崖上岩罅泉水下滴唧唧，如秋雨鳴。屋檐間，令人大呼呼聲繞洞中，不即

出泉墜半。未至於地，為聲所軋，則飄吹衣冠，草木盡濕，家僮戲馳石闌中脚頓道上石淵淵作鼓聲。既下出家，僮守橐者私自更守竊登之，顧見主者皆已下，即擊羅漢繩牀傍小鍾鍾聲奔谷中，如鸞鳳行鳴半，天上倚杖聽不可去。憶吾兒時，從先君子来列胡牀坐客洞陰令侍者先登雜吹笙簫擊懸鍾音縹緲鏗喤飄飄客新從他縣來，或駭愕不敢上，因大笑以為樂俛仰隔世凄。然久之，凡山寺僧皆為美名。擬之若龍虎鳳凰、麒麟、蓮花芝草之屬，皆不錄録。尤勝者谷中恒有雲氣，是日又欲雨山木黯然戶牖黝黑，因呼守橐者，持橐中筆硯，就屋上亭，修遊事所，舍亭曰看不足。盖取昔人山前向見白頭翁，自道此山看不足者詩云。

暮入靈岩記

出靈峯院，偶坐澗水，南客有言：鴈山信多奇然，豈復有過於此者？予為言：山之峭刻瑰詭，莫若靈峰，雄壯渾龐，莫若靈岩。峯言銳岩言大也。余適小疲倚大樹坐甚恬。客聞靈岩亟欲往，即起促不得休。前是一日行五里輒止舍，是日會已暮頃，刻馳十里到寺。天正曛黑及階，舉頭見巨石孤立，如人俯月出，正懸東南角星象纍纍下垂四傍客脅息不可。上如游魚唼喁，以身為浮游，在灝氣上也。入坐佛宮，南階上正視，見其面進升堂倚石夾室，則旁晚其脇夜分。又數數開南牖視之，月欲墮未墮，夜色如霜雪，諸峯相向立儼然三四老翁。衣冠而偶語。獨西南一柱，白而長身者也。明日粥後由昌上人房下過澗得小石嶺可五六百步上觀所謂龍鼻水山半横石作鱗。甲状陷入石中，獨見其脊從西南石峽中，繞出數千丈，勢盡乃垂入谷中作懸鼻，疑是石髓積歲月化為石，故獨此鼻如瓠大乃紺碧膩滑異他石鼻端泉時時一下滴谷口，澗西有立石，長三千丈如卓筆曰卓筆峯峰傍流泉墮入澗中亦三十丈，曰小龍湫稍西飛，泉湧出石罅直上指尺許曰劒鋒。泉寺以岩名岩。又以佛宮北大石障獨高且大絕頂正平如塗丹堊。是為平霞障。諸峯皆牽聯在障傍。其大石如樹旗居障左臂曰展旗。其大柱居障右臂曰天柱龍鼻水又在障右脇間。小龍湫卓筆峯。劒鋒泉當居脇中。

靈岩二奇記

僧言：山有二奇：其一由障左臂架棧道，至旗半有石穴下窺穴中別有平土類人間土田，一一具溝塍畎澮以小石下擊，如轉鳴甕中。其一由障右脇旁，令人百計，牽挽上懸。崖上有石室，室南有小徑，沿徑兩旁皆麥門，冬草如人手植路平熟數里。若日有人来徃

者，絕端有窪石窪，中泉冬煖如湯。僧乃言：昔有羅漢，常浴是泉，故石上有平偃迹石室，則其愒息地也。予與客相顧竊笑，惡其言，涉於恆，然猶記之。他日身至其地，可一一推而知也，豈真有隱者居之，如木客之類。宋英宗時，有居人行湫水上，見老父手藥一丸，大如橡栗，語曰：爾為我持。此獻天子，忽復不見詣郡言狀，郡驛上之天子，遣中使持香来，於是鴈山名始在天下。老父豈董五經之徒能先知云。

訪欽禪師過馬鞍嶺記

夜宿天柱下寺水英二上人來坐，與之語不悖其師者也，頗能言欽禪師修浮屠氏之法，居退讓之節，知止足之義，予久不見欽，因二人者謝之，兩客怪而問焉。子平生名不喜其法，而竊私其人，胡謂也。余謂客、今子百家皆不能抗仲尼氏之道，而異端獨遺其二焉，曰：佛與老而已矣。為佛之說，又有二焉：曰大乘、小乘乘，猶言道也。或為其大者，或為其小者，凡為果報、禍福輪轉之說，皆其道之。所謂小者為其大者，固已譏咲之所謂為其大者，曰吾將以求吾心也，吾將以見吾性也。然恒過於中而弗趨於常，泥於體而不適於用，視儒者之有父子君臣大婦昆弟也，輒訕而卑之。然其處斯世也，非儒之立，則不能一息居也；其訕而卑我者，又其徒之不能盡其師之道者也。彼有能盡其師之道，常賴吾之有君臣父子、夫婦昆弟也，則不為強者之所瀑，貪者之所攘，然後去之窮山大谷，取其人之枯槁顛頹，不適於用，而為世之所棄者以為之徒，而教以其師之說。舍茨而不以宮衣麻而不以絲食，麥與菽而無以膏酪魚牲。其言曰：修吾法者，其為宮室、土田、衣服、膏酪，無以異於人，是自成其心也。故其有宮室土田、衣服、膏酪，則其徒之不肖，悖其師之意，假為禍福之說，以勸愚民也。今使周公、孔子之居是也，亦將修其禮，樂政教，以扶樹君臣、父子夫婦之道而已。彼枯槁顛頹，不適於用，為世之所棄，去之窮山大谷，以修其師之道，則亦莫之制也。今名為浮屠氏，廢其法不用然而為儒者不能盡其道，則亦何以異於是？而欽獨善守其師之法，而又其道之大者，亦可尚矣。於是客咸願一見其為人。去從院南登小山，復折入西南，過小溪百步許，至栢菴問欽，適往延恩院未歸，惟有一僮居戶下，遂南去，谷口與持橐者會南過馬鞍嶺，借宿山人家，山人姓金氏。

大龍湫記

大德七年秋八月，予嘗從老先生来觀大龍湫苦雨積日夜是日大風起西北始見日出湫水方大入谷未到五里，餘聞大聲，轉出谷中從者心掉，望見西北立石作人俯勢。又如大楹，行過二百步，乃見更作股相倚立，更進百數步。又如樹大屏風，而其顛谿岈猶蟹兩螯時一動搖，行者兀兀不可入轉緣南山趾稍北回視如樹圭，又折而入東崦，則仰見大水。從上墮地，不掛着四壁，或盤桓久不下，忽迸落如震霆東崖趾有諾，詎那菴相去五六步，山風横射水飛人走入菴，避餘沫迸入屋，猶如暴雨，至水下擣，大潭轟然萬人鼓也。人相持語，但見口張不聞作聲，則相顧大笑。先生曰：壯哉！吾行天下，未見如此瀑布也。後予一歲或一至至，常以九月十月則皆不縮，不能如向所見。今年冬，又大旱，客人到菴外石缸上，漸聞有水聲，乃緣石缸下出亂石間，始見瀑布垂勃勃如蒼烟乍小，乍大鳴漸壯急水落，潭上窪石，石被激射反紅如丹砂，石間無秋毫土氣産木宜瘠黑反碧滑，如翠羽鳧毛。潭中有斑魚廿餘頭，聞轉石聲，洋洋遠去，間暇回緩，如避世士。然家童方置大瓶石旁，仰接瀑水，水忽舞向人，又益壯一倍不可復得瓶乃解衣帽，着石上，相持扼擊，欲爭取之，因大呼笑，西南石壁上黄猿數十，聞呼聲皆自驚擾。挽崖端偃木牽連下，窺人而啼。縱觀久之，行出瑞鹿院，前(今為瑞鹿寺)日已入蒼林，積葉前行，人迷不得路，獨見明月，宛宛如故。人老先生，謂南山公也。

宿能仁寺東菴記

鴈山西南一峯絕高下視，大山猶當是大父行。舟行南海月餘長望，見直西北有物如高髻，亂髮纔一握，大倚為指南。又其上常有雲氣，居人不呼某山，而呼曰常雲，傍出二里，有能仁院，院亦名常雲。予與客從大龍湫出欲宿院，中度已夜，遂從山人家宿遲明，浩上人聞吾當至山中來迎舍東菴菴行公營以歸老歿。今三年，其徒義上人秀上人居之，設粥茗酒醴且止。予宿日正亭午猶可去，忻然許之，遂弛擔焉。是行也。察於為佛者，得三人焉，欽能盡其道者也，秀與義能不悖其師之道者也，因記之。

遊惠上人開西谷記

靈峯去靈岩十里。而近中路有亭名翠微，旁傍夾樹兩垣路從垣間出。過澗行繞北山麓折而南，南有深谷梁石過之。復折而西入谷中，始見石林如犬牙岩下。佛寺曰淨明過兵。焚其廬獨遺壞屋數楹，殘僧喜閉門而不迎。客徃徃過者不須知有寺。予久欲遊而不得

其閒。是日至自常。雲將入門，僧復拒戶不聽客入，即呼溪南居。媼隔戶語僧云。是遊山人。乃拔去拒門木入弛擔為午炊。吾兒及諸生疲極皆小偃休。陳甥腹痛自煲。藥家僮炊未熟。予將子約出南戶，徘徊徃来。望屋上山。山圍屋如城府。或纍纍然如蜂脾綴下而刳其中遥遥然如燕巢斜[罕-干+(厶/月)]而剖其戶頤者窓者仰者歟歟者羃者訛者傴者喙者掉者。俛而窺者。騰而上者。如人皆具耳目口鼻，而無一相似意。此中當有大佳處耳。更着屐從屋窻中出上屋上山行二十步。復得石橋過澗去。子約持杖擊草。又得石壇數方皆古人作亭遺趾壇為階二三級或五六級。壇相距雖皆四五步。每一壇上輒見山。如人腹脇背尻向背。一一不同復益上數步草中。尋見石階八九轉一轉皆六七級。兩傍夾大石壁如行巷中。仰頭見青天如曲池中緑水，止而不波。泉滴兩崖間如雪消作水。建瓴下注谷中大石上。忽憶先子言。明維摩石室旁有西谷。是惠上人所開絕。佳當是此地耳。今寺僧乃畏人知。更作屋因相遮，以故從窻中出。不爾不見此奇特書之，庶無為僧所欺。惠字柳下工為五言詩云。

鴈名山記

容問山以鴈名胡謂也。予為言：長老相傳絕頂上有大湖。冬春鴈過入南海，常棲止其中。居人以為名湖水墮，入澗流谷，口為大龍湫。湖傍有比丘尼塔寺，一夕沉湖中，至今五百餘歲。然猶餘遺地敗址，棠梨花數十百株，皆儼然成行。列土絕膏，肥種蹲[互*鳥]大如斗。長老又言：湖水漸游為葑田，歲月浸久，彼湖皆化為腴土。十年前有僧来乞食，因言：吾去前年去鴈湖傍，依大樹縛屋種菜菔菜蹲鴟，以為餱糧，獨無所棲，願乞金錢作屋。予聞之，欣然止其宿，問：道路何從入僧具言：去。從靈雲寺南入山時時過絕險，挽牽懸藤偃木以過日。初出時上山日正中僅可到山顛望，見永嘉城下大江，如牽一線，白東面海氣蒼蒼如夜色山上無膏燭，地爐中燒木葉葦竹山鼠来與人相向坐如狐狸大無屋，不可居也。予愛其言，久欲登之，度持二日糧乃足，又向乞食，僧已去，無復茭舍。釜竈賫具，當用肉糒糗[麩-夫+酋]雜器之，屬不果徃。五六年年，嘗一至靈雲寺觀所，從入路，因徃至梅雨潭潭上瀑水懸空數十丈，谷中風起，水吹着人常濛濛，如四五月間霧雨亦一奇也。旁有隣寺三四區，曰：古塔寶冠、羅漢石門。又有一寺，在南山冢與常雲相望路絕，高曰飛泉，種種自作面勢，皆可遊，獨不大爾。

秋遊鴈蕩記

北從天台来入古東甌郡境上望，見西南有山相向立，如兩浮屠遊者，咸曰：此鴈山門戶也。益深入其阻，視羅漢洞東西天柱大龍湫，猶人有眉目十八寺，皆其肺腑也。僧言其祖自開鴈山，為諾詎羅詎羅去遊方時，師懸語之曰：若行四方，當值勝妙山水，起塔立寺，花名村，鳥名山，則其地也。詎羅適行至山下，問田間老父父所居云何？父曰：芙蓉村。又問：山云何？曰：鴈山。詎羅？曰：是吾師所語，我者吾於此乎老矣。入過四十九盤結屋谷，底面湫水，以居既沒，其徒弟子為立塔廟，是十八寺之萌芽也。詎羅首所開正得其肺腑？今人言春遊天台，秋遊鴈蕩，此非言地勢便利，其時獨可遊耳。鴈山無土田，桑棗兩山束澗水人行盡日曲折在水中。又多篁竹草長沒人春夏十日九霧雨。後行人不見前行人時時相語。又馬蜞毒物，善嚙人緣，木葉草末風動即着人出血數升。獨秋冬時，草木黃落毒虫盡去，乃可入至數百里山皆在目中，無秋毫蔽遮然患遊者匆匆絕佳地，恒遠在深谷中，不盡見也。古人云：緊絆芒鞋行一月，彷彿見得皮膚耳，非過言也。呂夷簡、焦伯强、劉器之、王龜齡，皆嘗為大官，而能留連山谷中盡發其勝，豈古人用此為陶寫地耶？然名為遊者矣。間姓名，一一為狐狸，貙貉啗盡。獨此三四人者，至今凜然有生氣何耶？其草多寒凉藥可用治，疽瘍滯下，其木多杉檜豫章其獸多猴狙，豕而無虎，其虫無蚋，蚊而有馬。蜞蜞善嚙，人以燒竹葉，塗創血立止。其居人不為稼穡，皆取給衣食於僧云。

遊石梁記

陳德永

是晚至石梁，遂宿梁外小寺，梁拔起地上百餘丈，穹窿懸跨，隔林竹望之如白虹下飲背。有石類菖蒲伏岌岌欲墮怪藤數十聯，絡之隱然如脉筋露出人腠。理內有大石側剖高出梁，背空中，深窈可容。千人日氣從梁口入，潛泉偃行，罅間滴滴如甕盎中響地上皆碧滑，陰冷切人，不可久居。稍出至梁下，低回仰視，有小紅樹長尺許，倒粘絕上，意甚閒遠，悠然不去者。久之，遂賦石梁詩云。

國朝

遊水岩記

黃綰

人皆知龍湫之勝，而不知有散水岩，遊水嵓自蕩陰章氏之居，行二十里餘，崖谷壁立，拔地數千尺，懸瀑自崖端垂下直擣澄潭若白虹橫空，匹練孤懸，照耀于丹屏翠壑喬松古柏間，觀者莫不心駭神眩。余從瀑下援葛上崖，半坐洞穴，中視瀑水如明珠，繽箔當戶窺見旭日曈曨，祥烟繚繞，妙不可言。又從崖半行，過東南隅，有石天窻，儼似樓閣闌檻，上有梁石，橫若楣宇，憑檻而，奇嵐疊障，皆可攬有，故記以補鴈山之遺。

遊鴈山記

甌台之會樂清北鄙有鴈山。先是達人。咸傳其奇勝。甲天下而豪士以地僻。莫能暢其登賞之趣為恨。歲己亥。傅子應臺約再遊而弗果。殷子虛川竟阻以雨是冬。余按温將如台樂清朱君蕩南有宿約申以兵憲胡君有恒之請。余乃勃不可已。乘興而遊。度窖奥嶺。觀海崖。見蒼翠層巒如烟升滄茫中。羣山奔海。若伏若起。或斷或續。海舟飛蓬而漁澹日隱見於海島間。攀四十九盤嶺。抵能仁寺。羣峯呈奇應接。不暇如火之炎。上曰。火焰峯。霞蒼雜沓。千朶上指。聳峭莫攀。曰芙蓉峯懸崖墜。石空通碧。膩伏牛嘶虎。驅馬盤龍。又不可而殫述也。是日風大作。晚宿能仁公署。夜聞飛灑聲。將曉呼詢從者曰。晚来有雨開戶。視之則皎日光霽。乃知泉流澗中。風葉飛鳴。山境寂靜。誤聽為雨聲也。朱君曰。外谷有梅雨。岩達官罕至。余乃呼僧為道出谷緣小迳冒荊茆。壘石間五里許。有石巍然削。翌有低昂勢如劒戟狀曰。卓刀峯入谷有雙石壁峙中含圓石曰。含珠峯。傍有小峯。如剪刀然。左右羣峯。如雲升日。暎彩霞流色。詢其山人。亦莫可名狀也。低岩削壁。千尺流泉。峽石間飛灑如雨。飄流不定。或海風狂擊。泉忽出谷。八九里間入村落。宛如梅雨。由外谷度小嶺。見石門寺廢基又削。崖中有羅漢洞險莫可攀。山人云。石閩飛米。或未然。云。緣東谷觀大龍湫。有峯如祥雲。縹緲萬丈巉。屺曰。常雲峰峯半有洞曰道松。或云。道松修鍊之所。峯下有瑞鹿寺遺跡。又有小洞葉。或時自洞出。居人候之。則明大風作矣。沿澗有巨石。壁立萬仞。形若剪刀。又直視之則天柱也。谷底錦崖萬丈。彩嶂千圍。泉飛崖上。絕不霑。隨風飛灑。如白龍騰舞。或激亂石。或洒碧潭。或谷風逐起。久而不下。倏忽飄洒餘沫。向人衣帽皆濕。或谷日暎崖如飛虹。飲澗流金眩目緣谷立崖下如飛雪流沫擊。以金鼓之聲。則飄飛萬狀乍盛。乍細乍遠乍近極其盛。時則轟然雷驚。如萬人鼓也。崖半白煙飛。升騰布谷中。仰觀雲飛。若崖有奔動勢。近崖有潭潭畔。亂石磊落石上。有題杜審言来此字。對泉橫崖應臺子作亭。其上崖下有庵。以止遊

人。出谷回視剪刀峯。又巍然雙峯也。朱君曰。大龍湫之上。余嘗扳險而登。有碧潭淵澄。莫敢俯視五臺。二僧結屋其上。崖上懸流百尺。潭中有龍。故曰龍湫。龍湫之上。有蕩湖鴻鴈。飲濯其中。故曰鴈山云。出谷謁鴈山鄉賢祠。朱君每遊率止於茲。先是山人為予至闢除有斑虎出澗中。老叟擊之而斃。朱君為殺虎。辭以紀之。晚酌於能仁桂酒醃菜。意味悠如。敘往陳今朱。君甚甘之。余亦不知宦遊茲地也。明日度馬鞍嶺躋巔。見羣峯。紅綵流霞如萬架。樓臺峙者壁立巉岏若墜。有曰版障嵓。又曰。觀音巖。蒼巖突兀。有奔趨狀。倏忽驚訝。如獅獸率舞。出西谷遊靈巖寺。始入谷口。左峯如獅右峯如虎。虎峯之中有洞遊。人莫之至。乃令架棧。道而登中可容客座崖上有泉。下滴緣谷。望高峯上有石如僧作拜。狀又一石如几。抵寺中坐列屏崖突兀彩色雜蒼欞櫳壁立如千層樓閣曰屏霞嶂嶂之半崖曲折而登有龍鼻水巍合二巖。石龍中陷有鱗。甲狀垂端於巖中。若鼻然色如古銅。圓尖有孔泉水。時時下滴飲之寒毛骨可治。醫目嶂左畔崖。有安禪谷谷中泉出入池創寺定基於此左前崖有展旗峯。如大將出。師有飛動勢。峯後有峯如屏。石有萬丈圓峯壁立不緣諸峯曰天柱儼然。端人正士正色立朝。能寒奸邪心。令人肅然起敬。天柱之後有雙峯。作飛舞之勢曰雙鸞。又小峯插天曰卓筆。旁有一峯。瘦削無依。宛然清風可掬曰獨秀。又飛彎如髻曰玉女峯。又其懷奇呈恠。蒼彩森然。莫可名狀也。晚宿寺中胡君曰。鴈山之勝。莫如靈嵓。願尋勝以壯茲遊。明日乃緣亂石中。尋小龍湫。有巖腹如珊瑚馬瑙色。懸崖環峙。高大龍湫崖石之半。而谷之廣亦只三之一。泉飛崖上觸石騰烟。如霧團結。旋而流轉。飛灑霑人。乍巨乍細。亦無定踪也。潭外有大石橫卧有常寶。臣伯起来鄭公文會處字。使人洗滌莓蘚百計。臨之而後可辯也。又一大石橫覆於旁。泉崖之下有石突如金字狀泉流分布石苔歲久積成琥珀玻璃之色。潭上有三石而上。一石方平可坐。余乃近嵓坐石上。而朱君從之。諸君相繼登焉。觀飛霧轉旋碧潭。時有兩狀。則尤奇也。僧云。距此五里許有泉上指如劍鋒狀。惜未之見也。朱君曰。展旗之半。有天聰洞。棘莽峻絕。不可攀余。乃令驛卒闢除治道。使人翼之而登。將半有磚石舊路有石。題黃伯起字躡險。力升其高空通百尺。最上有石級飛挽而升。中有限若閾光。自下生其中。深不可測。削壁以石投之。聲墮許時倚限。觀洞外有二孔。故曰天聰。余意朱君莫能從也。然猶攀歎美者久之。自以生七十八年。今始見為不負也。胡君輩則阻險而莫能升焉。緣展旗外谷見其崖石奇特。詢之僧人云。有鍋洞無路可入。蔽之以百尺高岡。而莫可見。余興不可已。乃令人闢除力挽登高岡。望之見其崖石。削立圓摶。缺若門上。有石若盖。下有圓池。若鍋壁內突石。狀如鍋面。崖泉墜地。

飛騰而出。若烹餈然。朱君繼余而登諸君。竟莫之從也。寺前巖石中。有圓石曰含珠嵓圓覆而頂平曰果。盒巖奇形恠狀。雖終年遊覽。亦不勝辯也。寺中諸峯皆空虛。夜靜人言。犬吠鐘鼓。聲咸傳應。谷外宛然。蓬萊洞天。不復知有人間矣。明日出谷緣澗而北。見淨明寺。基有新月洞。水簾谷石亦奇峭蒼碧。視靈巖諸峯則不及矣。去五里巖上有峯。如將軍披掛狀。又石如觀音。坐禪他如屏霞錦帳欞櫳崆峒。往往而是志亦莫之紀也。過響嵓人呼則應言則傳。雖多亦不貴也。緣南崖有小瀑。布峯亦奇峭澗北而嵓如覆簷然廣十丈。深半之石。皆蒼霞色澗有潭方丈淵澄莫測。曰照膽潭潭北有峯如靈芝。南有二小峯。直竪踰崖。有廢寺基登靈峯。洞千仞兩峯合掌直竪中虛巉紫。視之一片碧水。臺上有觀音羅漢。以石為之。亦有擊之而作磬聲者。臺中以足擊之。若鼓然廣十尺深倍之。左有泉流方池後有泉自壁出。前有泉滴如珠簾六月。不知有暑而冬亦不有。寒洞雖石而泉通地脉發舒。故遊人得以自適也。鴈山之洞此其傑出者與對洞有峯攢簇曰五老臺。其他谷諸峯望之秀異。惜未能遍索幽奇也。度謝公嶺。或云。靈運開山至此。故名登石梁寺。有巍石空虛。橫架如梁石。緣後巖中深二十餘丈。廣半之僧居巖中。出石梁二里許。有石巍立如老僧披袈裟狀旁有小圓石聚立如羣僧卧於其側。出此則無奇矣。抵嶺店驛風復大作。晚宿驛中夢清氣定。猶若止靈嵓故處也。曉別朱君而去。嗟夫羲軒察輿立象盡變。堯舜效寧垂衣神化。是以下襲水土。上登泰山。觀逝者之如斯。在山澤之納污。非夫仁知合一。動靜不違。敦化川流各極其趣。其孰能與於斯下。逮哲人輕名薄世。志在麓泉。沂水春風。心無霑滯。故能探奇索幽玩清采華。為洗心垢用培元神以暢羣動。然則輿勝之澤。不亦銳乎。況夫鴈山東甌奥區。越壤殊觀。晦跡峻嶺。輝動海隅。磅礴廣遠神斧無跡。飛泉殊趣。恠石萬態。千峯爭奇百洞異麗。足以媚高人而賞豪士。雖古人名筆。亦莫能模擬其蘊。雖僕夫臺史。亦知佳尚戀慕。近取之而各足。遠取之而莫窮。取物察則不為仁知之一助耶。余愧不文。無以揚鴈山之秘。姑述見聞以俟仁知之探討。且以嗣遊達士之逸興云是行也。於時為嘉靖己亥冬十月二十日入谷。二十五日出谷。天朗氣清。山靈若安。余之遊者。同行為憲。副盧君蕙胡君有恒都閫韓君平致仕吉安太守朱君諫。予與歙人清軍御史王獻芝也。

鴈蕩山重建靈巖佛殿記

戴洵(祭酒號，愚齋，四明奉化人)

余，性嗜山水，遇佳處必遊，既遊，必圖之萬曆。丙戌春，聞永嘉鴈蕩山絕奇杖，策徃遊，而巡撫撫中丞。三原溫公純行部遠，至余同年也，遂相從入山午飯靈巖中，敝屋三間，不蔽風雨。余觀靈巖，真奇絕，雖善畫者不能圖，而荒廢若此，為之慨然。僧圓魁者，金陵人遊方来，住此十數年矣。語余靈巖，舊有寺殿宇，且百餘問入國朝始漸圮，而今盡矣，因請為興復。余曰：此大勢力事，而以望鯫生耶？一笑而別。既歸意，未嘗不在靈巖中也。居無何，圓魁復徒步踵門来請益堅。余嘉其苦心劲志，而無以為計，乃為作二書。一與中丞溫公，一與尚書平湖陸公光祖請為檀越圓魁，欣然持以徃，僅數月来曰：二公已各捐百數十金，致之樂清矣。余又為作一書與樂清尹漳浦吳君華託為護持，而吳君最善營度。仲春舉事迄仲夏，而殿宇成圓魁，偶掘地，得古碑榻。墨本持来，請余為記。余視榻本漶，漫難識夜，以燈映之，始可讀。乃宋史丞相彌遠，與壽昌長老若容徃，還書也。盖靈巖舊為壽昌禪寺，以供億不支降為教院，及若容住持靈巖，而又請復禪額丞相手書荅之，則靈巖異時之盛可徵也。夫山川遊覽，若無關理道，而臺囿池沼，卷阿飄風，著在大雅，即聖王不廢。何耶？盖宴坐室中，則神觀擁塞，惟登高望遠，探詭搜奇，則浮沉起伏之端，剛柔夷險之故，可以開發性靈，恢弘智識，而况剖符之吏乘，傳之使困，頓於簿書，期會之間，疲薾於車塵馬足之下，偶得高明者而一遊息焉。又可以洗滌煩襟，疏通滯氣，盖一張一弛，交相為濟，而後神益清，慮益精，政理益成也。故竊謂靈巖有寺，未必不可以助流玉澤也。若乃佛理尚空，不著色相，而名區勝境，皆佛宇居之。雖其間不無興廢，而迄未有廢不興者，將非色不異空，而空不異色？固天地間，妙理本然，雖英君誼辟，有不能易者耶？考圖記，鴈山開自諾詎羅，而詎羅本蜀青神人，乃身至天竺，受業釋迦，為十六阿羅漢之一。已乃復返青神之中巖，開籾道塲，晚来鴈蕩終焉。此其身所涉歷，極地東西殆數萬里，足迹遍於宇內，將非真所謂飛行變化、住壽命、動天地者耶？故詎羅之名與鴈蕩無窮，而史丞相去今僅三百餘年，人無道者，此亦空即色而色即空之一驗也。故觀於靈巖者，雖未必其於真空妙諦何如，而名利之心可使都盡。故又竊謂靈巖有寺，未必不可以翊扶世教也。然則靈巖佛殿，雖廢於昔，而復建於今，不亦宜哉？而近世論者，又或謂供億病民，至比鴈山為尤物，則若惟恐寺之不廢者，是又不然。方寺之盛也，僧實繁，供億全出於僧，故僧不能給，而舍業以，於是始全仰於民。每一上官至，筵几帷帳，張設之具，皆移自數十里外，巖、樂清二邑之民，奔走趨事常百數十人，數日而未已。假若殿宇修復，稍還寺産，使僧得具其器用而民止供其糗粮，豈不僧民俱便而寘至有歸也哉？而於鴈山乎何尤？

盖中丞温公與尚書陸公其仕素精於職業，而其學尤明於本性，故其曠懷達見，超出俗情，能不惜重貲，而吳君又善體二公之意，以身肩之，遂速成若此。顧余一無為力，而徒以區區筆墨從事，其間且為山靈所笑，乃圓魁必欲得余為記相，守五閱月不去，亦足占其有定力者，不可虛其請也。乃強為述二公之意，與吳君之勤以授之，俾勒諸石，不知後之觀者。視史丞相若容僧何如也？縣丞李貴齡、主簿、胡典史萬和，亦分任督理者，因併書焉。耆民、蔡攀如千人，皆尚義，助後者，則例刻於碑陰。

遊鴈宕山記

鄭汝璧(號崑巖，縉雲人，都御史)

環淅多名山而奇瑰首稱鴈宕云：余家玄都祈僊二十九洞天中靈區，故相接也。而寄之者，逾三十年。萬曆戊戌，余既幸襄尊人事，將為五嶽游則，以茲山始夏五月望前一日偕。永嘉何，山人无咎。陳茂才，納之棹江心，順流舘，頭驛入于河，夜投樂清縣宿焉。時天雨邑令萬安張君孟珍留酌西塔院信宿而雨不休，虞為遊妬，廼余興勃勃不可已。且念山靈稔，余必有得天時者，遂决筴往詰朝忽霽御筍輿度白沙嶺，嶺頭望海，海天無際，漁舟點點如千葉飛浮心目為豁午餉窰嶴驛上四十九盤睇大小芙蓉朵朵樸眉睫間，晚宿能仁寺，寺前峰焰如火寺，左風落枕如雨，蚤起與老僧明海譚半餉步入東谷里許望剪刀峰稜稜千丈，上成兩岐雲霞當岐遇之，真如剪綺，再入水聲潺湲轉聽轉震耳，則大龍湫也。源自湫頂鴈湖千頃來下注萬仞，日貫之成虹；風飄成金皷，譟之成暴雨。驚雲有無變，幻儵忽萬端。余所見則霽霏如白玉煙，又如千萬白羽箭飛墜，罡飈中不眠飛瀑之最奇絕者已東，為諾詎亭尊者自西域來觀瀑示寂而晴上視有僧喝潭下水同，何當仰矚遂暝。對此泠然無住，豈直前人所稱看不足耶？亭午，度馬鞍嶺一峰，葱菁摩天如大士坐蓮臺，發紫金光，時雲氣吞吐。余至，忽開朗，俄而黝然，二君乃不得睹。余笑謂阿閦一現不再現，固自夙緣爾。下嶺歷西谷，抵靈巖寺。靈巖寺者，鴈山中眀庭也。東西谷分兩戒，東峰五十有三，谷西四十有八，稱百一峰寺。當其中扃，初入白雲、鐵板諸崖障之鉢盂峰綰其口，紆盤數百武，厪通箭栝至則屏霞嶂障，其如負扆然左峰之橫曳而似蝥孤者為展旗峆岈而似累貝者為紺珠，崒嵂而似張幄者為石屏右峰之峭矗雲表而擎天者為天柱，儷立柱側而飛翔者為凄鸞，銳而端者為卓筆，嬋而嫵者為玉，女子而梃者為獨秀。分行呵擁若八公之侍帝，列宿之麗天誠僊靈一大窟宅也。它若屏霞嶂右方

之竅，頑石而洞鱗鬣夭矯懸，鼻如匏滴石，髓而甘者為龍鼻水寺。西南之當几聳立衣項襜，如望西方而禮拜者為僧，拜石則鬼工之巧斲，以駭遊目，供絕倒者爾勝。顧不以此。是夕宿寺中與二居劇譚方之外，何君別號丹霞？余謂此丹基福地君茀構凌霞閣于上，方之中央，揖群靈而餌大藥，便當僊去。余且躡而，何用齷齪人間，世與佩五嶽圖冥搜遠討為哉？何君唯唯復為余言水簾谷之勝，遊人罕至。余乃賈勇前見層巒簇簇，如蓮花瓣，朋寺在其下，而顧無名。余目以蓮臺稍進，則兩崖夾如鐵青天，一道如匹練，空懸崖際，飛泉霖霤，濕人衣裾，崖下洞如新月，玉乳盡作雲霞狀亦一奇也。出谷，遇一石人，側耳山椒名聽詩，叟恨不携謝眺驚人句，使聞之，已過響巖，大呼聲震林樾，與前部皷吹相答，緣澗行可五六里，至靈峰寺，則又幻為一局矣。群峰排兩道，周如幢盖迎客，其奇而名者，曰靈芝，曰翔。鸞曰：五老五老不甚肖，而靈峰一洞則大奇盤數百級而上，上合如掌而成屋。擔檐前受日月光爽朗可憩去中漏始青天一片，似玉壺氷巖鏬泉聲，應人呼嘯若甕盎中鳴唑酌張令君所移，酒歌高山而出，踰謝公嶺，相傳靈運，開山至此，然既經謝屐，那得一亡所經營？故知謝公至斤竹嶺，止爾其東石梁在焉。欹石如槁木倚崖，端洞其下，入可唑百人稍入為層臺，楹而不椽，月竇風牕亦自足翫度所不及。天台者，非得水怒號作雨聲爾。自此為平隩，唯谷口老僧巖，絕似祝髮。曇瞿襍被遊方，肴后纍纍，如二三闍黎附耳。而談經柰何當孔道間鎮日管送迎，良苦矣。石梁無可棲止，亟走宿嶺店郵亭。明日取道海壖而還。夫以鴈宕鉅麗之觀，前人謂裹糧經行，一月出山，未可誇人。余徃以旬日何論窮搜，即意所至，湖若鴈頂，谷若安禪潭，若梅雨應接，猶然未暇安所稱遊哉？然以靈巖之邃焉，而奇龍湫之幻焉，而奇靈峰洞之皚，磊焉而奇，皆落吾目而神與之遇。又記稱秋遊鴈宕，直以春夏苦霧雨故，乃余来自五月行遇雨而登，則霽夕遇雨而朝發，則霽山靈。若余齬者，初地佛子五十三叅要，以取次入元。李孝光言：歲率三四至山中，每一至如遇故人萬里外，余此遊為初地。小叅繼而源源來，則故人萬里握晤山靈顧不當更相賞乎哉？鄭子曰：九州五嶽盖余游。其四云：中嵩盖高不數百丈。東岱高而延袤不百里。西華三峰如掌，恒石如砥，非奄有川澤之奇也，而秩望以嶽稱尊焉。它若環瑋奇絕，如鴈宕諸山，或不得望登封之末盱，又或久而後聞，則何以故？先王畫野建邦，類表大山以為鎮示民不迷，辟之方嶽偉人鎮物承天，寸雲敷澤，輒尊而禮之，以為民望貴其用也。乾坤之氣，欝而不洩，則結而為名。山大川動數百里，與七曜爭奇，或砥狂瀾而障之海，嶔嶇廖廓，使人企而慕而足跡，卒未易攀。有若畸人節士屹立波靡，而韜光深谷以名，繫宇宙之重輕，則不用者貴耳。鴈宕

將母類是夫五嶽登秩，太和晚出而踞其上，鴈宕即聞自近世而名馳寰中為奇棎之士所傾慕，不啻五嶽。盖理貴晚成，不獨山川然哉！令君名子珵，山人名白茂才名九陛記者余縉雲谷潭逸客，鄭汝璧也。

遊雁蕩記

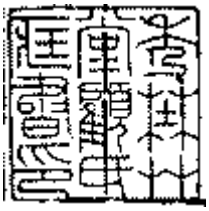
林汝詔(號光璧，叅議，莆田人)

雁蕩為海内奇勝。以僻于浙之東南。嘗槩慕不得見者若干年萬曆己亥秋。余以少叅視事。浙土例當一謁直指。君惟時直指在東甌。則雁宕其境内也。東甌去浙遠。然其間。地僻民醇。城市清楚。人好修餙。引水為池。植竹為林。若城中之華盖峯城外之江心寺。盖別一洞天云。由府四十里至館頭驛五十里。至樂清縣。又五十里。至窑奥驛。有嶺極峻登。高而望。見群山赴海。或起或伏。水碧蒼蒼。漁舟漂渺。俯眺愕眙。令人不能舍去。過此為四十九盤嶺。凡四十九折而至絕頂。亦望見海嶺左有将石。如將軍戎粧掛劍。不數武為能仁寺。前有對仁峯。右有火焰峯。産方竹無尾相。以祖師得道放生。故至今右有鍋大。可容百餘石。豈當唐宋以前未經兵燹緇侶眾集而鼎食者耶。或以焰峯相逼。取水火尅伏之說。亦似可信。然本寺未嘗不煨於火者。過行春橋三里許。懸崖之窩。為飛来羅漢。塑像甚真。相傳以来。自閩之漳越海入山。逢樵者化為石。前有七級。浮屠轉折為寶冠峯高聳形如冠。因以為名下。有寶冠寺羅漢寺。今俱廢矣。越海循溪。有瑞鹿寺有祥雲峯寺。亦廢層巒疊嶂。直至龍湫。皆一石連亘。故亦號連雲嶂。左半崖有閻王鼻。右有風洞。呼嘯則風至。有剪刀峰亭亭。天正視如剪側。視如天柱。對面則大龍湫在焉。懸崖萬。一水直瀉。若匹練垂空。若玉柱漢。非烟非霧。如虹如霓。旱亦長流。潦不驟長。流不附石。洒如輕絲。瀑下如雷。日射五色。以鑼鈸聲之則盛瀑飛舞。变熊不可名状。上有龍潭。下有萬深淵相傳有神物蠖藏其中。大旱土人就此祈雨。每禱輒應湫之前。為詎那觀瀑臺上有不足亭。取古人一生觀不足之意。余與吳郡筆山公同遊其上。因其口佔。偶續一律云。誰開巒嶂透翠微。萬一泓古今稀。素練垂空銀漢落。靈珠凝霧玉龍飛。瀑聲若護風雲色集。霰堪裁霓羽衣最喜日光来。五彩相看。亭側已忘歸背。有白雲庵五臺僧所結。上即雁湖。方可十里。水常不涸。飲濯其中。故以名洞。過馬鞍嶺。望左側。有石門兩崖屹立。如門僧言。其内有巨浸産。金鯉門側有龍井。仰口如瓶居人。嘗夜見赤光焉。有觀音岩普門玉柱等寺。廢址僅存。折而西有靈岩寺。

昔廢巡撫一齋。公檄樂清尹。吳君華者。捐俸鼎搆規制。亦宏廠可觀。左有展旗峯頂珠峰蟾蜍峰。後有霞屏障高廣數百丈。環列如屏色如塗丹堊温泉石室在其上。龕內為龍鼻水石磴盤折而上。可數百步深十餘丈。四圍石色紫中。嵌石作鱗。介狀從下視之。見其脊隆然外露。宛若龍形。盡處作懸鼻滴水。清洌可祛眼疾。附洞有隻鸞峯。卓筆峰。玉女峰劍峰有小龍湫比大湫高可三分之一。寺右為天柱峰。峭直雲表如人翼。又巖立不減剪刀峯云。有僧抱石若僧面以坐。古人所謂坐定幾時還。出定不知窠燕污袈裟者。有鉢盂峰隻筍峰。即神龍聽法之所。有寺今廢隨溪數里許有響。岩人呼則應。鼓吹則聲震。谷中所歷岩岫奇峭不可名識。即僧亦不盡識。云。前望謝公嶺。即靈運蠟屐處也。緣澗有巨石。列幛如屏下有小洞洞口有斷橋下有照膽潭方丈。淵澄莫測不里許。是為靈峰。寺前有靈芝峯。宛如紫芝擎天。又如老僧頂帽以坐。雖鬼工雕斲以加矣。左有獨秀峰。從溪中凌凌立起。右有五老峰。連亘高聳。若斷若連。後有靈峰洞即羅漢洞。两石夾峙。如人合掌入天數千仞。中竅一門深百丈內如廣厦。明塏秀絕躡危磴至寬平處。有大士像。傍列十八羅漢相傳以洞內。昔皆亂石湫隘。有劉姓者捐貲砌臺塑像其中。又賣二女以補不足。夫賣女結緣與捨身奉佛何異。然碑刻不載。豈傳訛耶。洞左有泉下滴唧唧如檐間。秋雨聲下有方池前有瀑如珠。夏不暑冬不寒。雁山之洞。此其傑出者。洞口有隻笋。峰高如笋。尋舊路通謝公嶺有石梁洞洞口一石如梁。穹窿橫跨不可仰攀。內有大士像。亦設十八羅漢。右。一池清洌可愛。則石隨所注。有比丘自稱住此三十年矣。叩其禪宗似不甚通曉。余惜其而未覺也。為之憮然。出洞有老僧岩奇峭可愛。遠望之如老僧對石。近則如披裟前行。傍有二三閣黎。若附耳譚經。然其高百再十里。是為嶺店驛。盖余就足跡所履歷耳目。所覩記者如此。良亦勝遊矣。其他掛漏不計也。說者以寺剎昔稱盛。今滿目斷礎遺墟。僧亦厭客。尋幽探奇留連為已。累乃隱諸名勝。不以告客以為僧病。又以使轍頻煩供億靡費。令百姓奔走絕命。相與疾視厥山為尤物。以為山病。夫病僧則尤人。病山則尤天。愚以為乾坤既奠洪荒既闢其間。峙者為山流者為川。大塊設奇。天地何心。豈易剝之數。盛者必衰。衰者復盛。勢若循環籍三百年。輪廻之後。安知廢寺不再興耶。是尤於天者固非。而尤於人者亦非獨恠吾輩受君之祿享民之奉。忘國卹而逐世娛至令百姓廢耕桑治道。牽馬縣官供粻。恐後民睊(睊)視此心為尤物。如樸溪潘氏所云也。則吾輩大非矣。予因登覽之暇。不能無慨于中。于是作鴈蕩記。是遊也。同行者大叅菴山劉公則己亥之六月念一日。

鴈山志後跋

余不肖樸遫，闇淺承乏。樂成域中有雁蕩諸山之勝，諸貴人逸士驅車挾策所經遊者，靡不嘖嘖稱奇絕云。不肖素聞其槩，至邑累月，曾弗一徃，非惟不暇，亦有所不敢也。迨司理胡公以鼇臺之命，查盤蒞下邑，始得登此山，裴徊焉。嗣以二院經臨一舟至其地，亦弗暇一觀也。公餘稍取山志繙閱，彼其巖洞泉谷、寺剎景物、花草禽魚，與夫記傳詩賦之類，盖井然煥然，稱大備哉。昔人謂天下之治亂，驗于洛陽；洛陽之盛衰，驗于園囿。自宋至國，朝鴈山之盛衰屡矣。方……



聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6